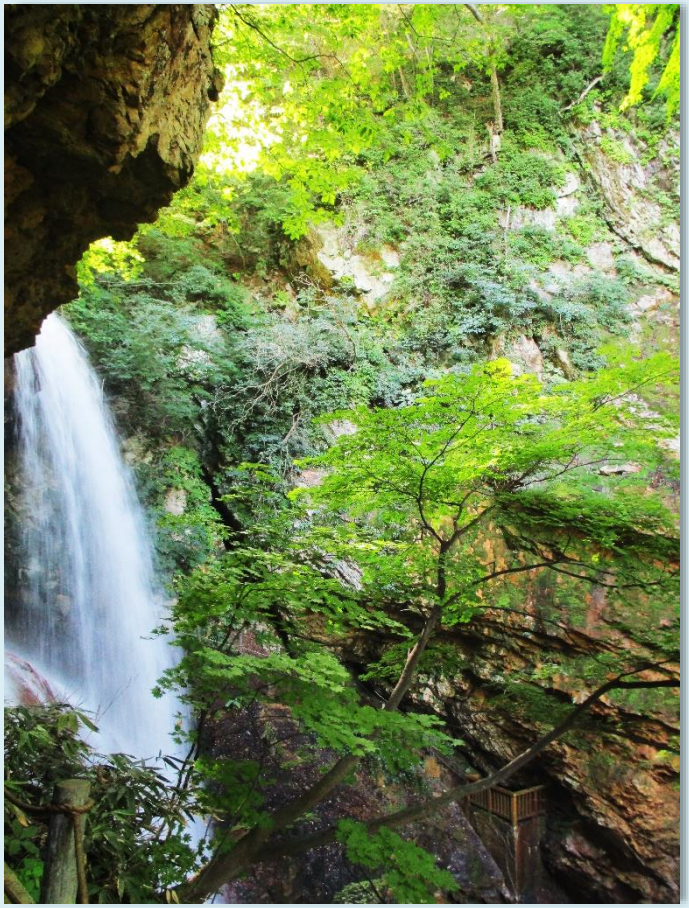
令和６年度

(2024 年度)

# 教育課程編成・学習指導の基本



長 野 県 教 育 委 員 会

学 び の 改 革 支 援 課

# ま　え　が　き

学校現場では，新型コロナウイルス感染症の５類感染症への移行を受け，これまで制限されてきた教育活動のうち，真に必要なものを積極的に実施するとともに，コロナ禍における多様な教育実践の工夫を生かし，さらに進化を図っていく取組が進められていることと思います。また，本年度は，現行学習指導要領（平成 29 年告示）が全面実施されてから，小学校で５年目，中学校で４年目を迎えます。本年度中に，中央教育審議会に対する次期学習指導要領改訂に係る文部科学大臣諮問が想定される中，現行学習指導要領の趣旨を踏まえた実践を，より確かなものにしていくことが求められています。

現行学習指導要領には，変化が激しく，予測が困難な時代を力強く生き，質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出すことにつながる資質・能力が示されています。１人１台端末の活用も含め，改めて学習指導要領に立ち返り，子供たちに育成すべき資質・能力について確認することが重要であると感じています。

長野県教育委員会では，令和５年３月，第４次長野県教育振興基本計画を策定しました。その趣旨に基づき，令和６年度の教育課程・学習指導改善の目標を昨年度に引き続き，「一人の子どもも取り残されない『多様性を包み込む』学びの推進」とし，三つの重点を「探究する授業」「共創する教育課程」「つながる学校」と据えました。

本冊子では，教育課程・学習指導改善の目標と重点を踏まえ，単元や題材の展開の中で，どの場面で，どのように評価し，指導の改善につなげていったらよいのか，学びの充実につながる ICT の活用はどうあったらよいのか等について，教科ごとに具体例を挙げてまとめています。授業改善に取り組まれる先生方の一助としていただければ幸いです。

長野県では，長きにわたり子供の「問い」や「願い」等に基づき，子供が主体的に追究していく学習を大切にした実践を積んできました。今，真の意味での「子供を主語にした学び」を考えるとき，これまで私たちが大切にしてきた「学び」の価値を見つめ直すことが重要であると思えてなりません。

全ての学校で，子供たちが自ら求め学ぶ姿がさらに広がることを願っています。

長野県教育委員会事務局　学びの改革支援課長

臼井　学

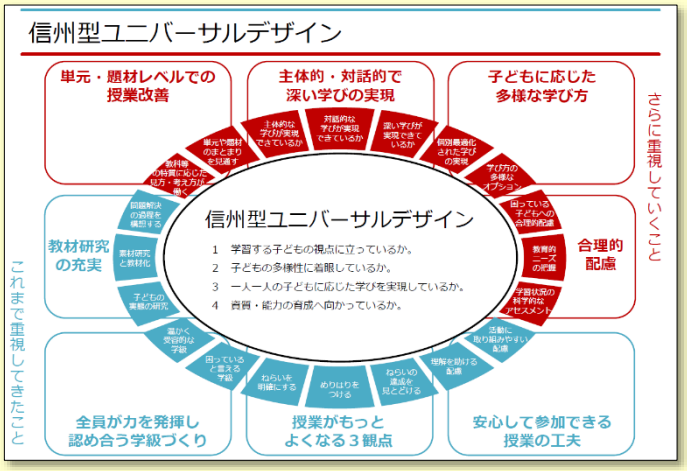
# 目　　次


| 項　目（頁） | | 信州型ＵＤに関連する窓口 |
|---|---|---|
| まえがき | | |
| Ⅰ　教育課程・学習指導改善の指針 | | |
| 1　目標 | （1） | |
| 2　令和６年度教育課程・学習指導改善の目標と目指す学びの改革 | （2） | |
| 3　令和６年度教育課程・学習指導改善の三つの重点とその具体 | （3） | |
| 4　学習指導改善の重点 | | |
| （1）主体的・対話的で深い学びの実現に向けて | （6） | 深い学び　単元レベル |
| （2）本県の成果と課題，改善の方向 | (10) | 深い学び　多様な学び |
| （3）教材研究の充実 | (12) | 3観点　教材研究 |
| （4）学習評価の充実 | (14) | 深い学び　単元レベル |
| （5）１人１台端末等の ICT の活用 | (16) | 多様な学び　深い学び |
| （6）幼保・小・中・高を貫いた探究的な学びの充実 | (18) | 単元レベル　教材研究 |
| （7）信州型ユニバーサルデザインの活用 | (20) | |
| Ⅱ　教育課程・学習指導改善の基盤 | | |
| 1　学級づくりの基本 | (21) | 学級づくり　合理的配慮 |
| 2　通常の学級における特別支援教育の充実 | (23) | 授業の工夫　合理的配慮 |
| 3　人権尊重の視点に立った学校づくり | (26) | 学級づくり　授業の工夫 |
| 4　長野県教員育成指標について | (28) | |
| Ⅲ　各教科等の指導・改善の重点 | | |
| ・ページの見方 | (29) | |
| 1　国語 | (30) | |
| 2　社会 | (32) | |
| 3　算数・数学 | (34) | |
| 4　理科 | (36) | |
| 5　生活 | (38) | |
| 6　音楽 | (40) | |
| 7　図画工作・美術 | (42) | |
| 8　体育・保健体育 | (44) | |
| 9 ⑴家庭、技術・家庭（家庭分野） | (46) | |
| 9 ⑵技術・家庭（技術分野） | (48) | |
| 10　外国語活動 | (50) | 教材研究　深い学び　単元レベル　多様な学び |
| 11　外国語 | (52) | |
| 12　特別の教科　道徳 | (54) | |
| 13　総合的な学習の時間 | (56) | |
| 14　特別活動 | (58) | |
| 15　自立活動（特別支援教育） | (60) | |
| 16　健康教育 | (62) | |
| 17　幼年教育 | (64) | |
| 18　プログラミング教育 | (66) | |
| 19　キャリア教育 | (68) | |
| 組織 | (70) | |
| 令和６年度　学校支援の基本方針 | (75) | |


## 信州型ユニバーサルデザイン（信州型UD）に関連する窓口について

上記の目次に、関連する信州型ユニバーサルデザイン（信州型ＵＤ、詳細は 20 ページ）の主な窓口を示しています。

- 3観点　授業がもっとよくなる３観点
- 学級づくり　全員が力を発揮し認め合う学級づくり
- 授業の工夫　安心して参加できる授業の工夫
- 教材研究　教材研究の充実
- 深い学び　主体的・対話的で深い学びの実現
- 単元レベル　単元・題材レベルでの授業改善
- 合理的配慮　合理的配慮
- 多様な学び　子どもに応じた多様な学び方



# Ⅰ　教育課程・学習指導改善の指針

## １　目標

令和５年度，本県では，第４次長野県教育振興基本計画を新たに策定し，目指す姿を「個人と社会のウェルビーイングの実現～一人ひとりの「好き」や「楽しい」，「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び～」と据えました。

**第４次長野県教育振興基本計画**

**目指す姿**

**個人と社会のウェルビーイングの実現**

～一人ひとりの「好き」や「楽しい」，「なぜ」をとことん追求できる「探究県」長野の学び～

**柱**

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- 一人ひとりが主体的に学び他者と協働する学校をつくる
- 一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境をつくる
- 生涯にわたり誰もが学び合える地域の拠点をつくる
- 文化芸術・スポーツの身近な環境を整え，共感と交流が生まれる機会をつくる

また，現行学習指導要領（平成 29 年告示）は以下のような考え方をもとに改訂されています。

**現行学習指導要領の改訂の基本的な考え方**

○　教育基本法，学校教育法などを踏まえ，子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を確実に育成し，求められる資質・能力とは何かを社会と共有し，連携・協働する「社会に開かれた教育課程」を重視
○　知識の理解の質をさらに高め，確かな学力を育成
○　道徳教育，体験活動，体育・健康に関する指導の充実により，豊かな心や健やかな体を育成

県教育委員会では，これらを踏まえ，令和６年度の学校教育における教育課程・学習指導改善の目標を以下のように設定し，目標実現のために目指したい学びの改革の姿と具体的な取組の重点を据えました。

令和6年度　教育課程・学習指導改善の目標

**一人の子供も取り残されない「多様性を包み込む」学びの推進**

〈目指す学びの改革〉

子供たちが主体的に学び，仲間と共に解を導き出す学びへの転換

**重 点 1**
資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
**「探究する授業」**

**重 点 2**
カリキュラム・マネジメントの充実による教育活動
**「共創する教育課程」**

**重 点 3**
家庭や地域社会との連携・協働
**「つながる学校」**

## ２　令和６年度　教育課程・学習指導改善の目標と目指す学びの改革

**目　標**

# 一人の子供も取り残されない「多様性を包み込む」学びの推進

子供の多様化が進む今日，「一人の子供も取り残されない『多様性を包み込む』学び」を進めることは学校教育の根本であり，全ての子供たちの資質・能力を最大限育成することは私たち教員の使命です。そのためには，育成を目指す資質・能力を明確にした上で，子供の興味・関心，認知や発達の特性等を踏まえ，一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供するとともに，子供たちが学ぶ意欲を高め，自分なりの学び方を身に付け，やりたいことを深められる教育を実現できるよう取り組むことが大切です。

また，中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申）」（令和３年１月）では，「児童生徒が多様化し学校が様々な課題を抱える中にあっても，義務教育において決して誰一人取り残さない，ということを徹底する必要がある。」と記されています。

これらのことから，「一人の子供も取り残されない『多様性を包み込む』学びの推進」を目標としました。

次に，「目指す学びの改革」についてです。本県では，学校の教育活動を進めるにあたって，知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を育むことを目指してきました。

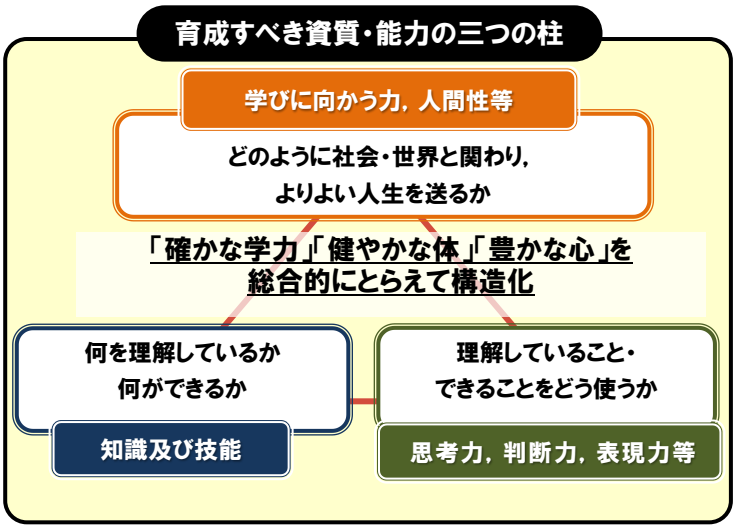
**〈生きる力〉**

基礎・基本を確実に身に付け，いかに社会が変化しようと，自ら課題を見付け，自ら学び，自ら考え，主体的に判断し，行動し，よりよく問題を解決する資質や能力，自らを律しつつ，他人とともに協調し，他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性，たくましく生きるための健康や体力

（平成８年中央教育審議会答申）

今次学習指導要領改訂では，複雑で予測困難な時代の中でも，よりよい社会と幸福な人生を切り拓き，未来の創り手となることができるよう，子供たちに「生きる力」を育成することが重視されました。

そこで，現行の学習指導要領では，「生きる力」がより具体化され，教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力が三つの柱で整理されました（右図）。これらの資質・能力が偏りなく育成されるためには「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要です。




一人の子供も取り残されることなく，全ての子供に「生きる力」を育むために，一斉一律の教育活動から脱却し，子供たちが主体的に学び，仲間と共に解を導き出す学びへの転換を一層進めていかなければなりません。

**〈目指す学びの改革〉**

子供たちが主体的に学び，仲間と共に解を導き出す学びへの転換

## ３　令和６年度　教育課程・学習指導改善の三つの重点とその具体

**重点1**

### 資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善　「探究する授業」

「探究する授業」とは，従前，重点１として取り組んできた「問いのある授業」が充実し，発展的に連続することによって実現するものであると考えています。「探究する授業」を通して，「子供たちが自ら問いを見いだし，問いの解決に向けて個人で，あるいは他者と協働しながら追究し，解を導き出したり新たな問いを見いだしたりする姿」が全ての教室で見られることを願っています。

では，「探究する授業」とはどういったことから生まれるのでしょうか。詳しく見ていきたいと思います。

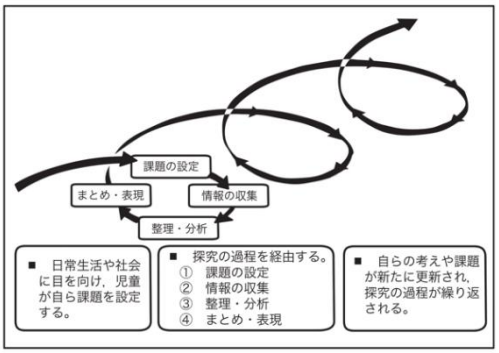
長野県では，これまで「子供と共に創る授業」を大切に考えてきました。

**〈子供と共に創る授業〉**
・子供の「問い」や「願い」「気付き」「考え」などに基づき，子供が主体的に追究していく学習
・子供が学ぶことの楽しさやよさを感じる学習，実感を伴った学習

この「子供と共に創る授業」の考え方は，学習指導要領の趣旨や理念とも重なってきます。むしろ，教育の「不易」な部分と言えるでしょう。長野県で行われてきた，子供に発し子供に還る優れた授業実践には，「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点が，共通に，そして普遍的な要素として存在していました。

子供が主体的に追究していくには，「問い」や「願い」があることが大切です。子供は本来，「あれ？」「どうして？」「知りたい」「やってみたい」という知的欲求をもっています。その「問い」や「願い」が課題対決に向けた追究の原動力になります。したがって，教科等の学習では，学習対象となる事象などとの出会いや学習課題の設定過程を工夫すること，追究の過程で子供たちが学び方を選択できるようにすることなどが大切になります。

**探究的な学習における児童（生徒）の学習の姿**



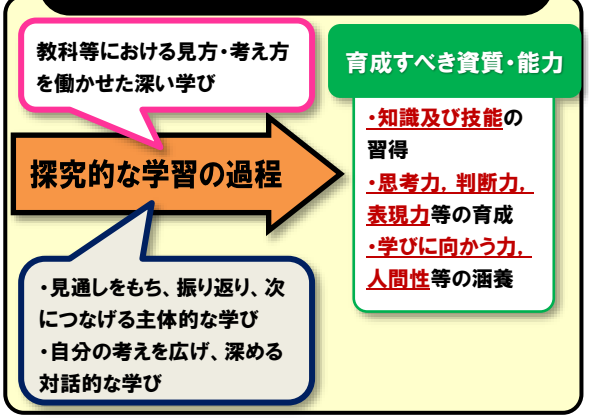

小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編（(　) 内は中学校編）

右の図は，総合的な学習の時間の，探究的な学習における児童の学習の姿を表したものです。日常生活や社会に目を向け，課題を設定した子供が，課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現といった学習過程を経由し，自らの考えや課題が新たに更新され，探究の過程が繰り返される様子が示されています。こうした学びの姿は，総合的な学習の時間に限らず，資質・能力の育成に当たっては，どの教科等においても大切にしたいところです。その際，各教科等の「学習過程のイメージ」を参考にしましょう。

（【参考】中教審「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1380731.htm　）

本来，子供たちは，自分の解決したい課題を探究していくと，さらに調べたいことや，新たな問いが現れ，探究の過程が連続していくようになります。そのとき，一人一人の子供が，その子なりに働かせている見方や感じ方，考え方等と，各教科等における見方・考え方を関わらせて学びを深められるようにしていくことが欠かせません。その過程を充実させ，学びの質を高めるための授業改善の視点が「主体的・対話的で深い学び」です。資質・能力の育成に向けて，「探究する授業」を，子供と共に創っていきましょう。

**育成すべき資質・能力と授業改善の関係**



重点2

## カリキュラム・マネジメントの充実による教育活動　「共創する教育課程」

これまで，「みんなの教育課程」としてきた重点を，昨年度より「共創する教育課程」としました。「みんなの教育課程」には，教職員，保護者，地域社会「みんな」で教育課程を創っていくこと，子供たち「みんな」のための教育課程にすることの二つの意味が込められていました。この二つの意味を大切に継承した上で，教職員や保護者，地域社会はもちろん，子供たちも含め，共に創り，より魅力のあるものにしていくことを目指していきたいと考えています。

子供と共に創るという点から考えてみると，教師側からの一方的な押し付けではなく，子供の実態を踏まえた，子供のための教育課程でなければなりません。「共創する教育課程」を実現していくためには，カリキュラム・マネジメントの充実が欠かせません。

**〈カリキュラム・マネジメント〉**
子供の実態を適切に把握し，教育課程を教科等横断的な視点で組み立て，評価・改善を図ることを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと

カリキュラム・マネジメントを推進していくためには，「つなげる」ことが必要です。大きな枠組みとしては，まず，学校と地域社会をつなげることが考えられますが，これについては重点３「つながる学校」として取り上げていますので，次ページを参照してください。ここでは，もう少し小さな枠組みで考えてみましょう。例えば，教職員と保護者をつなげること，教科学習と学校行事をつなげること，教科と教科をつなげること，校務と財務をつなげること等，様々に考えることができます。

したがって，自校の状況を踏まえ，何と何を，どのようにつなげ，どのような効果や成果を期待するのかを明確にしていくことが，カリキュラム・マネジメントの充実を図る際には大切です。これを明確にした取組が PDCA サイクルを動かす原動力となり，教育課程を共創する確かな基盤を築くことになると考えています。

**カリキュラム・マネジメントの三つの側面**

1. 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく
2. 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
3. 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこ

長野県ではこれまでも，学校教育目標を達成するため，校長の方針の下に全教職員で，共に理解できるグランドデザインを作成し，日常の教育活動に生かすことなどを工夫し，「魅力ある教育課程」の編成を実施するなど，「カリキュラム・マネジメント」を進めてきました。その際，例えば，総合的な学習の時間などを中心とし，教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を核とした学校づくりが行われるなど，上に挙げた三つの側面を踏まえて，資質・能力の育成を教育課程の中で適切に位置付ける実践が行われてきました。

右の文章は，長野県の教員の大先輩が 30 年以上前に書かれたものです。子供たちの個性は千差万別。長野県の教員は，子供たち一人一人を受け止めながら，きめ細かな支援をしてきました。私たちは，日頃の様子や各種調査等をもとに「診断的評価」を行い，様々な手立てを準備し支援する際に，学びの主体である子供を主語にして課題を見出してきたことに，あらためて注目したいと思います。「一人の子供も取り残されない教育」を目指し，いま求められているのは，こうした取組を組織的かつ計画的に実施することです。学校内外の人的又は物的な環境を確保することも視野に入れ，カリキュラム・マネジメントの充実を進めましょう。

**特に傍若無人な二人の子どもには手を焼いた。授業中、自分の席に着いていることができない。歩き回る。奇声大声を発する。**
**しかし、よくよくその子どもたちを見ていると、興味がもてずに、困っていたのだ。私は、この子たちのそれぞれにふさわしい教材と活動を準備することにした。（要約）**

重点3

## 家庭や地域社会との連携・協働　「つながる学校」

長野県では，期待感や充実感がもて，仲間と共に生活する喜びやたくさんの感動が生まれる「楽しい学校」を，子供・保護者・地域の方と一緒に創ってきました。

また，これまで築き上げてきた，学校と地域が連携して子供を育てる取組を土台にして，新たに地域住民が，① 学校運営参画 ② 協働活動 ③ 学校評価 を一体的・持続的に実施していく仕組みをコミュニティスクールとして整え，学校と地域住民の協働による地域とともにある学校づくりを進めています。社会と連携して子供を育てていくためには，コミュニティスクールの仕組みを生かしていくことが大切です。

さらに，今回の学習指導要領の改訂の基本的な考え方に，「子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し，連携する『社会に開かれた教育課程』を重視する」ということがあります。

**社会に開かれた教育課程**

**“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し，連携・協働しながら，新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む**

そのために重要になるのが，学校・家庭・地域の連携・協力体制の構築です。体制の構築に当たっては，「熟議」と「協働」の視点をもって，共有の好循環を作ることが必要です。

**つながる学校**

**①情報・課題・目標・ビジョンの共有【熟議】**

**学校の教育目標や教育方針，それについての現状や課題，ビジョンについて，多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねる**

**つながる学校**

**②アクション・実践の意味の共有【協働】**

**同じ目的・目標に向かって，互いの立場を尊重しつつ協力して共に働く。「計画→実行→評価→改善」の過程の中で実践の意味を検討し合い，PDCA サイクルの質を高める**

「つながる学校」では，地域と学校が，子供たちの学びのみならず，地域社会全体の活動の充実のために，塾議し，協働し，活動後の評価をして，また次の取組につなげていくというサイクルを生みだしていくことが重要です。その際，学校教育目標を家庭や地域と共有し，共通理解の基，教育活動を充実させていくということが必要です。家庭や地域社会と相互に共に学んでいく土壌をつくりましょう。

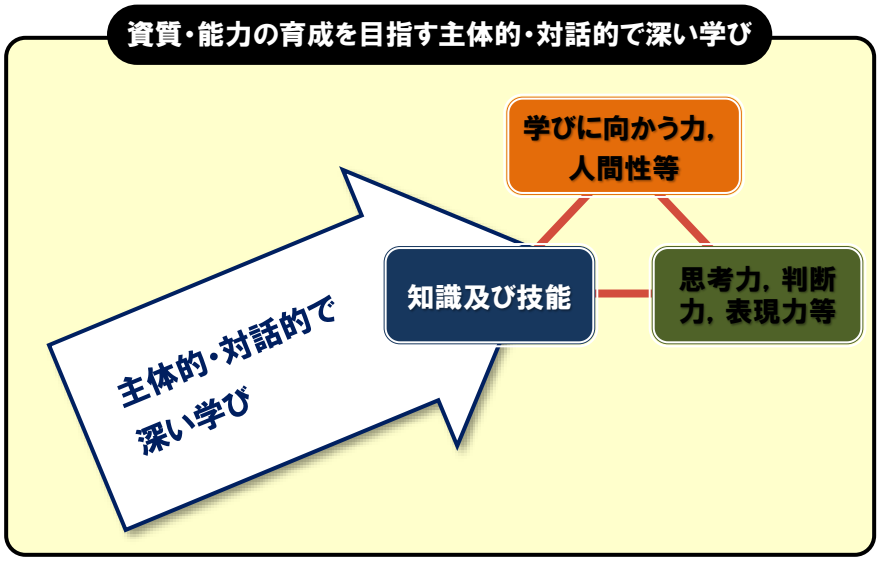
また，校種間で「つながる」ことも重要です。就学前の様子はどうだったのか，進学後はどうなのか，幼保・小・中・高の連携も推進していきましょう。子供たちの多様な成長を長いスパンで見ていくことが必要です。地域社会にとって，公立の小中学校，義務教育学校は，学齢期の子供の学びの場としての存在にとどまらず，地域の方々が集う場，また，文化が継承される場など，様々な価値を有しています。「つながる学校」を具現することによって，地域の未来の創り手を，地域とともに育てていきましょう。

## 4　学習指導改善の重点

### （１）主体的・対話的で深い学びの実現に向けて

学習指導要領では，育成を目指す資質・能力として，「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」が示されています。この三つが偏りなく実現されるための授業改善の視点が「主体的・対話的で深い学び」です。

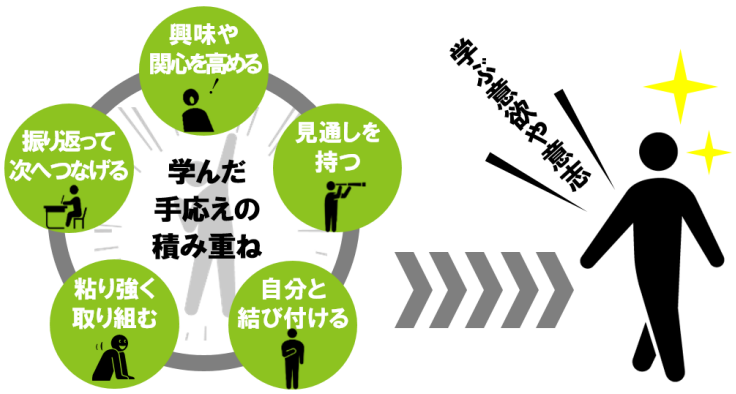
これらは授業の「型」ではありません。子供たちが，学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し，これからの時代に求められる資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的に学び続けられるようにすることが目的であり，そのための授業改善の視点が「主体的・対話的で深い学び」であることに留意が必要です。




#### ①「主体的な学び」を視点とした授業改善のポイント

**学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。**

**（「学習指導要領解説　総則編」より）**



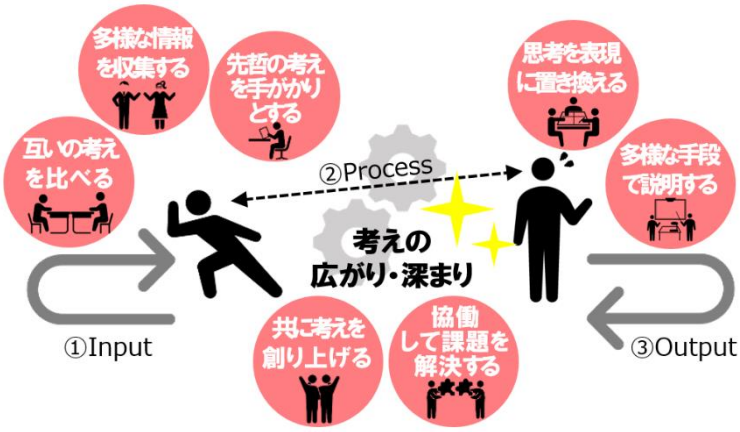

「主体的な学び」の視点からは，「興味や関心を高める」「見通しをもつ」「自分と結び付ける」「粘り強く取り組む」「振り返って次へつなげる 」などの子供の姿がイメージできます。このように学んだ手応えを積み重ねていくことは，子供の学ぶ意欲や意志の涵養につながります。

このような姿を実現するために，子供にとって本気になれる学習問題や学習課題が設定されているか，解決のために必要な情報が手に入れられる環境が整っているか，課題解決に向けた多様なアプローチが保障されているか，振り返りの時間は保障されているか，また，自己の変容を自覚できるような振り返りになっているか等を見直してみましょう。

## ②「対話的な学び」を視点とした授業改善のポイント

**子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。**

**（「学習指導要領解説　総則編」より）**




「対話的な学び」の視点からは，必要な情報や知識を取り込む（インプット）姿，得た情報等を既有のものと結び付けるなど，情報処理をする（プロセス）姿，そして，疑問や気付き，新たに創り上げた考え等を他者へ伝える（アウトプット）姿がイメージできます。

このような姿を実現するために，他者と対話する必然性のあるテーマが設定されているか，自分の考えを創り上げる時間は確保されているか，多様な考えに触れられるようなメンバー構成や人数になっているか，対話で扱う情報の質と量は適切か，互いの思考が可視化・操作化する工夫はされているか等を見直してみましょう。

## ③「深い学び」を視点とした授業改善のポイント

**習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。**

**（「学習指導要領解説　総則編」より）**

「深い学び」の視点からは，学んだことを子供自身が関連付け，体系化しながら，教科等の本質に迫っていく子供の姿がイメージできます。このような学習過程を通して，例えば，知識及び技能では，異なる様々な場面でも活用できる「生きて働く知識・技能」として身に付けることができます。

このような姿を実現するために，単元（題材）のゴールイメージは明確になっているか，そのゴールイメージは資質・能力の三つの柱が偏りなく育成されているか，そのゴールに至るまでの学習過程で「見方・考え方」を働かせている子供の姿がイメージできているか，子供はどの場面でどの資質・能力を身に付けるか，また，知識や技能をどの場面でどのように活用するか等を見直してみましょう。

## 参考　各教科等の特質に応じた「見方・考え方」（「深い学び」の鍵となるもの）

※　各教科等の学習指導要領解説・中央教育審議会「答申」より県教育委員会が作成。

※　「見方・考え方」は，固定的なものとして捉えず，学習内容等に応じて柔軟に考えることが重要です。

| | | |
|---|---|---|
| 言葉による見方・考え方 | | 対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること |
| 社会的な見方・考え方 | 社会的事象の見方・考え方（小学校） | 位置や空間的な広がり，時期や時間の経過，事象や人々の相互関係などに着目して（視点），社会的事象を捉え，比較・分類したり総合したり，地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること（方法） |
| | 社会的事象の地理的な見方・考え方（地理的分野） | 社会的事象を位置や空間的な広がりに着目して捉え，地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で，人間の営みと関連付けること |
| | 社会的事象の歴史的な見方・考え方（歴史的分野） | 社会的事象を時期，推移などに着目して捉え，類似や差異などを明確にし，事象同士を因果関係などで関連付けること |
| | 現代社会の見方・考え方（公民的分野） | 社会的事象を政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること |
| 数学的な見方・考え方（算数） | | 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に筋道を立てて考え，統合的・発展的に考えること |
| 数学的な見方・考え方（数学） | | 事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的に考えること |
| 理科の見方・考え方（小学校） | | 自然の事物・現象を下のような視点で捉え，問題解決の過程の中で用いる，比較，関係付け，条件制御，多面的に考えること<br>＊「エネルギー」を柱とする領域では，主として量的・関係的な視点<br>＊「粒子」を柱とする領域では，主として質的・実体的な視点<br>＊「生命」を柱とする領域では，主として多様性・共通性の視点<br>＊「地球」を柱とする領域では，主として時間的・空間的な視点 |
| 理科の見方・考え方（中学校） | | 自然の事物・現象を，質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え，比較したり，関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること |
| 身近な生活に関わる見方・考え方 | | 身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉え，よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること |
| 音楽的な見方・考え方（小学校） | | 音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や文化などと関連付けること |
| 音楽的な見方・考え方（中学校） | | 音楽に対する感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，生活や社会，伝統や文化などと関連付けること |

| | |
|---|---|
| **造形的な見方・考え方（図画工作）** | 感性や想像力を働かせ，対象や事象を，形や色などの造形的な視点で捉え，自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと |
| **造形的な見方・考え方（美術）** | よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や，想像力を働かせ，対象や事象を造形的な視点で捉え，自分としての意味や価値をつくりだすこと |
| **体育の見方・考え方** | 運動やスポーツを，その価値や特性に着目して，楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え，自己の適性等に応じた『する ・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること |
| **保健の見方・考え方** | 個人及び社会生活における課題や情報を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や生活の質の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること |
| **生活の営みに係る見方・考え方（家庭）** | 家族や家庭，衣食住，消費や環境などに係る生活事象を，協力・協働，健康・快適・安全，生活文化の継承・創造，持続可能な社会の構築等の視点で捉え，よりよい生活を営むために工夫すること |
| **技術の見方・考え方** | 生活や社会における事象を，技術との関わりの視点で捉え，社会からの要求，安全性，環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること |
| **外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方** | 外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること |
| **探究的な見方・考え方（総合的な学習の時間）** | 各教科等における見方・考え方を総合的に活用して，広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え，実社会・実生活の課題を探究し，自己の生き方を問い続けること |
| **集団や社会の形成者としての見方・考え方（特別活動）** | 各教科等の見方・考え方を総合的に働かせながら，自己及び集団や社会の問題を捉え，よりよい人間関係の形成，よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付けること |
| **道徳科における見方・考え方**は示されていませんが，道徳科の学習を進めるに当たっては，小学校では，自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の生き方について考えを深めること（中学校では，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方について考えを深めること）が求められています。 | |

〔参考〕

文部科学省　小学校学習指導要領解説

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm

文部科学省　中学校学習指導要領解説

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm

## （２）本県の成果と課題，改善の方向

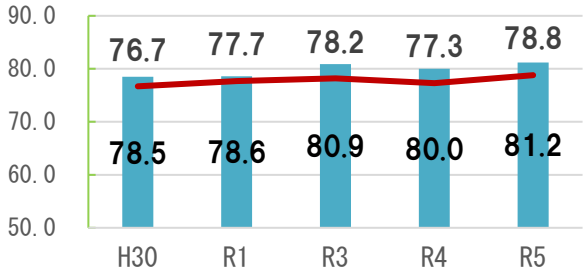
### ①　「主体的・対話的で深い学び」の実現状況について

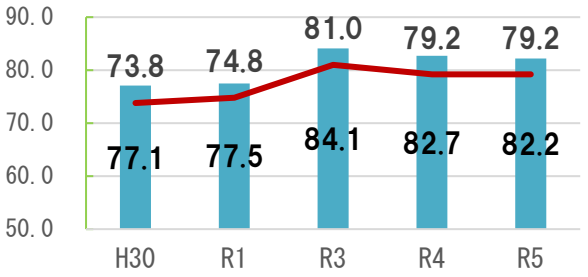
「主体的・対話的で深い学び」に関わる，全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙調査）の回答状況について，肯定的回答（「当てはまる」，「どちらかといえば当てはまる」）の過去６年の経年変化は次のようになっています。（令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により全国学力・学習状況調査は中止）

（・「当てはまる」，「どちらかといえば当てはまる」を合わせた回答の割合
・各項目の左が小学校，右が中学校の調査結果）

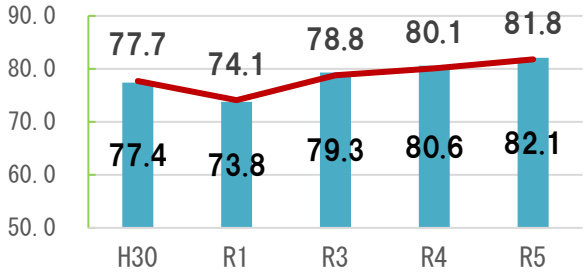
全国
長野県

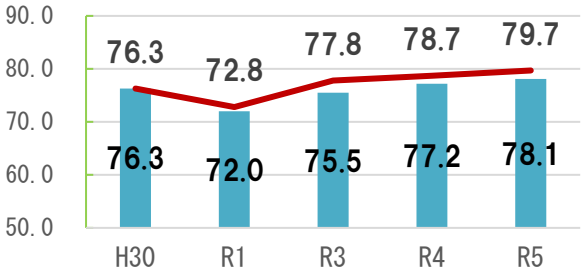
**（ア）課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいる。**



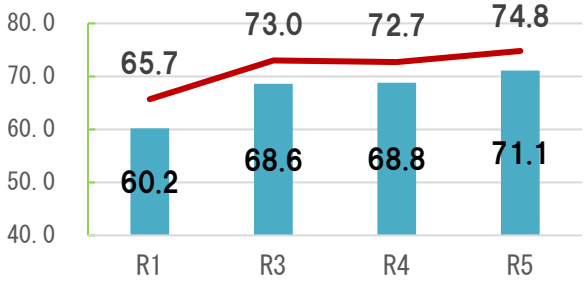



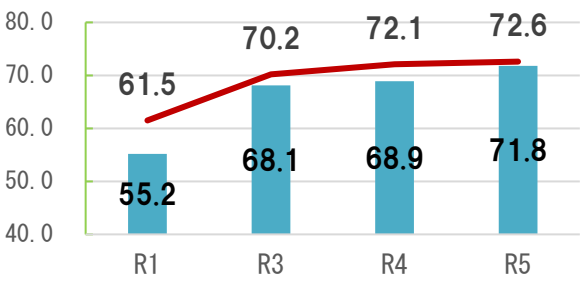

**（イ）児童生徒の間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり広げたりすることができている。**




**（ウ）総合的な学習の時間では，自分で課題を立てて情報を集め整理して，調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。**（H30 質問項目なし）

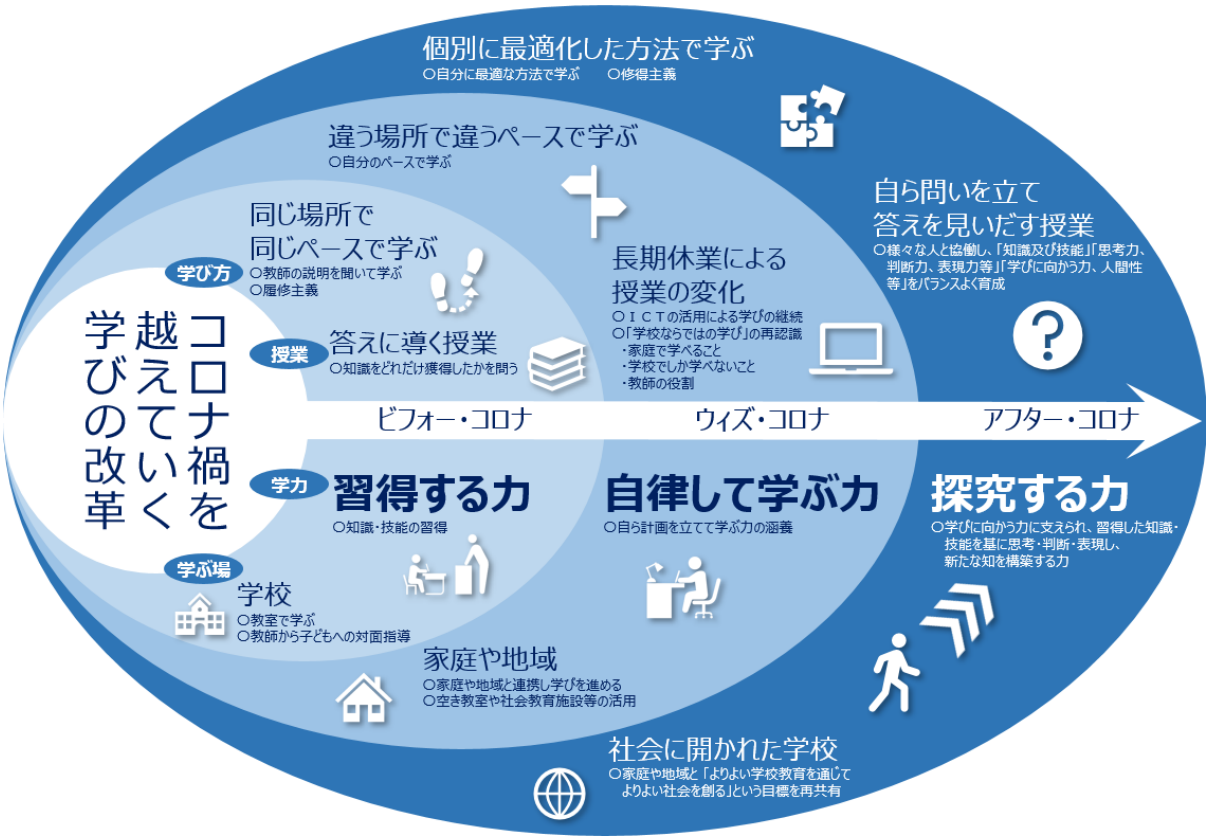



自分で考え，自分から取り組んでいる児童生徒の割合は，全国平均よりも高い状況が続いています。話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりできている児童生徒の割合は，小中共に増加の傾向ではありますが，小学校では全国と同程度，中学校では全国平均より低い状況が続いています。また，総合的な学習の時間における探究的な学習の過程を踏まえた学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合は，小中共に増加の傾向ではありますが，全国平均より低い状況が続いています。

## ②　コロナ禍を越えていく学びの改革

県教育委員会では，学校現場における「新型コロナウイルス感染症による臨時休業や感染症拡大防止への対応」と「現行学習指導要領の全面実施に向けた取組の推進」の両面から，今までどおりを見直し，学びの改革を進めていく機会となるよう，令和２年度から，県内の児童生徒が目指す学びを共有するため，下図「コロナ禍を越えていく学びの改革」を示してきました。




コロナ禍においては，家庭等で自ら計画を立てて学ぶ力としての「自律して学ぶ力」が求められました。これは，現行学習指導要領に示されている「学びに向かう力，人間性等」の涵養とも深く関わっています。そこで，アフター・コロナでは ，一人一人の学びに向かう力に支えられ，習得した知識や技能を基に思考，判断，表現し，更に新たな知識や技能を習得したり，価値を生み出したりする，新たな知を構築する力（探究する力）の育成を目指すこととしました。

そこで授業では，教師が児童生徒を決められた答えに導く授業から，児童生徒が自ら問いを立て，他者と協働する中で答えを見いだす授業への改革を目指します。その際，家庭で学べることと学校でしか学べないことを明確にした授業改革，さらに教師が担う役割も見直す必要があります。学び方では，ICT の活用等により，学校の中の同じ場所，同じペースでの学びのみでなく，違う場所，違うペースでの学びが可能となってきていることを踏まえ，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指します。学ぶ場としては，学校の教室のみでなく，家庭や地域も大切な場となることが想定されます。これからは，学校が社会に開かれ，家庭や地域と目標を共有して様々な場で学ぶ姿に変わっていくと考えます。

これらを長野県の児童生徒が目指す学びの姿として共有し，ICT を活用した遠隔学習や，学校，家庭，地域等での学びを充実させ，学びの改革を進めていきましょう。

## （３）教材研究の充実

### ①「子供」「教材(題材)」「学習の過程」の三つの視点に基づく教材研究

授業づくりにおいては，学習指導要領に示された，育成を目指す資質・能力を確認し，教科等の特質に応じた「見方・考え方」を踏まえた上で，「子供」「教材（題材)」「学習の過程」の三つの視点から教材研究をしましょう。また，１人１台端末等の ICT 機器の利用の面からも教材研究を進めましょう。

学習指導要領に示された目標及び内容を確認

| | 教材研究のポイント | ICT 機器の利用 |
|---|---|---|
| 子供 | **素地となる資質・能力の把握**<br>本単元（題材）で扱う素地となる「知識及び技能」の習得状況はどうか，素地となる「思考力，判断力，表現力等」の育成状況はどうか。<br>**友や教師との関わり方の理解**<br>追究が行き詰ったとき，どのように打開しようとするか，友や教師の力を借りようとするのはどのようなときか。<br>**学級集団の理解**<br>個々の子供の実態を関連的・総合的に見つめ直し，学級の特色をつくり出している人間関係や子供の学習に対する姿の傾向性はどうか。 | **基本操作の習得状況**<br>・キーボード入力の速度<br>・クラウドの活用<br>・インターネット上の情報検索・閲覧<br>・情報の送受信や共有<br>**ICT を使った学習経験**<br>・文章の編集や図表の作成<br>・多様な手段での情報収集<br>・収集した情報の共有<br>・文章や図表の同時共同編集<br>・まとめ，発表 |
| 教材(題材) | **素材の研究**<br>単元（題材）目標に照らして，基礎的・基本的な内容を充足する素材かどうか。単元（題材）で育成する「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」を育む学習に適しているか。また，継続的・発展的に追究でき，個々の発想を十分に生かせる素材かどうか。<br>**教材化の研究**<br>素材について，各教科の特性に応じてどのような視点で捉え，それらをどのように思考して追究することができるか。どのような資料等の扱い方により，子供の気付きや疑問が生まれ，学習問題につながるか。また，有効な ICT の活用の仕方はどうか。 | **使用する場面**<br>・情報収集の必要性<br>・情報整理･分析のしやすさ<br>・情報のまとめ・発信のしやすさ<br>・情報共有の必要性<br>**使用するアプリ**<br>・使用場面に適したアプリの選択<br>・アプリを使って同時共同編集したり，情報を整理・分析したりするなど，クラウドを利用 |
| 学習の過程 | **学習の過程の構想**<br>①どのような**単元（題材）**の流れにするか。<br>②**資料や事象等との出合い**はどうするか。<br>③どのような**学習問題**を，どのように設定するか。<br>④どのような**学習課題**が，どのように把握されるか。<br>⑤どのような学習活動をして，どう**追究**するか。<br>⑥どのようなことを，どう**まとめ**，**一般化する**か。<br>**主体的･対話的で深い学び**<br>本単元（題材）を通して育成を目指す資質・能力が偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，児童生徒の主体的･対話的で深い学びの実現できる過程となっているか。 | **一斉学習の場面**<br>・分かりやすい教材提示<br>・クラウドを利用した双方向型の学習の日常化<br>**協働的な学習の場面**<br>・多様な考えに触れる工夫<br>・考えなどを共有し，深めていく工夫<br>**個別最適な学習の場面**<br>・目的に応じた調べ学習<br>・学習状況に応じた学習<br>・各自で学習履歴を記録 |

## ② 授業がもっとよくなる3観点

**ねらいを明確に**　**学習問題（課題）を黒板等に分かりやすく示しましょう**

○　第一に，本時の到達目標でもある**ねらいを明確にして**授業に臨みます。ねらいが不明瞭であると，導入段階で子供が課題を把握するのに時間を費やしてしまいます。課題把握がスムーズにできるよう本時の展開の構想を明らかにしておきましょう。

○　子供が，「なぜ？」「どうして？」という問題意識や，「やってみたい！」「何とかしたい！」など追究意欲をもてるよう工夫し，**子供と共に学習課題を設定しましょう。**

**めりはりをつけて**　**触れて・関わって・考えて・感じて学ぶ場面をつくりましょう**

○　第二に，学習内容に**めりはりをつける**ことです。触れて学ぶ場面，関わって学ぶ場面，考えて学ぶ場面，感じて学ぶ場面を位置付けることで，実感的な理解が可能となります。学習内容に応じて授業の流れにどのようなめりはりをつけていくか，教材研究を十分に行いましょう。

○　関わって学ぶ場面では，子供たち自身が多様な考えを組み合わせ，自己の考えを広げたり深めたりすることができるように**課題を設定しましょう。**

**ねらいの達成を見とどけて**　**見返しや，定着・発展問題を行う時間をとりましょう**

○　第三に，授業の終末では，**ねらいの達成を確実に見とどける**必要があります。本時のねらいは達成されたのか，ノート等の記述や定着問題等から具体的に評価します。

○　皆で追究を見返し，子供の言葉で本時習得すべき内容をまとめる，その内容を活用して定着・発展問題を行う時間を確保して個々の子供の実態を把握する，補充的な学習が必要な子供には個別指導をていねいに行い，学習内容を定着させることなどを大切にしましょう。

## ③ 学習環境を整える

**授業前に**

①［**教材・教具，黒板等の準備**］「支度半分」という言葉があります。教師は，授業で必要な教材や教具等を準備し，教室の整理をしてから授業を始めましょう。

②［**出欠席の確認**］児童生徒の出席・欠席状況を確認し，不明な場合は職員室等へすぐに連絡し，対応しましょう。

**授業では**

③［**聞き合う態度の醸成**］互いの発言を尊重し，聞き合う態度は，話し手の表現力を引き出し，共に学び合う関係を築きます。まずは，教師が一人一人の子供の発言をていねいに聞き，授業にどう位置付けるかを考えることが大切です。

④［**児童生徒への声がけ**］その子供のよさを認める声がけ，困っている子供への温かい声がけ，学級全体の子供を勇気付ける一言等，児童生徒との関わりを大事にします。同時に，生命・人権に関わる問題点は見逃すことなく，毅然とした態度で接します。

⑤［**始めと終わりの時間厳守**］黒板を背にしてチャイムを聞くことやチャイムで終わる引き締まった授業を心がけることで，時間を守る見本を示すことができます。児童生徒が，「時間を大事にする意識」をもてるよう，まずは教師が時間を守りましょう。

**授業のあとは**

⑥［**プリント類の整理**］次時の学習以降で既習事項を見返すことができるよう，授業で扱ったプリントやノートなどの整理を呼びかけましょう。

⑦［**欠席した子供への配慮**］

欠席した子供にとって，授業の様子を伝えてもらったり一言が添えられた連絡カードが届いたりすることは嬉しいものです。一人一人の存在を大事にする上でも，欠席した子供への対応をていねいにしましょう。

## （4）学習評価の充実

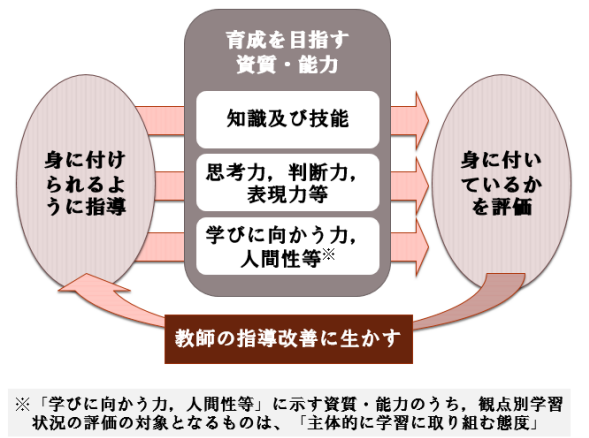
### ① 主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善と評価

「評価」とは，評定を付けて子供たちを成績別に分類するためだけのものではありません。学習評価は，教師の学習指導における子供たちの学習状況を評価するものです。子供たちの学習状況を的確に捉え，教師が指導の改善を図るとともに，子供たちが自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには，学習評価の在り方が極めて重要です。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行うと同時に，評価の場面や方法を工夫したり，学習の過程や成果を評価することを子供たちと共有したりするなど，授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことが大切です。

学習指導と学習評価との関係を簡単に図示すると，右図のようになります。教師は，児童生徒が，資質・能力を身に付けることができるよう，学習指導を行い，その結果，資質・能力が身に付いたかどうかを評価します。

そして，その評価結果を踏まえて，自身の指導を見直し，指導改善を行います。

この，「学習指導→学習評価→指導改善→学習指導…」というサイクルが大切になります。




子供たちの学習状況は，教師の学習指導の鏡とも言えるのです。

### ② 評価の役割

「学習評価」には，例えば，以下のような分類があります。

- **診断的評価** ⇨ 児童生徒の実態を把握し，それに合わせた指導計画を立てるための評価
- **形成的評価** ⇨ 学習活動の途中に児童生徒がどの程度理解したのかを確認するための評価 「指導と評価の一体化」として指導に生かすために評価
- **総括的評価** ⇨ 通知票，指導要録などの評定につながる評価

授業の改善と評価の改善を両輪として行っていく上では，「形成的評価」の考え方が大切です。

**「形成的評価」の考え方が大切となる理由**

- ☑ 「評定を付ける」ことを主目的とした授業にしない。
- ☑ 児童生徒の学習状況を把握したら，児童生徒が「できるようになる」ことを目的に適切な支援を講じる。
- ☑ たくさんの生徒が「分かった，できた！」の喜びを味わえるように支援し続ける。

## ③ 学習評価の改善の基本的な方向性

一方で，学習評価の現状について，学校や教師の状況によっては，以下のような課題があることが指摘されています。(H31.1.21 中教審 「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」より）

✓学期末や学年末などの事後での評価に終始してしまうことが多く，評価の結果が児童生徒の具体的な学習改善につながっていない。

✓これまでの「関心・意欲・態度」の観点について，挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど，性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭しきれていない。

✓教師によって評価の方針が異なり，学習改善につなげにくい。

✓相当な労力をかけて記述した指導要録が，次の学年や学校段階において十分に活用されていない。

そこで，次の基本的な考え方に立って，学習評価を真に意味のあるものにすることが重要です。

① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと

② 教師の指導改善につながるものにしていくこと

③ これまで慣行として行われてきたことでも，必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

## ④ 観点別学習状況の評価

観点別学習状況の評価とは，学校における児童生徒の学習状況を，複数の観点から，それぞれの観点ごとに分析する評価のことです。児童生徒が各教科等での学習において，どの観点で望ましい学習状況が認められ，どの観点に課題が認められるかを明らかにすることにより，具体的な学習や指導の改善に生かすことを可能とするものです。それら各教科の観点別学習状況の評価を総括した数値を示すものが「評定」です。

### 観点別学習状況の評価のポイント

**「知識・技能」**は，知識及び技能の習得状況や，それらを既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり，技能を習得したりしているかについて評価するものです。

**「思考・判断・表現」**を評価するためには，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を通じ，児童生徒が思考，判断，表現する場面を効果的に位置付けた上で，指導・評価することが大切です。

**「主体的に学習に取り組む態度」**は，①知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面　②①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面　という二つの側面から評価しましょう。

| 教科 | 知識及び技能 | 思考力、判断力、表現力等 | 備考 |
|---|---|---|---|
| 国語 | 〔知識及び技能〕(1) ～ (3) | 〔思考力…〕A～Cの (1) | A～Cの (2) 言語活動の例 |
| 社会 | 事項ア（知識のみの場合もあり） | 事項イ | |
| 数学 | A～Dの事項ア | A～Dの事項イ | 〔数学的活動〕ア、イ、ウ |
| 理科 | 事項ア | 事項イ | |
| 音楽 | 知：事項イ　技：事項ウ | 事項ア | 〔共通事項〕も同様に整理 |
| 美術 | 知識：〔共通事項〕ア、イ　技能：(2) | (1) | |
| 保体 | A～Hの (1) | (2) | (3) 態度形成に関する事項 |
| 技家 | 事項ア | 事項イ | |
| 英語 | (1) | (2) | (3) 言語活動に関する事項 |

学習指導要領では，このように，全ての教科等で指導事項が資質・能力別に整理されています。（※教科によって整理の仕方，事項の番号や記号の付け方等の違いはあります。）

各学校において目標に準拠した評価を行うに当たっては，観点ごとに「評価規準」を定める必要があります。

まずは，学習指導要領を確かめましょう。

〔参考〕国立教育政策研究所ホームページ　https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html

・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校編・中学校編）

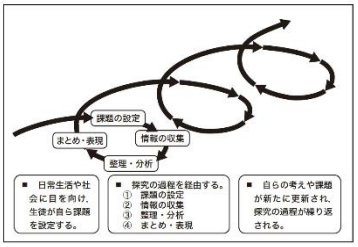
## （5）1人1台端末等の ICT の活用

１人１台端末等の ICT 活用は，クラウドにより ICT の特性・強みを生かすことで一層効果を上げることができます。そのため，課題の設定，情報の収集，整理・分析，まとめ・表現する探究の学習の過程などあらゆる学習場面で，子供や学校等の実態に応じ，各教科等の特質を踏まえ，積極的に ICT を活用し，資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが大切です。ここでは ICT を活用して課題解決に向かう探究の学習の過程において，「教師の活用」「子供の活用」「子供と教師の活用」を紹介します。

### ICT 活用の特性・強み

① 多様で大量の情報の取扱い，容易な試行錯誤
② 時間的制約を超えた情報の蓄積，過程の可視化
③ 空間的制約を超えた相互かつ瞬時の情報共有（双方向性）

**探究的な学習における児童生徒の学習の姿**




図は，小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説「総合的な学習の時間編」より

## 課題の設定

課題の設定については，子供が解決への意欲を高めるとともに，具体的な見通しをもって追究できるよう工夫します。例えば，教師は子供が自ら設定した課題を共有できるようにする，子供が知りたい情報を自ら選ぶ，多様な疑問や気付きを共有し比較・整理する，などの場面での活用が考えられます。

**教師の活用**

**問題解決に向けた課題を子供同士が共有**

子供が自ら設定した課題をチャットで共有し，見通しを具体化する

**子供の活用**

**対話から課題設定につながる問題に気付く**

Web 会議システムを活用し，対話の中から問題を見付ける

**子供と教師の活用**

**気付きが生まれるよう考えを一覧する**

皆の考えをクラウド上で一覧表示し大型モニタで提示する

## 情報の収集

課題解決に必要な情報の収集は，子供自身で行うことが重要です。遠く離れた人たちとの意見交換や，実際に足を運んで自ら感じた感覚的な情報も大切です。このような情報を整理し，改めて確認するためには，録音・録画したデータを振り返り，レポート等で言語化するなどの工夫も必要です。

**教師の活用**

**多様な意見に触れるような場を設定する**

オンライン会議システムを用いて幅広く意見交換を行う

**子供の活用**

**多様な手段で多様に情報収集する**

収集する多様な情報は再現可能なデジタルデータで記録する

**子供と教師の活用**

**異なる視点からの情報を共有・活用する**

蓄積された情報が多角的になっているか全員で確認する

## 整理・分析

整理・分析については，子供自身がつくったり収集したりした多様な情報を整理・分析して思考する活動へと高めていくことが重要です。例えば，多様な情報を「比較」「分類」「序列化」「関連付け」したり，実験で得られたデータをグラフにしたりして分析するような場面での活用が考えられます。

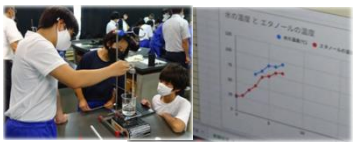
**教師の活用**

**追究の様子を把握し，必要に応じて支援**

子供の整理・分析の様子を把握し個々にあわせた支援につなげる

**子供の活用**

**実験しながら，結果をグラフ表示させて分析**



実験中に結果を端末へ入力し表示されるグラフから分析する

**子供と教師の活用**

**異なる視点の分析で新たな問題に気付く**

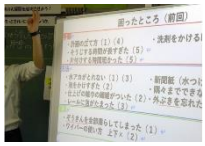
教科書本文で見付けた表現技法の工夫を比較し，疑問点を出し合う

## まとめ・表現

まとめ・表現については，相手意識や目的意識を明確にするとともに，情報の再構成や新たな課題の自覚につなげることが必要です。また，校内のみならず国内外への情報発信により自分の考えを幅広く伝え，その効果を検証し，課題の更新につなげることにも活用できます。

**教師の活用**

**単元通して子供たちと学んだキーワードを紹介**



学習の過程で大切にしてきた学びを子供の言葉を一覧して提示する

**子供の活用**

**相手に伝わるように，まとめ・表現する**

自分の製作品の「自慢ポイント」を互いにまとめて，発表する

**子供と教師の活用**

**探究的な学習の履歴を集積する**

探究の過程を振り返り，学習履歴として集積する

次に，授業以外の活用例を紹介します。１人１台端末の活用は授業だけでなく，児童会や生徒会活動など子供たちの自主的な活動などを含め，学校のあらゆる場面での活用が期待されており，そのことが学校の教育活動の充実につながります。災害や感染症等により臨時休業となる緊急の場面でも，１人１台端末等を活用した学習で子供たちの学びが保障できるよう，日頃から活用を進めましょう。

**教師の活用**

**オンラインを活用した学活や学習を行う**

**教師の活用**

**保護者とオンラインで日程調整をする**

**子供の活用**

**係や委員会の相談をチャットで行う**

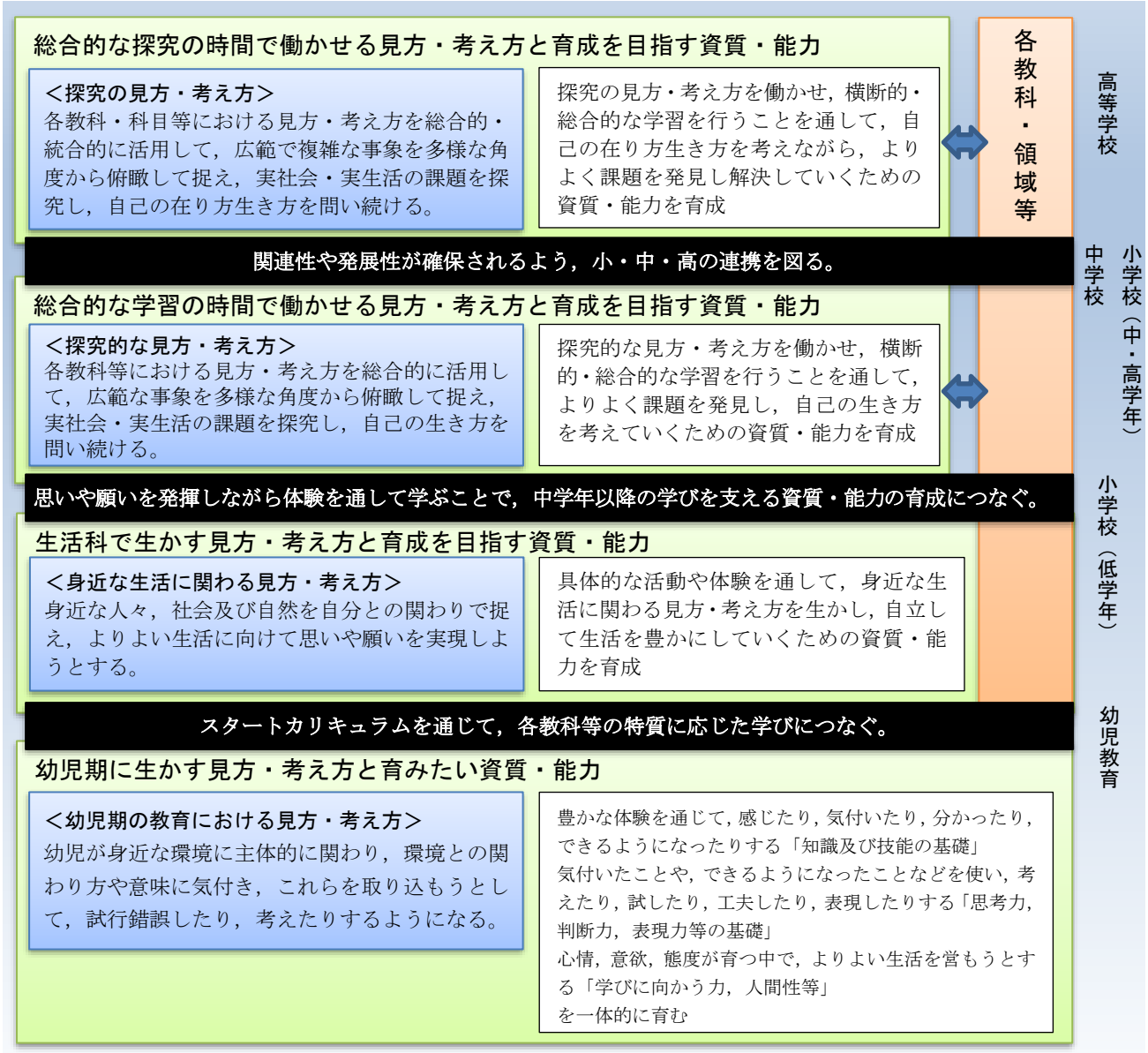
**子供の活用**

**自分のスケジュールを考える**

【参考】県 HP「クラウドの活用　学びの充実実践編（令和５年度）より
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/kyoshokuin/shiryo/ict_cloud.html

## （６）幼保・小・中・高を貫いた探究的な学びの充実

探究的な学びを充実させるためには，各学校園種における「生かしたり，働かせたりする見方・考え方」や「育成を目指す資質・能力」を踏まえ，各学校園種間の円滑な接続を図っていくことが大切です。




### （1）幼児教育から高等学校までの接続

#### ①　幼児教育で育みたい資質・能力

幼児教育においては，幼児なりに好奇心や探究心をもち，問題を見いだしたり，解決したりする力を育てることや，豊かな感性を発揮する機会を提供し，それを伸ばしていくことが大切になります。

#### ②　幼保・小をつなぐ「スタートカリキュラム」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ，生活科の授業を有効に活用するなどしてスタートカリキュラムを編成し，幼児期に育みたい資質・能力が小学校の教科等の学習や生活に円滑につながるように工夫することが必要になります。

#### ③　小学校低学年から，中学年への接続

体験と言葉を使って学ぶなどの特性を踏まえた生活科の学習の充実が，第３学年以降の社会科や理科などの，より系統的な学習や，各教科等の「見方・考え方」を生かして探究的に学ぶ総合的な学習の時間に発展的につながっていくことを意識することが大切です。

**④　小学校と中学校の連携**

「総合的な学習の時間」で育成を目指す資質・能力が小・中で同一であることを踏まえ，同じ中学校区内の小・中学校が，各学校で定める目標と内容を理解し，小・中一貫した総合的な学習の時間の指導計画をつくるなど様々な工夫が考えられます。

**⑤　小・中学校から，高等学校への接続**

小・中学校の総合的な学習の時間では，探究的な課題を設定し，解決していくことにより，児童生徒が自己の生き方を考えることを目指すのに対し，高等学校の総合的な探究の時間では，生徒自身が自己の在り方生き方と一体的で不可分な課題を自ら発見し，解決していくことが期待されます。双方がこの違いを理解し，それぞれの段階で，目標を達成するにふさわしい探究課題を設定し，育成を目指す具体的な資質・能力を明らかにすることが大切になります。

## (2)　長野県の高校での「探究的な学び」

長野県では，生涯にわたり学び続け，地域や世界で生き抜いていくことができる「新たな社会を創造する力」を育成するために，高校での学びを，一斉講義を中心とする従来の学びから「探究的な学び」を中心とする学びに転換しようとしています。

これにより，すべての生徒が自らの夢を見付け，夢に挑戦する学びの実現に向けた「新たな学び」を推進します。

**①　「学びの改革　基本構想」（平成 29 年３月）より**

- すべての教科学習で「探究的な学び」の手法が活用されるよう研修や研究会を実施し，教員の指導力向上と指導体制の充実を図る。
- 「信州学」を地域に根差した「探究的な学び」の総称として捉え，各校で取り組んでいく。
- 小学校や中学校等の各教育段階を通し，一貫して「新たな社会を創造する力」の育成が図られるよう，高校入学者選抜制度の改革も進めていく。

**②　「高校改革　～夢に挑戦する学び～　実施方針」（平成 30 年９月より）**

長野県の高校教育が目指すべき方向性は次のとおりである。

① 自ら立てた問いに対し，チームとして協働しながら解を見つけ，新しい価値を主体的に創造していくことができる資質・能力の育成。

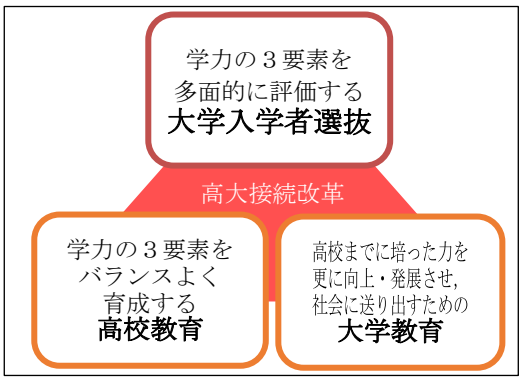
② 「一度しかない人生を自分はどう生きたいか」という自分の人生を構想する力（キャリアデザイン力）の育成。

③ 信州に根ざした確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野，資質・能力の育成。

小学校及び中学校９年間を通じて育成を目指す資質・能力を明確化し，その育成を高等学校教育等のその後の学びに円滑に接続させていきましょう。

## (3)　高大接続改革

令和４年４月から高等学校学習指導要領が施行されました。「総合的な学習の時間」の名称を「**総合的な探究の時間**」とし，探究する能力を育むための総仕上げとして位置付けられています。




また，中央教育審議会「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」，「高大接続改革実行プラン」，「高大接続システム改革会議（最終報告）」に加え，令和５年６月２日に「令和７年度大学入学共通テスト実施大綱」が示され，新学習指導要領に対応した試験が実施されようとしています。

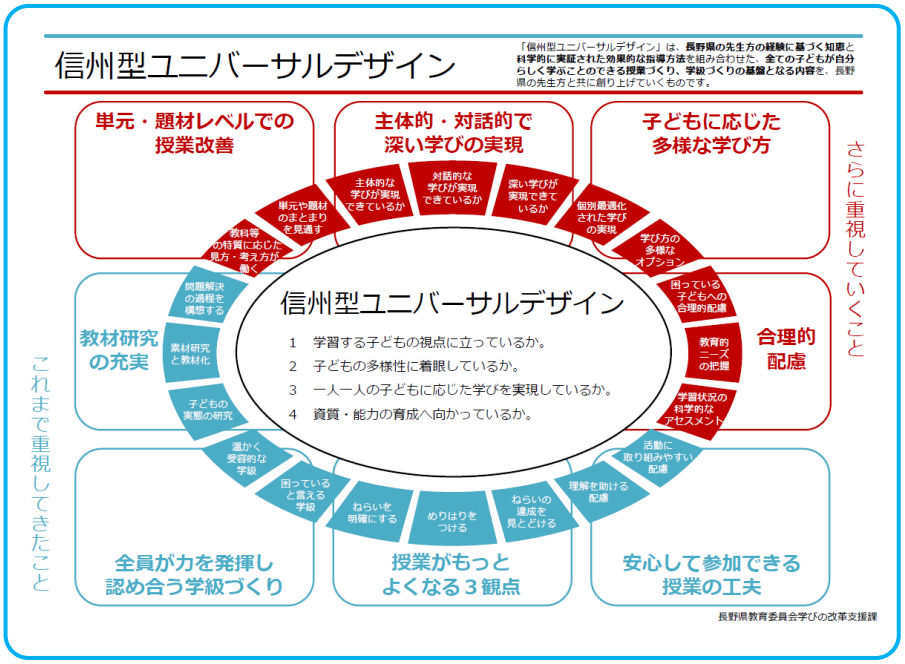
## （７）信州型ユニバーサルデザインの活用　～校内研修ツール～

学習指導改善の重点（１）～（６）の充実に向けた研修方法として，「信州型ユニバーサルデザイン」（以下，「信州型ＵＤ」）の活用が考えられます。信州型ＵＤとは，すべての子供が自分らしく学ぶことのできる授業づくり，学級づくりの基盤となる内容を，長野県の先生方とともに創り上げていくものです。

**信州型UDで大切に考えていきたいこと**

1　学習する子供の視点に立っているか。
2　子供の多様性に着眼しているか。
3　一人一人の子供に応じた学びを実現しているか。
4　資質・能力の育成へ向かっているか。

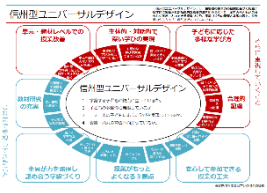
このような授業づくり，学級づくりについて，先生方が振り返る際の多様な視点を「全体像（右図）」として整理しています。多様な視点を整理するに当たっては，これまで長野県の先生方が「重視してきたこと」と，今後「さらに重視していくこと」に分類するとともに，８の窓口と 20 の着眼点にまとめています。




また，20 の着眼点に沿って，自らの授業づくり，学級づくりを「子供の視点」に立って振り返りつつ，先生方との交流を通して，新たに試みたい実践等を見いだせるよう，信州型ＵＤ研修シリーズ（校内研修資料）を作成しましたので，ぜひご活用ください。

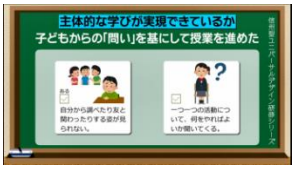
**信州型UD研修シリーズ（校内研修資料）**

全体像

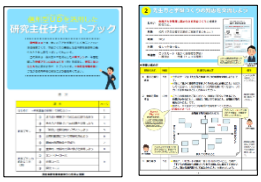


UDカード

動画教材




信州型UDを活用した研究主任アシストブック



**信州型UD研修シリーズの研修の構造**

1　**振り返る**　よく行われていそうな実践を糸口に，日常の子供の姿を振り返る。
2　**掘り下げる**　このような姿が見られる理由について，子供の視点から掘り下げて考える。
3　**見直す**　子供の視点に立って，自分の実践を見直す。
4　**交流する**　子供の視点に立って見直した内容を交流する。
5　**試みたいことを見いだす**　新たな選択肢として試みたい実践などをまとめる。

※２次元コードから信州型ＵＤ研修シリーズをご覧いただけます。

# Ⅱ　教育課程・学習指導改善の基盤

## １　学級づくりの基本

児童生徒が互いの違いを認め合える学級づくり，どの子にとっても居心地のよい学級づくりを進めるためには，各学校において，学級担任を含めた全教職員が連携を図り，子供たちに関する幅広い情報の収集と，多面的な理解に努めることが大切です。

また，開発的・予防的な生徒指導を推進することを通して，子供たちの自己有用感を育むとともに，指導の中で，自ら選択・判断・決定し，将来における自己実現を図っていくための力（自己指導能力）を育成していきましょう。

### (1)　学級づくりの土台Ⅰ　～児童生徒に対する教師の姿勢～

子供にとって，教室が安心できる居場所であることは，学習を保障するための基本条件です。教職員と子供の信頼関係を築いていくと共に，人権侵害に対しては，それを見抜き，許さないという毅然とした対応が求められます。教師自身も人権感覚を研ぎ澄ましていきましょう。

チェック

- ❏教師自ら「他者を尊重する姿勢」や「規律ある行動」を示している。
- ❏全ての教職員と子供が，互いに笑顔で「あいさつ」を交わしている。
- ❏全ての子供に役割があり，温かい言葉で感謝の気持ちを伝えている。
- ❏いつもと様子が違う子供をはじめ，一人一人の子供にも声をかけている。
- ❏教職員の何気ない一言で子供が傷つくことに留意しながら，子供に接している。

### (2)　学級づくりの土台Ⅱ　～確かな児童生徒理解～

児童生徒はそれぞれ違った能力・適性，興味・関心等をもち，生育環境や将来の進路希望なども異なっています。学級担任だけでなく，同僚や関係者からの情報，保護者との対話を深めることが大切です。

チェック

- ❏子供の立場から客観的かつ総合的に事象や情報をとらえ，整理している。
- ❏本人の願いや訴えを丁寧に聴いている。
- ❏集団生活が苦手な子供が安心して生活し相談できる環境がある。

悩みや不安などは，いつ起こるか分かりません。悩みが生じたときにすぐに話を聴いてもらえるような，気軽に相談できる体制をつくることは，児童生徒の安心感につながります。ところが，悩みがあることは「恥ずかしいこと」と思い込み，人に相談することを否定的に捉える児童生徒も見られます。悩みを持つことは決して悪いことではなく，誰でも悩むことはあるということへの理解を促し，悩んだときに，人に話す・聴いてもらう（言語化する）ことの重要性を伝えるための取組を行うことも有効です。（例えば，「SOS の出し方に関する教育を包む自殺予防教育」）

（令和４年 12 月　生徒指導提要）

### (3)　学級づくりの土台Ⅲ　～教室環境を整える～

「環境が人をつくる」と言われているように，清潔で潤いのある教室環境を整えることで，児童生徒の情緒の安定も増していきます。

チェック

- ❏下校後，教室内を点検し，翌日のスタートが気持ちよく切れる環境を整えている。
- ❏掲示物の配色や配置等を工夫し，落ち着いた雰囲気，明るい雰囲気を演出している。
- ❏子供たちが安心して学習に取り組むことができる環境になっている。
- ❏「障害者差別解消法」の合理的配慮に基づいて，教室環境の見直しをしている。

## (4) 学級づくりの土台Ⅳ　～授業を通じた学級づくり～

授業のあり方は，学級づくりと深く関わり，友の意見や考えによって自己の視野を広げたり，互いを認め合ったりする過程で，学級内の絆が深まったり，相手を思いやる気持ちが醸成されたりします。

チェック

- ❏授業にルールがあり，ルールを守ることの必要性を子供たちが理解している。
- ❏授業の中に，友と関わりながら学び合うことの楽しさが味わえる場をつくっている。

## (5) 学級づくりの土台Ⅴ　～「居場所づくり」と「絆づくり」～

教師や級友との**心の結び付きや信頼感**を深め，どの児童生徒にとっても教室が**安心・安全・快適な居場所**となることが大切です。

チェック

- ❏一人一人の児童生徒がよさや個性を生かして，活躍できる場や機会をつくっている。
- ❏自ら進んで他者や集団に貢献する姿勢を養うための活動を仕組んでいる。
- ❏児童生徒のアイデアや工夫により企画・運営する話し合い等の活動を位置付けている。
- ❏年間の見通しをもって学級の経営計画を立て，実践している。

## (6) 学級づくりの土台Ⅵ　～集団指導と個別指導～

学級づくりを進める上で，学級としての成長を目指す「集団指導」，個の育成を図る「個別指導」をバランスよく推進しましょう。

チェック

- ❏指導場面に合わせて，集団指導と個別指導の使い分けをしている。
- ❏相談の機会を，年間計画の中に見通しをもって位置付けている。
- ❏担任だけでなく，いつでも誰でも相談するよう伝えている。
- ❏教育相談コーディネーターを中核として，スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー等と連携した組織的な相談支援体制が整っている。

## (7) 生徒指導や教育相談に関わる資料

生徒指導や教育相談に関わる資料等を参考に，これまでの指導や支援について振り返り，学級指導の力量を高めましょう。

### 長野県総合教育センターホームページ

長野県総合教育センターHP ＞ 生徒指導・特別支援教育 ＞ 校内研修・研修用資料（生徒指導）

https://www.edu-ctr.pref.nagano.lg.jp/kjouhou/seitoku/ss_ken/index.php

- ◆ 事例検討研修～児童生徒理解とチーム支援のために～
- ◆ 子どものＳＯＳを「見逃さない」ために
- ◆ 子どもの「心の健康問題」
- ◆ 子どもとの関係づくり

### 長野県教育委員会ホームページ

長野県教育委員会HP ＞ 学校教育 ＞ 生徒指導

https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyoiku/shido/index.html

- ◆ 「はばたき」～不登校児童生徒の学びのサポートガイド～「はばたき」（Vol.1，2）
- ◆ 不登校への対応の手引き（Ｒ５改訂版）
- ◆ 長野県いじめ対応マニュアル「いじめの重篤化を防ぐために」
- ◆ 教職員研修資料「いじめの問題に関するＱ＆Ａ」
- ◆ いじめ防止啓発リーフレット（小学校低学年，小学校高学年，中・高校生用）
- ◆ 「子ども自殺予防」啓発リーフレット（生徒向け，保護者向け，教職員向け）

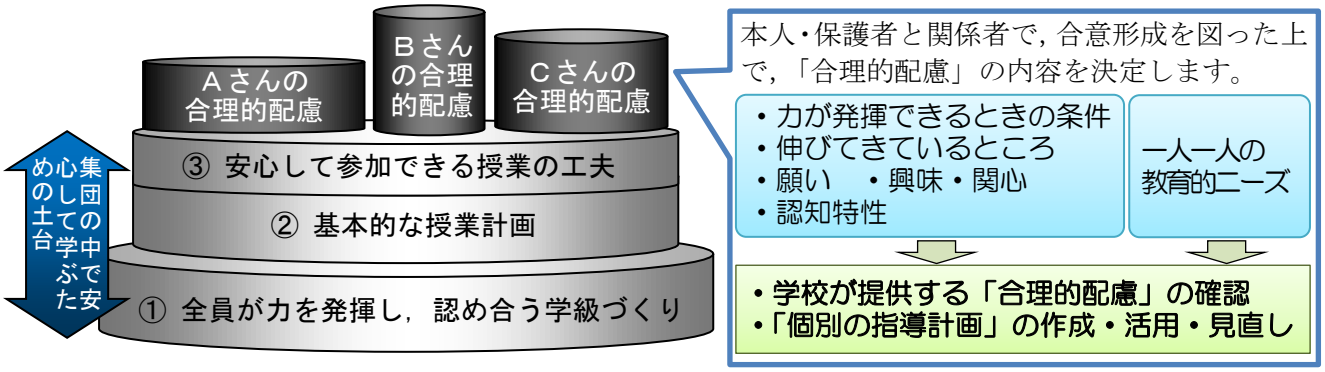
## ２　通常の学級における特別支援教育の充実

特別支援教育は，障がいのある子供の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち，子供一人一人の教育的ニーズを把握し，その持てる力を高め，生活や学習上の困難を改善又は克服するため，適切な指導及び必要な支援を行うものです。通常の学級にも障がいのある子供は多数在籍しており，特別支援教育の重要性は更に高まっています。

### 【授業のユニバーサルデザイン化】

特別な教育的ニーズ※のある子供たちも含め，どの子も目を輝かせて力を発揮できる授業を構想することが，全ての学級の教師に求められます。その一つの考え方である「授業のユニバーサルデザイン化」に沿って，授業を構想する際のポイントを下図のように整理しました。①から③までが「授業のユニバーサルデザイン化」等によって築かれる，集団の中で安心して学ぶための土台の部分です。その土台の上で個人が持てる力を発揮するために，一人一人の教育的ニーズに応じて必要とされる個別の配慮（合理的配慮）が位置付きます。

※　特別な教育的手立てを必要とする程度に困難さを有すること




### ①　全員が力を発揮し，認め合う学級づくり

温かく受容的な人間関係を基盤にした学級集団でこそ，子供たちは安心して学習し，自分の力を発揮できます。互いの違いやよさを認め合える集団として育つために，教師自身が受容的な関わり方のモデルを示したり，互いのよさを認め合う活動を学級経営に取り入れたりしましょう。また，子供たちが困っていることを，困っていると言える学級の雰囲気づくりも大切にしましょう。

《学級づくりのポイント》
□安心できる場　□互いの違いを認め合える場　□褒められる場　□達成感や成就感が得られる場

### ②　基本的な授業計画

「授業がもっとよくなる３観点」（Ｐ13 参照）に「個に応じた支援」の視点を加えて

□　ねらいを明確に（学習問題の分かりやすい提示）
・本時の学習問題を把握し活動に見通しをもてるよう，本時のねらいを明確にし，導入場面などで映像や写真等による視覚化をするなど，分かりやすく提示しましょう。

□　めりはりをつけて（触れ，関わり，考え，感じる学習場面づくり）
・実感的な理解が可能になるよう，生活経験に関連の深い題材を取り入れたり，具体的な体験をしたりする活動を設定しましょう。
・個別の指導計画（実態把握，支援の方向，指導内容の選択・組織）等を作成・活用し，子供たち一人一人の特性を踏まえた上で，十分に力が発揮できる状況づくりをしましょう。

□　ねらいの達成を見とどけて（見返しや定着等を行う時間の確保）
・子供たち自身が単元を通した学びや１時間の学びを実感できるよう，ICT 機器等を活用するなど視覚的に振り返りやすくする工夫をしましょう。
・子供たちの理解の様子を見ながら，必要に応じて補充的な個別指導を丁寧に行いましょう。

## ③　安心して参加できる授業の工夫

### 〈障がいのある子供などへの障がいの状態等に応じた支援を含む，授業での支援〉

学習指導要領解説の総則編の中で，通常の学級を含めた全ての障がいのある児童生徒などに対する指導について，下記のように記されています。

**小〔中〕学校学習指導要領　第１章　総則　第４の２の(1)**　　※〔 〕は中学校学習指導要領

> **(1)　障害のある児童〔生徒〕などへの指導**
>
> ア　障害のある児童〔生徒〕などについては，特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ，個々の児童〔生徒〕の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行うものとする。

**小〔中〕学校学習指導要領解説　総則編**　　**第３章第４節の２の(1)の①**

※〔 〕は中学校学習指導要領解説

> **①　児童〔生徒〕の障害の状態等に応じた指導の工夫（第１章第４の２の(1)のア）**
>
> 障害のある児童〔生徒〕などには，視覚障害，聴覚障害，知的障害，肢体不自由，病弱・身体虚弱，言語障害，情緒障害，自閉症，LD（学習障害），ADHD（注意欠陥多動性障害）などのほか，学習面又は行動面において困難のある児童〔生徒〕で発達障害の可能性のある者も含まれている。このような障害の種類や程度を的確に把握した上で，障害のある児童〔生徒〕などの「困難さ」に対する「指導上の工夫の意図」を理解し，個に応じた様々な「手立て」を検討し，指導に当たっていく必要がある。

具体的には

**小学校（図画工作科（鑑賞））の事例**　小学校学習指導要領解説　図画工作編　p110 参照

① 児童生徒の「困難さ」を把握する

・「形や色など、作品の特徴をとらえること」
・「自分の考えや感想を手書きの文章で表現すること」
に困難さがある。

② 「指導上の工夫の意図」を理解する

・作品の表現の特徴や工夫を捉えるきっかけとなるように
・自分の考えを文章にする困難さを軽減するために

【友だちの作品に対する感想をタブレットに入力して共有】

③ 個に応じた「手立て」を検討する

・形や色など，作品の具体的な特徴に着目できるよう問いかけたり，友だちの感想を紹介したりする等，感じたことや考えたことを言葉にする場を個別に設定する。
・作品の感想をタブレット端末に文字入力して友だちと共有できるクラウドを活用する。

**〈次の刊行物を参考にしてみましょう〉**

**特別支援教育学習指導要領サポートブック**

障がいの状態に応じた指導上の工夫について，142 ページ以降に全ての教科の内容を掲載

**特別支援教育支援員が活きる校内連携のしおり**

通常の学級等における特別支援教育の充実にとって重要な役割を担う特別支援教育支援員が学級担任等と連携し，子供たち一人一人を丁寧に支援していく具体的な方法について４，５ページに掲載

## 【合理的配慮の提供】

平成 28 年４月「障害者差別解消法」が施行されました。公立学校の全ての教師は，この法律に基づき，日々の学級経営や授業実践の中で，「合理的配慮」を提供する法的義務があります。

**「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」とは？**

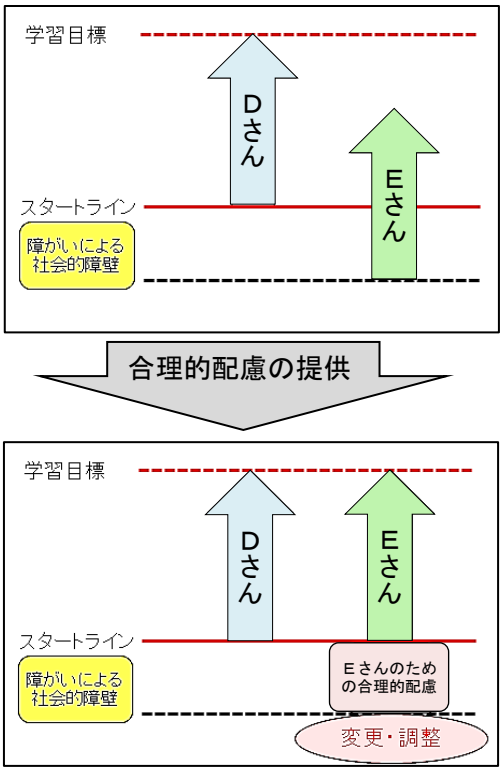
**障害者基本法の差別の禁止の基本原則を具体化するものであり，全ての国民が，障がいの有無によって分け隔てられることなく，相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け，障がい者差別の解消を推進することを目的として，平成 25 年に制定され平成 28 年４月に施行されました（令和３年５月改正）。**

すでに社会の様々な場面において日常的に実践されている合理的配慮について，その取組を広く社会に示し，国民の障がいに対する理解を深め，取組の裾野が広がることを期待し制定された法律です。

この法律の施行は，全ての子供たちがそれぞれの個性を伸ばし，日々の授業の中で自らの力を精一杯発揮して輝くための指導・支援を充実させるチャンスです。全ての教師が，この法律の意味を理解し，全ての教室で取組がなされることにより，これまで推進してきた通常の学級における特別支援教育のさらなる充実が期待されます。

### ①　学校教育における「合理的配慮」とは

「合理的配慮」は，社会的障壁により，力を発揮するため個別に配慮が必要な子供（右図　Ｅさん）が，個別に配慮を必要としていない子供（右図　Ｄさん）と同じスタートラインに立つためのものです。本人及び保護者と学校や学校の設置者が相談をして内容を検討し，合意形成を図ります。




### ②　「合理的配慮」の提供の流れ

「困った子」と見るのではなく，「困っている子」として見る担任の視点が重要です。担任が気付いたその子の困難さについて，その背景要因を探ることによって，必要な配慮が見えてきます。

また，校内の全職員が，「障害者差別解消法」と「合理的配慮」の内容について理解する必要があります。その上で，本人及び保護者の意見を踏まえ，目の前の子供にとって必要な「合理的配慮」は何かを話し合い決定していきましょう。**決定した内容を個別の教育支援計画に明記し，その内容を生かして個別の指導計画等を作成しましょう。**子供の姿から配慮の有効性について見返し，PDCA サイクルで「合理的配慮」を充実させていきましょう。

### ③　校内支援体制の充実

その子の「合理的配慮」を一緒に考え，担任を支えるための校内支援体制の充実が必要です。自校の特別支援教育推進計画や校内（教育支援）委員会等の組織が，十分に活用され機能しているか，学校長のリーダーシップの下，教頭，特別支援教育コーディネーター等を核として，現在の校内支援体制を見直し，必要な改善を行いましょう。

**〈次の刊行物を参考にしてみましょう〉**

**「適切な学びの場」ガイドライン**

適切な学びの場で適切な支援が受けられる校内体制の整備について解説

## ３　人権尊重の視点に立った学校づくり

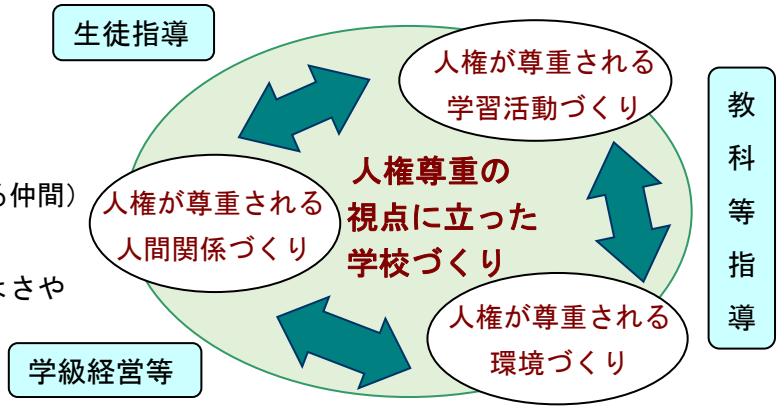
人権教育は，全ての教育の基本という理念に立ち，各教科，特別の教科 道徳，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動などの特質に応じて，教育活動全体を通じて計画的に推進されるものです。

### (1) 教育活動全体を通じて人権教育を推進するための留意点

「人権尊重の視点に立った学校づくり」

（人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]より ）

○人権が尊重される環境づくり
（安心して過ごせる学校・教室）
○人権が尊重される人間関係づくり
（互いのよさや可能性を認め合える仲間）
○人権が尊重される学習活動づくり
（一人一人が大切にされ，互いのよさや可能性を発揮できる授業）




◎「人権尊重の視点に立った学校づくり」の図からは，次のような考えが読み取れます。
- 教職員は，日々，人権尊重の視点に立って授業をし，学級経営をし，生徒指導をしている。
- 学校の日常的な雰囲気や人間関係も含めて，学校教育全体を人権尊重の視点で見直し，改善していくことができる。

**「隠れたカリキュラム」の視点をもつ**

[第三次とりまとめ]では，「隠れたカリキュラム」とは，**「教育する側が意図する・しないに関わらず，学校生活を営む中で，児童生徒自らが学び取っていく全ての事柄」**を指し，「児童生徒の人権感覚の育成には，体系的に整備された正規の教育課程と並び，いわゆる『隠れたカリキュラム』が重要であるとの指摘がある」としています。

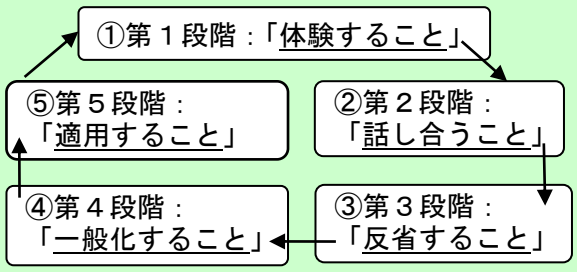
**人権が尊重される学習活動づくりに生かす・・・「体験的な学習」サイクル**

人権感覚育成の観点から，**体験的な学習**の本質に関する理解を深めておくことが求められています。

○体験的な学習は，「体験すること」自体が目的なのではなく，いくつかの段階からなる学習サイクルの中に位置付くものです。

○個々の学習者の体験をはじめとして，他の学習者との協同作業としての「話し合い」，「反省」，「現実生活と関連させた思考」の段階を経て，「自己の行動や態度への適用」へと進んでいくと考えられます。（これらの段階は，いつでも明確であるわけではなく，同じ順で進むとは限りません）

参考：「体験的な学習」に関する学習サイクル
（指導等の在り方編Ｐ28）




◎体験的な学習には，参加体験型学習，擬似体験活動，様々な人々との交流活動等が考えられます。これらの学習活動では，児童生徒が人権問題と自分とのつながりに気付いたり，コミュニケーション能力，共に考えようとする態度，社会参加への意欲を高めたりする場面を工夫して設けていきます。

## (2) 学校教育における人権教育の目標

人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］では，学校教育における人権教育の目標を，次のように示しています。

**人権教育の目標**

文部科学省［第三次とりまとめ］ ⇒

**児童生徒がその発達段階に応じ，人権の意義・内容や重要性について理解し，『自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること』ができるようになり，それが様々な場面や状況下での具体的な態度や行動に現れるとともに，人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようにする。**

人権教育の目標を達成するためには，**人権に関する知的理解と人権感覚の育成を基盤**として，人権が守られるように実践しようとする意識（人権意識）や意欲・態度を向上させ，**実践的行動に結び付ける**ことが求められます。その際に必要とされる資質・能力は，**①知識的側面，②価値的・態度的側面，③技能的側面**の三つの側面から捉え，総合的にバランスよく培うことが求められます。

これらの力や技能を培い，児童生徒の人権感覚を健全に育んでいくために，「学習活動づくり」や「人間関係づくり」と「環境づくり」とが一体となった，学校全体としての取組が望まれます。

**「人権教育を通じて育てたい資質・能力」**（人権教育の指導方法等の在り方について［第三次とりまとめ］より）

**自分の人権を守り，他の人の人権を守るための実践行動**

自分の人権を守り，他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度
（以下の「人権に関する知的理解」と「人権感覚」とが結合するときに生じる）

**人権に関する知的理解**
（以下の知識的側面の能動的学習で深化される）

関連

**人　権　感　覚**
（以下の価値・態度的側面と技能的側面の学習で高められる）

**①知識的側面**

- 自由，責任，正義，平等，尊厳，権利，義務，相互依存性，連帯性等の概念への理解
- 人権の発展・人権侵害等に関する歴史や現状に関する知識
- 憲法や関係する国内法及び「世界人権宣言」その他の人権関連の主要な条約や法令等に関する知識

（例）「部落差別の解消の推進に関する法律」等

- 自尊感情・自己開示・偏見など，人権課題の解決に必要な概念に関する知識
- 人権を支援し，擁護するために活動している国内外の機関等についての知識等

**②価値的・態度的側面**

- 人間の尊厳，自己価値及び他者の価値を感知する感覚
- 自己についての肯定的態度
- 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度
- 多様性に対する開かれた心と肯定的評価
- 正義，自由，平等などの実現という理想に向かって活動しようとする意欲や態度
- 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度
- 人権の観点から自己自身の行為に責任を負う意志や態度
- 社会の発達に主体的に関与しようとする意欲や態度等

**③技能的側面**

- 人間の尊厳の平等性を踏まえ，互いの相違を認め，受容できるための諸技能
- 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性
- 能動的な傾聴，適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能
- 他の人と対等で豊かな関係を築くことのできる社会的技能
- 人間関係のゆがみ，ステレオタイプ，偏見，差別を見きわめる技能
- 対立的問題を非暴力的で，双方にとってプラスとなるように解決する技能
- 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し，公平で均衡のとれた結論に到達する技能等

関連　　関連

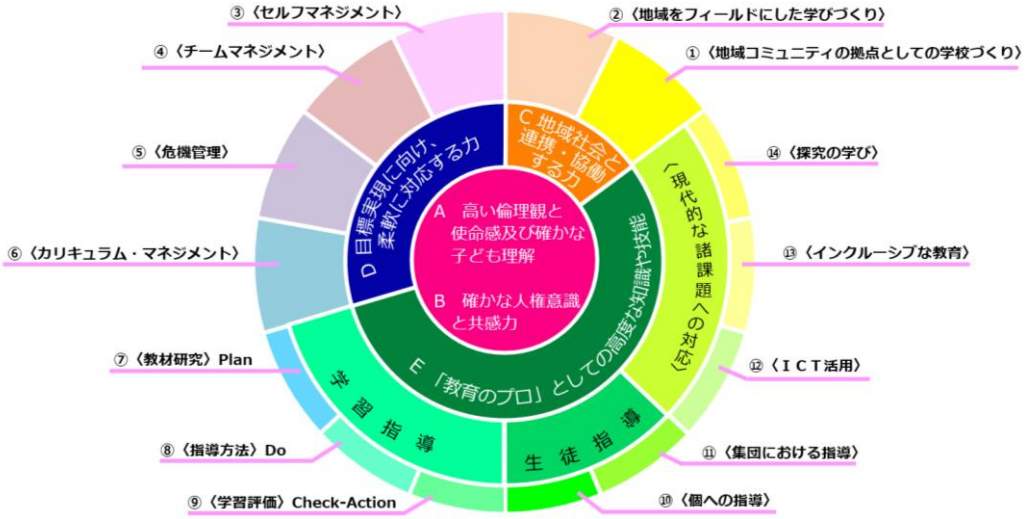
全ての関係者の人権が尊重されている教育の場としての学校・学級
（人権教育の成立基盤としての教育・学習環境）

## 4　長野県教員育成指標について

平成 29 年４月に教育公務員特例法の一部が改正されたことを受け，本県では，平成 30 年４月「長野県教員育成指標」を策定しました（令和５年３月一部改訂）。この指標は，教員自身が教職キャリア全体を俯瞰し，学び続け，力量向上を図るための目安となるものです。

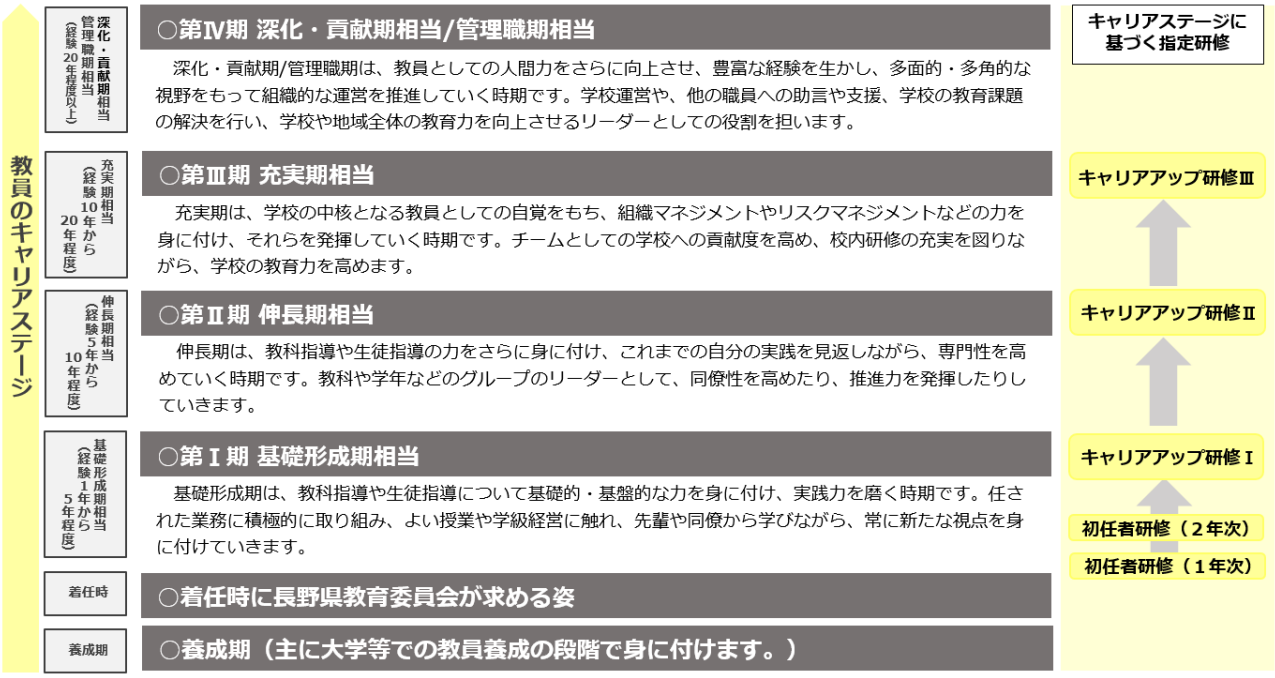
### （1）本県の教員に求められる資質能力

五つの資質能力を，常に意識化を図る「Ａ　高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解」と「Ｂ　確かな人権意識と共感力」を中核にし，その周囲に，経験と研修を積むことで高めていく「Ｃ　地域社会と連携・協働する力」，「Ｄ　目標実現に向け，柔軟に対応する力」，「Ｅ　『教育のプロ』としての高度な知識や技能」としました。




### （2）教員のキャリアステージ

教員のキャリアステージを「基礎形成期」「伸長期」「充実期」「深化・貢献期／管理職期」に区分し，それぞれのキャリアステージの高まりを示しています。スキルの向上は，必ずしも年代や経験年数によるものではないので，「相当」という言葉を用いて幅をもたせています。



# Ⅲ　各教科等の指導・改善の重点

・30～69 ページは，教科等ごとの「指導・改善の重点」を見開きでまとめています。

・以下のような構成になっていますが，一部の教科等では構成が異なります。

## 左ページ

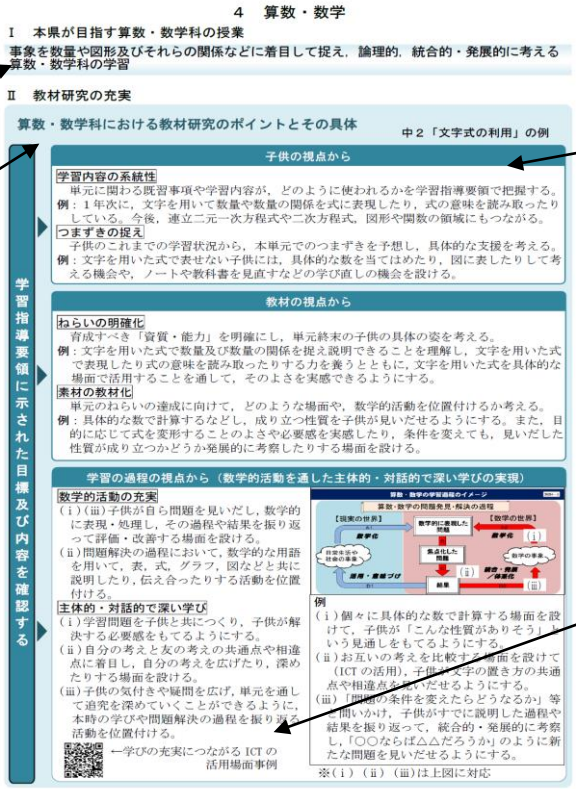
**本県が目指す〇〇科の授業**

**教材研究のポイントとその具体**

・各教科等における教材研究のポイントを「子供」「教材」「学習の過程」に分けて例示しています。

・12 ページからの「（３）教材研究の充実」もご参照ください。

・授業を構想する際には，学習指導要領に示された目標及び内容を確認しましょう。

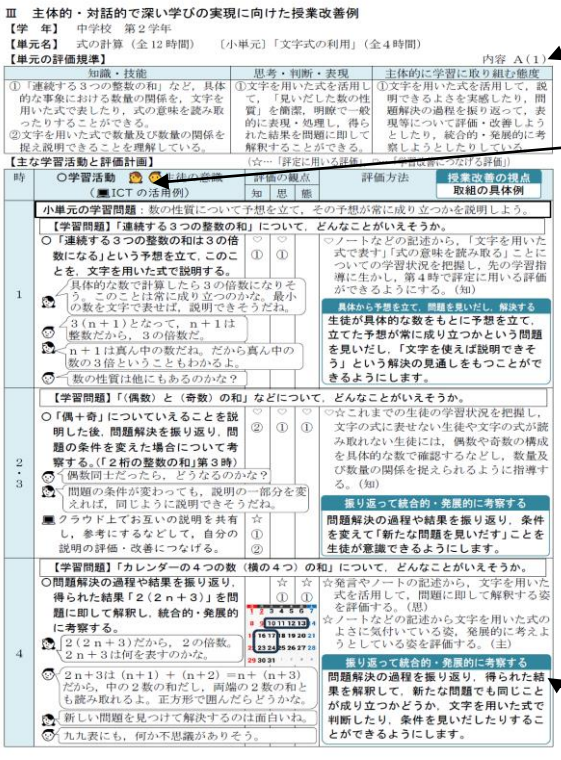



・右ページの「Ⅲ　主体的･対話的で深い学びの視点からの授業改善例」で取り上げた単元（題材）について，各教科等で特に大切にしたいポイントを取り上げて具体例を示していますので，教材研究をする際にはご参照ください。

・二次元コードから，長野県 ICT 教育推進センターHP 上の「クラウドによる同時共同編集　授業づくり実践編」をご覧いただけます。

なお，12～13 ページの「教材研究のポイント」等は例として示したものです。実際の教材研究においては，児童生徒の実態や扱う単元（題材）の内容によって重視すべきポイントが異なることがあります。また，本冊子で示したポイント等が全てではありません。

## 右ページ




・学習指導要領に示された指導事項を示しています。なお，教科等の特性によって示していない場合もあります。

**主な学習活動と評価計画**

・「主な学習活動・生徒の意識」では，子供（🧑・👧）の意識の流れに関連付けて示しています。６～７ページも参照ください。

・「💻ICT の活用例」では，ICT を活用した学習活動等を例示しています。16～17 ページも併せてご参照ください。

・「ねらい」「評価方法」では，内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けた指導のねらいとその評価の方法を例示しています。14～15 ページもご参照ください。

**授業改善の視点**

・「授業改善の視点」では，この単元（題材）のポイントとなる支援や工夫などを示しています。

# 1　国　語

## Ⅰ　本県が目指す国語科の授業

**言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して資質・能力を育成する国語科の学習**

## Ⅱ　教材研究の充実

### 国語科における教材研究のポイントとその具体

小３「給食がおいしいヒミツを伝えよう～書き表し方を工夫して説明する文章を書こう！～」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

ポイント1

**子供の実態把握**

これまでの子供の生活経験・学習経験を確認したり，身に付けている資質・能力や課題を確認したりして，子供の実態を把握する。

**系統性の把握と学習内容の明確化**

各学年の同じ領域の指導事項を比較し，異なっている部分を意識するなどして，本単元の指導事項の系統性を把握することで，単元で重点を置く指導事項を明確にする。

例　**系統性の把握と学習内容の明確化**（B書くこと）

| | (小) 1・2年 | (小) 3・4年 | (小) 5・6年 |
|---|---|---|---|
| 考えの形成<br>記述 | ウ　**語と語や文と文との続き方**に注意しながら，**内容のまとまりが分かるように**書き表し方を工夫すること。 | ウ　**自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして**，書き表し方を工夫すること。 | ウ　**目的や意図に応じて**簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，**事実と感想，意見とを区別して**書いたりするなど，**自分の考えが伝わるように**書き表し方を工夫すること。 |

（「小学校学習指導要領解説国語編」P204 より）

#### 教材の視点から

**素材の研究**

素材の特徴を捉えどのような単元展開をするか，単元で育成を目指す資質・能力を踏まえ検討する。

**素材の教材化**

国語科においては，言葉を通じた理解や表現及びそこで用いられる言葉そのものを学習対象としているため，素材をどのように用いて，どのような言葉による見方・考え方を働かせて資質・能力を育成するか明らかにしながら教材化する。

例　**素材の教材化**

ポイント2

・「読むこと」の学習で身に付けた「考えとそれを支える理由や事例との関係を捉える」力を，「書くこと」の学習に生かせるよう，単元の展開を工夫する。
・自分の考えと，集めた情報や経験などに着目し，伝えたいことに合う理由や例になっているかを考える場面を位置付けることで，児童が言葉の意味に着目して，その関係を問い直せるようにする。

ポイント3

#### 学習の過程の視点から

**言語活動の設定**

▶ 学習指導要領の言語活動例等を参考に，資質・能力の育成に向けて，子供が相手意識や目的意識をもって取り組むことのできる言語活動を設定する。

ポイント4

**主体的・対話的で深い学び**

▶ 単元での学びを今後の学習や言語生活に生かせるよう，育成を目指す資質・能力を子どもと共有する。（主体的な学び）

ポイント5

▶ 互いの考えを伝え合うことで，自分の考えを深めたり，集団としての考えをまとめたりする場面を設ける。（対話的な学び）

▶ 言葉による見方・考え方を働かせ，言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ，深める学習過程を設定する。（深い学び）

例　**主体的・対話的で深い学び**

・単元名に「書き表し方を工夫して」を入れるなど，育成を目指す資質・能力を児童と共有し，その言葉に立ち返りながら活動に取り組めるよう工夫することで，児童が学習の見通しをもったり，学びを自覚したりすることができるようにする。（主体的な学び）
・単元の最初に書いた自分の文章と，単元末に書いたものを比較できるようにすることで，児童が「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫する」ことのよさや効果を自覚できるようにする。（深い学び）

CHECK　学びの充実につながる ICT の活用場面事例　☞

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

【学　年】　小学校　第３学年

【単元名】　給食がおいしいヒミツを伝えよう

～書き表し方を工夫して説明する文章を書こう！～（全 12 時間中の７時間扱い）

【単元の評価規準】内容　〔知識及び技能〕（２）イ　〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂ（１）ウ

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し，使っている。 | 「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。 | 粘り強く，書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって，報告する文章を書こうとしている。 |

【言語活動】調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動【B(2)ア】

【主な学習活動と評価計画】　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　児童の意識<br>（ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | ○給食センターからの「給食がおいしいヒミツを全校に伝えてほしい」との依頼を受け，伝えるための方法を検討し，単元の学習問題を設定する。 | 育成を目指す資質・能力に即して子供の学習状況を見届け，学習改善につなげる評価は単元を通して行う。 | | | | **相手意識，目的意識を明確にした言語活動の設定**<br>総合的な学習の時間で学んでいる「食」を窓口に，伝える相手や目的が明確になる言語活動を設定します。 |
| | 単元の学習問題：書き表し方を工夫して，給食がおいしいヒミツを説明しよう！ | | | | | |
| | ○選んだ題材について説明する文章を書き，課題を明確にする。<br>「米」について書こうとしたけれどどう書いたらいいかわからない。 | ♡ | ♡ | ♡ | | **必要感をもち教材と出会える場の設定**<br>子供の問い，つまずきを分類や整理をして，解消するための手立てとして，『すがたをかえる大豆』を紹介します。 |
| | 『すがたをかえる大豆』を教材とした「読むこと」の資質・能力の育成のための単元（第３時～第７時） | | | | | |
| 8・9・10・11 | 米の調理法についての具体的な例を紹介していけば書けそうだな。<br>○題材についての情報を収集する。<br>多様な情報を集めることができるようインターネットを活用する。<br>米にはたくさんの調理法があると分かったけれど，どの具体例を書いていけばいいのかな。<br>○集めた情報を，比較したり，分類したりして整理する。<br>お米にもすがたをかえていくヒミツがあった。給食で，毎日出ている「ご飯」は「たく」という調理法でみんながよく知っているから，はじめに紹介しよう。最後には，ひと手間必要な「五平もち」の「たいてからつぶして焼く」調理法を紹介して，知らなかった人を驚かせよう。 | ☆ | ☆ | ☆ | ☆集めた情報を，クラウド上の思考ツールを使って，調理の工夫等，個々の観点で分類しているか評価する。<br>☆粘り強く情報を分類したり，選んだ理由を比較検討したりしながら，目的に応じた文章を書こうとしているか評価する。<br>☆書き上げた文章や，練り上げる様子から，伝えたいことに合った事例を明確にして書いているか評価する。 | **子供が学び方や学ぶ内容を選択できる環境設定**<br>調理員さんに協力を依頼したり，題材についての書籍を用意したり，クラウド上に題材に関わるリンク先を貼ったりして，児童が選択できる環境を整えます。<br>**協働的に学び合う場の設定**<br>集めた情報を分類し，構成を考える際に，どの情報を使うとよいか検討し合えるよう，友だちと話し合う場を設定します。 |
| 12 | ○単元のまとめとして，単元の初めに書いた文章と，単元末に書いた文章を比較する。<br>伝えたいことに合った例をあげながら書くことができた。目的に合わせて例を選ぶようにしたいな。 | | ♡ | ♡ | ♡学んだことを自覚し，今後の学習や言語生活に生かしていけるよう指導する。 | **今後の学習に生かす場の設定**<br>学習した内容を，書くことを視点にして振り返る場を設定します。 |

※上記の事例は，「読むこと」と「書くこと」の複合単元における，「書くこと」の資質・能力の育成を目指した展開部分を記載しています。

# ２　社　会

## Ⅰ　本県が目指す社会科の授業

**社会的な見方・考え方を働かせ，社会的事象の意味や意義を考える社会科の学習**

## Ⅱ　教材研究の充実

### 社会科における教材研究のポイントとその具体

中２「近代産業の発達と近代文化の形成」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**生徒の学習状況の把握**

・小学校では，伊藤博文などの人物の業績や当時の人々の生活などを基に，明治時代中期から大正時代にかけて日本の国力が充実し，国際的地位が向上したことを学んでいる。
・身近な地域の歴史に関連する社会的事象については，特に意欲的に追究できる。

#### 教材の視点から

**素材の研究**

・長野県は，桑の栽培に適した地形と養蚕に適した気候だった。また，器械製糸を取り入れ，養蚕や蚕種業の技術開発や改良に力を入れたため，県内各地には養蚕業や製糸業に関わった施設や設備などの近代化遺産がある。
・「生糸で軍艦を買う」と言われたほど，製糸業は外貨獲得の手段であり，殖産興業や富国強兵を進める日本にとって重要な役割を果たした。

**教材化の研究**

・単元（図１）の流れ確認し，小単元（図２）で育成する資質・能力を明確にしたり，生徒の思考を予想し，小単元の学習問題や学習活動等を具体的に構想したりする。
・当時の人々が現金収入として頼りとした生糸の実物を提示したり，明治時代に完成した県歌「信濃の国（３番）」の歌詞に着目し，細く軽い生糸が「軽からぬ」や「国の命を繋ぐ」と言われた意味を考える場面を設けたりすることで，製糸業を中心とした産業の発展に意識を向けることができるようにする。
・生徒から出された予想を分類し，追究の視点を明確にすることで，製糸業の発展が経済や人々の生活に与えた影響を調べることができるようにする。

図１　単元「近代の日本と世界」

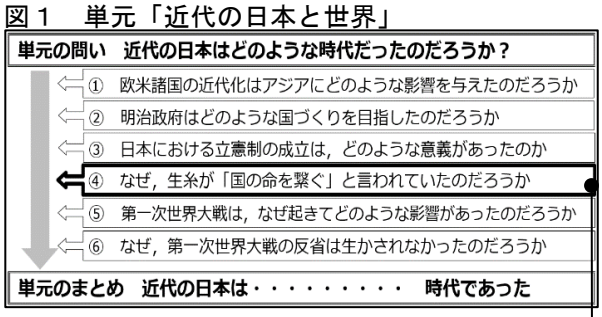
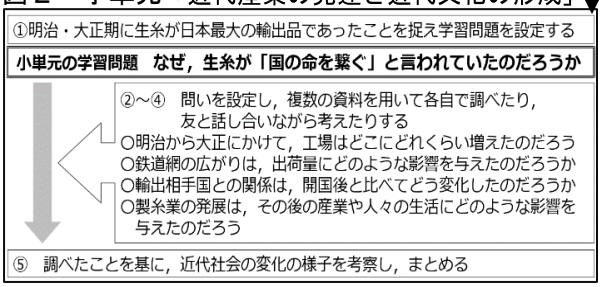



図２　小単元「近代産業の発達と近代文化の形成」




#### 学習過程の視点から

**主体的・対話的で深い学び**

【主体的な学び】
・問題解決に向けた見通しをもつことができるよう，学習問題に対して予想し，それを確かめるためにはどのようなことを調べればよいかを考える場面を設ける。

【対話的な学び】
・自己の考えを広げ深めることができるよう，調べた情報をクラウドで共有したり，予想や課題解決に向けて話し合ったりするなど，生徒同士が協働する場面を設ける。

【深い学び】
・歴史的な見方・考え方を働かせて，社会的事象を関連付けて考察できるよう，調べたことを付箋ツールに入力し，背景，原因，影響等を線で結ぶ活動を位置付ける。

学びの充実につながる ICT の活用場面事例

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　中学校　第２学年

**【単元名】**　近代の日本と世界　**【小単元名】**近代産業の発達と近代文化の形成（全５時間）

**【小単元の評価規準】**　内容Ｃ　(1)ア(ｴ)イ(ｱ)(ｲ)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを基に，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解している。 | ・工業化の進展と社会の変化，近代化がもたらした文化への影響，戦争に向かう時期の社会や生活の変化に着目して，事象を相互に関連付けるなどして，近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現している。 | ・近代の日本と世界について，よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　👧 🧑生徒の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **【ねらい】資料を読み取り，気付いたことや疑問を出し合う中で小単元の学習問題を設定し，予想を基に学習計画を立て，課題解決への見通しをもつ。** | | | | | |
| | **○明治・大正期に生糸が日本最大の輸出品であったことを捉え学習問題を設定する。**<br>👧 生糸は日本最大の輸出品で，その 30%近くが長野県で生産されていたね。<br>細く軽い生糸が「国の命を繋ぐ」とはどういうことだろう。🧑 | ♡ | | | | **気付きや疑問を基に学習問題を設定する**<br>**横浜港から輸出された生糸の出荷量，県歌「信濃の国」３番の歌詞などの資料を基に，気付いたことや疑問を出し合う場を設けます。** |
| | **小単元の学習問題：なぜ，生糸が「国の命を繋ぐ」と言われていたのだろうか。** | | | | | |
| | **○予想を基に，学習計画を立てる。**<br>製糸業の発展が経済や近代化にどのように影響したのか調べてみたい。👧<br>🧑 生糸の輸出によって人々の生活がどのように変化したのか調べよう。 | | | ♡ | | **予想を基に学習計画を立てる**<br>**問題解決の見通しをもてるよう，予想を基に調べる内容や方法を検討する場を設けます。** |
| 2～4 | **【ねらい】近代産業の進展，貿易や文化による諸外国との関わりに着目して調べることを通して，日本で近代産業が発展し近代文化が形成されたことを理解する。** | | | | | |
| | **○各自で学習問題について調べる。**<br>**💻クラウドを活用し，調べたりまとめたりした情報を共有する。**<br>🧑 鉄道が敷かれたことで生糸の輸送や工女の移動が盛んになり，各地に数多く作られた製糸工場を中心に地域の経済が発展していったんだ。<br>新しい機械や技術を導入し生産量を伸ばした日本は，生糸の輸出で得た外貨で軍艦などを買い，国力を向上させたよ。👧<br>🧑 欧米文化を積極的に受け入れ，学問や技術が発展したことで，近代化が進んだんだ。産業の発展は，社会構造や人々の生活に変化をもたらしたんだね。 | ♡ | ♡ | | | **歴史的な見方・考え方を働かせ，予想や仮説の検証に向けて追究する**<br>**学習計画に沿って，各自で教科書，資料集，タブレット端末を活用して調べたり，友と話し合いながら考えたりする場を設けます。**<br>♡ スライドにまとめた内容，発言等から，「我が国の産業革命，この時期の国民生活の変化，学問・教育・科学・芸術の発展などを基に，我が国で近代産業が発展し，近代文化が形成されたことを理解しているか」を評価し，学習改善につなげる。（知） |
| 5 | **【ねらい】学習したことを基に，近代社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現する。** | | | | | |
| | **○小単元の学習問題についてまとめる。**<br>**💻付箋ツールを用いて調べた内容を比較したり関連付けたりしながら整理する。**<br>🧑 全国有数の生産量であった長野県の生糸は，近代化を進め欧米列強に負けない国づくりをしようとする日本を支える重要なものだったので，「国の命を繋ぐ」と言われていたんだ。 | ☆ | ☆ | ☆ | | **小単元の学習を生かして考察する**<br>**蓄積してきた情報を基に，友と話し合いながら相互の関連や意味を多面的・多角的に考察する場を設けます。**<br>☆ワークシートの記述内容から，「近代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し，表現しているか」を評価する。（思） |

**【小単元のねらいを達成した生徒の姿】**製糸業などの軽工業は，鉄道網の整備や機械化を促すなど，日本の生産力を高める先駆けとなった。経済を発展させることで国力の向上を目指したり，欧米から学問や技術を積極的に受け入れたりして近代化を進める中で人々の生活が変化したことが分かった。

# ３　算数・数学

## Ⅰ　本県が目指す算数・数学科の授業

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，論理的，統合的・発展的に考える算数・数学科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 算数・数学科における教材研究のポイントとその具体

中２「文字式の利用」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**学習内容の系統性**

単元に関わる既習事項や学習内容が，どのように使われるかを学習指導要領で把握する。

例：１年次に，文字を用いて数量や数量の関係を式に表現したり，式の意味を読み取ったりしている。今後，連立二元一次方程式や二次方程式，図形や関数の領域にもつながる。

**つまずきの捉え**

子供のこれまでの学習状況から，本単元でのつまずきを予想し，具体的な支援を考える。

例：文字を用いた式で表せない子供には，具体的な数を当てはめたり，図に表したりして考える機会や，ノートや教科書を見直すなどの学び直しの機会を設ける。

#### 教材の視点から

**ねらいの明確化**

育成すべき「資質・能力」を明確にし，単元終末の子供の具体の姿を考える。

例：文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解し，文字を用いた式で表現したり式の意味を読み取ったりする力を養うとともに，文字を用いた式を具体的な場面で活用することを通して，そのよさを実感できるようにする。

**素材の教材化**

単元のねらいの達成に向けて，どのような場面や，数学的活動を位置付けるか考える。

例：具体的な数で計算するなどし，成り立つ性質を子供が見いだせるようにする。また，目的に応じて式を変形することのよさや必要感を実感したり，条件を変えても，見いだした性質が成り立つかどうか発展的に考察したりする場面を設ける。

#### 学習の過程の視点から（数学的活動を通した主体的・対話的で深い学びの実現）

**数学的活動の充実**

（ｉ）（iii）子供が自ら問題を見いだし，数学的に表現・処理し，その過程や結果を振り返って評価・改善する場面を設ける。

（ii）問題解決の過程において，数学的な用語を用いて，表，式，グラフ，図などと共に説明したり，伝え合ったりする活動を位置付ける。

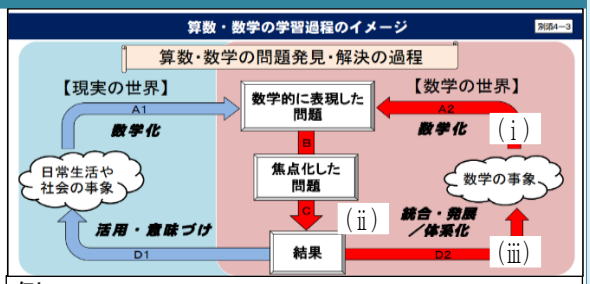
**主体的・対話的で深い学び**

（ｉ）学習問題を子供と共につくり，子供が解決する必要感をもてるようにする。

（ii）自分の考えと友の考えの共通点や相違点に着目し，自分の考えを広げたり，深めたりする場面を設ける。

（iii）子供の気付きや疑問を広げ，単元を通して追究を深めていくことができるように，本時の学びや問題解決の過程を振り返る活動を位置付ける。

←学びの充実につながる ICT の活用場面事例




例

（ｉ）個々に具体的な数で計算する場面を設けて，子供が「こんな性質がありそう」という見通しをもてるようにする。

（ii）お互いの考えを比較する場面を設けて（ICT の活用），子供が文字の置き方の共通点や相違点を見いだせるようにする。

（iii）「問題の条件を変えたらどうなるか」等と問いかけ，子供がすでに説明した過程や結果を振り返って，統合的・発展的に考察し，「○○ならば△△だろうか」のように新たな問題を見いだせるようにする。

※（ｉ）（ii）（iii）は上図に対応

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　中学校　第２学年

**【単元名】**　式の計算（全 12 時間）　〔小単元〕「文字式の利用」（全４時間）

**【単元の評価規準】**　内容　Ａ（１）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①「連続する３つの整数の和」など，具体的な事象における数量の関係を，文字を用いた式で表したり，式の意味を読み取ったりすることができる。<br>②文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できることを理解している。 | ①文字を用いた式を活用して，「見いだした数の性質」を簡潔，明瞭で一般的に表現・処理し，得られた結果を問題に即して解釈することができる。 | ①文字を用いた式を活用して，説明できるよさを実感したり，問題解決の過程を振り返って，表現等について評価・改善しようとしたり，統合的・発展的に考察しようとしたりしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　生徒の意識<br>（ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **小単元の学習問題**：数の性質について予想を立て，その予想が常に成り立つかを説明しよう。<br>**【学習問題】「連続する３つの整数の和」について，どんなことがいえそうか。**<br>○「連続する３つの整数の和は３の倍数になる」という予想を立て，このことを，文字を用いた式で説明する。<br>具体的な数で計算したら３の倍数になりそう。このことは常に成り立つのかな。最小の数を文字で表せば，説明できそうだね。<br>３（ｎ＋１）となって，ｎ＋１は整数だから，３の倍数だ。<br>ｎ＋１は真ん中の数だね。だから真ん中の数の３倍ということもわかるよ。<br>数の性質は他にもあるのかな？ | ♡<br>① | ♡<br>① | | | ♡ノートなどの記述から，「文字を用いた式で表す」「式の意味を読み取る」ことについての学習状況を把握し，先の学習指導に生かし，第４時で評定に用いる評価ができるようにする。（知） | 具体から予想を立て，問題を見いだし，解決する<br>**生徒が具体的な数を基に予想を立て，立てた予想が常に成り立つかという問題を見いだし，「文字を使えば説明できそう」という解決の見通しをもつことができるようにします。** |
| 2・3 | **【学習問題】「（偶数）と（奇数）の和」などについて，どんなことがいえそうか。**<br>○「偶＋奇」についていえることを説明した後，問題解決を振り返り，問題の条件を変えた場合について考察する。（「２桁の整数の和」第３時）<br>偶数同士だったら，どうなるのかな？<br>問題の条件が変わっても，説明の一部分を変えれば，同じように説明できそうだね。<br>クラウド上でお互いの説明を共有し，参考にするなどして，自分の説明の評価・改善につなげる。 | ♡<br>②<br>☆<br>①<br>② | ♡<br>① | ♡<br>① | | ♡☆これまでの生徒の学習状況を把握し，文字の式に表せない生徒や文字の式が読み取れない生徒には，偶数や奇数の構成を具体的な数で確認するなどし，数量及び数量の関係を捉えられるように指導する。（知） | 振り返って統合的・発展的に考察する<br>**問題解決の過程や結果を振り返り，条件を変えて「新たな問題を見いだす」ことを生徒が意識できるようにします。** |
| 4 | **【学習問題】「カレンダーの４つの数（横の４つ）の和」について，どんなことがいえそうか。**<br>○問題解決の過程や結果を振り返り，得られた結果「２（２ｎ＋３）」を問題に即して解釈し，統合的・発展的に考察する。<br>２（２ｎ＋３）だから，２の倍数。２ｎ＋３は何を表すのかな。<br>２ｎ＋３は（ｎ＋１）＋（ｎ＋２）＝ｎ＋（ｎ＋３）だから，中の２数の和だし，両端の２数の和とも読み取れるよ。正方形で囲んだらどうかな。<br>新しい問題を見つけて解決するのは面白いね。<br>九九表にも，何か不思議がありそう。 | | ☆<br>① | ☆<br>① | | ☆発言やノートの記述から，文字を用いた式を活用して，問題に即して解釈する姿を評価する。（思）<br>☆ノートなどの記述から文字を用いた式のよさに気付いている姿，発展的に考えようとしている姿を評価する。（主） | 振り返って統合的・発展的に考察する<br>**問題解決の過程を振り返り，得られた結果を解釈して，新たな問題でも同じことが成り立つかどうか，文字を用いた式で判断したり，条件を見いだしたりすることができるようにします。** |

# ４　理　科

## Ⅰ　本県が目指す理科の授業

自然の事物・現象について科学的に探究するための資質・能力を育成する理科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 理科における教材研究のポイントとその具体

小４「雨水のゆくえ」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**子供の素地となる資質・能力の把握**
本単元の問題解決に関わる「知識及び技能」や「思考力，判断力，表現力等」の状況を把握する。

**子供の学び方に関わる理解**
本単元に関わり，生活経験や素朴概念を基に，どのように他者と関わり問題解決しようとしているかを把握する。

**例　子供の素地となる資質・能力の把握**
「天気と気温」の単元では，晴れた日の１日の気温の変化を調べてグラフ化した後，雨やくもりの日の１日の気温の変化を予想する場面を設定した。生活経験と晴れた日の気温の変化のグラフを関係付け，「雨やくもりの日は太陽が出ていないので，晴れた日のように昼頃に気温が上がる変化にはならない」と根拠のある予想をする子供の姿が見られた。

#### 教材の視点から

**素材の研究**
素材についての基礎的な理解を深め，子供の目線で素材に触れ，その魅力を味わう。

**素材の教材化**
子供の科学的な問題解決を喚起するために，素材を単元のどの場面に位置付けるかを明らかにする。

**例　素材の研究**
校庭と砂場は，水のしみ込み方を比較しやすい。土や砂に触れると色や手触りや粒の大きさに，校庭や砂場を掘ると内部の層の様子等に気付き，砂遊びや植物の水やり等の生活経験と結び付けやすい。

**例　素材の教材化**
水が高い場所から低い場所へ流れて集まることを学習した子供に，地面の傾きがない校庭と砂場に，雨が降り続いている際の写真を提示する。校庭には水たまりがあり，砂場にはないことから，子供は水のしみ込み方の違いに気付くだろう。そこで，実際に校庭の土と砂場の砂を観察する。子供は，普段何気なく見て触れていた土や砂の粒の大きさの違いに着目して，粒の大きさと水のしみ込み方の関係について考えていくだろう。

#### 学習の過程の視点から

**問題解決の過程の充実**

▸ **問題を見いだす場面**
子供が何と何（事象同士，事象と既習の内容等）を比較することで，どのような差異点や共通点に気付き，どのような問題を見いだすかを予想し，導入を工夫する。

▸ **根拠のある予想や仮説を発想する場面**
子供がどのように事象と既習の内容や生活経験等を関係付けて予想や仮説を立てるかを想定し，必要な支援を用意する。

▸ **解決の方法を発想する場面**
子供がどのように条件を制御して解決の方法を発想しようとするかを想定し，「道具」，「手順」，「結果の見通し」のどこを考えるかを決めだす。

▸ **より妥当な考えをつくりだす場面**
子供が既にもっている考えをより科学的なものに変容させることができるように，複数の観察，実験やデータを基に考察する等，多面的に考える場面を設定する。

**例　問題解決の過程の充実**

▸ **根拠のある予想や仮説を発想する場面**
水のしみ込み方が違う理由を知りたいと考えた子供に，校庭の土や砂場の砂を観察したり，生活経験を想起したりする場面を設定する。土や砂に触れたり，虫めがねで粒を観察したり，植物への水やりの経験等を伝え合ったりすることを通して「土は砂よりも粒が小さいから水が通り抜けにくいと思う」等の予想を発想できるようにする。粒の大きさの違いに着目できていない場合は，粒を図に表し，大きさの違いを視覚的に捉えられるようにしたり，再度観察を行う場面を設定したりする。

▸ **解決の方法を発想する場面**
実験装置は教師が提示する。子供が手順，結果の見通しを考えた後，共有する場面を設定し，用いる土や砂や水の量，水の量等の揃える条件や，水のしみ込みやすさの判断の仕方等の妥当性について検討できるようにする。なお，同材質で粒の大きさのみが違うカラーサンド等を使用することも考えられる。

←学びの充実につながる ICT の活用場面事例（小６　「生き物と空気」）

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

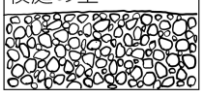
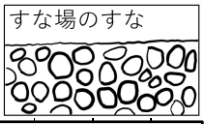
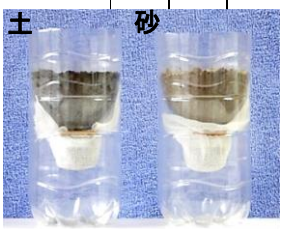
【学　年】　小学校　第４学年

【単元名】　雨水のゆくえ（全６時間）　【小単元】水のしみ込み方（全３時間）

【単元の評価規準】　内容　Ｂ生命・地球（３）アイ

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・水のしみ込み方は，土の粒の大きさによって違いがあることを理解している。<br>・観察，実験などに関する技能を身に付けている。（※水の流れ方については省略） | ・雨水の行方と地面の様子について追究する中で，既習の内容や生活経験を基に，雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさとの関係について，根拠のある予想や仮説を発想し，表現している。<br>・雨水の行方と地面の様子について，観察，実験などを行い，得られた結果を基に考察し，表現するなどして問題解決している。 | ・雨水の行方と地面の様子についての事物・現象に進んで関わり，他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに，学んだことを学習や生活に生かそうとしている。 |

【主な学習活動と評価計画】　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　👧 👦児童の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **○降雨時の校庭と砂場の画像を比較し，水たまりについての気付きや疑問を出し合い，問題を見いだす。**<br>👧 校庭は水たまりができているけど，砂場はできていないね。砂場は水がしみ込んだんだよ。<br>👦 校庭にはあまりしみ込まないのかな？土と砂では，どうして水のしみ込み方が違うのかな。<br>**学習問題：校庭の土と砂場の砂では，どうして水のしみ込み方が違うのだろうか。**<br>**○校庭の土と砂場の砂の観察を基に，予想する。**<br>👧 土はさらさらで，砂はざらざらだね。砂の粒の方が大きいから，水がしみ込みやすいと思う。<br>👦 植木鉢の土に水をあげたとき，水が鉢の下からなかなか出てこなかったよね。土は砂よりも粒が小さいから水が通り抜けにくいと思う。<br>校庭の土  <br>すな場のすな  <br>**学習課題：校庭の土と砂場の砂それぞれに水をかけて，粒の大きい砂の方が水がしみ込みやすいのか，調べてみよう。** | | ☆ | | 問題を見いだす<br>**水たまりができている場所とできていない場所の違いに対する気付きや疑問について問い返しを行い，水のしみ込み方へ問題を焦点化していきます。**<br>根拠のある予想を発想する<br>**校庭の土と砂場の砂を観察する場面を設定し，子供が土や砂の粒の大きさと水のしみ込み方を関係付けて予想できるようにします。**<br>☆ノートへの記述内容や発言等から，「観察や生活経験等を基に，水のしみ込み方と土や砂の粒の大きさの違いを結び付けて，根拠のある予想や仮説を発想しているか」を評価する。（思） |
| 2 | **○予想を確かめるための実験方法を考える。**<br>👧 容器に入れる土や砂の量，かける水の量を揃えて，同時に水をかけ，下に落ちてくる水の量を比べよう。<br>👦 土や砂の上にたまった水が無くなるのはどちらが速いかを調べよう。きっと砂の方が速く無くなるぞ。<br>  <br> | | | ♡ | 解決の方法を発想する<br>**実験装置を提示し，揃える条件，実験の手順，結果の見通しを考え，共有する場面を設定し，子供が方法の妥当性について検討できるようにします。** | |
| 3 | **○実験を行い，複数の結果を比較して考察する。**<br>**💻実験結果を入力した表や実験の様子を撮影した動画を共有する。**<br>👧 各班の結果を見ると，少し違いはあるけど，土に比べて砂はしみ込み方が速いね。<br>👦 雨水のしみ込み方は，土や砂の粒の大きさが大きいほど速いようだね。<br>**○日常生活とのつながりを考える。**<br>👧 昇降口の外に粒の大きい砂利が敷いてあるのは，水をしみ込みやすくして，学校に来る人が困らないようにしているんだね。 | ☆ | | ♡ | より妥当な考えをつくりだす<br>**クラウド等を用いて，各班の結果を共有し，複数の結果や自分の最初の予想と比較する場面を設定し，子供が多面的に考えることができるようにします。**<br>☆ノートへの記述内容や発言等から，「水のしみ込み方は，土の粒の大きさによって違いがあることを理解しているか」を評価する。（知） | |

# ５　生　活

## Ⅰ　本県が目指す生活科の授業

思いや願いの実現に向け，自立し生活を豊かにする生活科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 生活科における教材研究のポイントとその具体

小１「カエルとなかよし」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**子供の興味・関心を捉える**

発言やつぶやき，休み時間の様子や会話から，子供がどのようなことに興味を抱いたり，関心を寄せたりしているのか，どのような学習を志向しているのかを捉える。

例：登校中や行間休みに見付けた生き物を教室に持ち込む子が多い。昆虫図鑑を見たり，他学級で飼育する生き物を見に行ったりすることを楽しみにしている子もいる。

**幼児期の育ちを捉える**

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（P64，65　参照）」を手掛かりに，幼児期にどのように育ってきたのかを園の先生に尋ねたり，園での遊びを参観したりして把握する。

例：園では，散歩や戸外遊びを通して，生き物の動きや特性に関心をもち関わりを深めた。生き物との触れ合い経験は，個人差が大きい。

#### 教材の視点から

**素材の研究**

実際に事実や実物に触れることのできる地域の素材を繰り返し調査し，地域の環境を生かす。教師自身が十分に対象と関わり，**視点**をもって教材としての価値を検討する。

☞**視点**：子供にどんな気付きが生まれるか，思いや願いが高まる可能性のあるものか
単元を通して願う子供の姿につながるものか

**単元の構想**

子供の思いや願いを基にし，どのような学習活動が展開しそうかを構想する（例1）。その際，他教科等との関連を見通し，資質・能力の育成が期待できるかを吟味する（例2）。

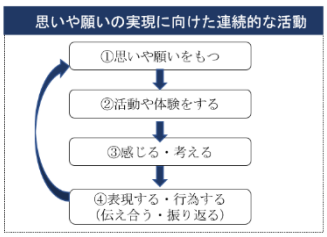
例1：散歩で見付けたカエルを飼育し，繰り返し触れ合う。飼育を通して気付いたことを基に世話の仕方を工夫し，生き物に応じた世話の仕方や生き物が生命をもって生きていること等，気付きの質を高めていけるようにする。

例2：「カエル日記を書きたい」という願いを基に，国語科との関連を図り，記録する文章を書く言語活動を構想する。合科的・関連的な指導を行えるよう「書くこと」の指導事項を確認し，国語科として評価できるようにする。

#### 学習の過程の視点から

**学習の過程の構想**

子供が願いの実現に向かえるようにするため，①～④を基本とした学習過程を構想するが，子供の興味・関心に基づき弾力的に捉え，子供と共に授業を創る。




**子供が自ら「やってみたくなる」環境の構成**

繰り返し対象に関わったり自分で調べたりすることのできる飼育場所や活動場所をつくる。

例：いつでも見ることのできる場所に水槽を配置する。カエルをじっくり見て変化や成長の様子に気付けるよう，子供の目線にあう高さの棚等に水槽を置く。

例：疑問に思ったことをすぐに調べられるよう，関係する図鑑や本を学級文庫に配置する。

**気付きの質の高まりを促す**

体験活動と表現活動（言葉，絵，動作，劇化等）とが行き来する展開を連続的に位置付け，気付きを表現したり共有したりしながら**気付きの質**が高まるように意識する。

**気付きの質**の高まり
- 自覚的な気付き
- 関連付けられた気付き
- 自分自身への気付き

例：生き物の立場に立って考え，世話の仕方を見直せるよう，カエルの飼育をして気付いたことや感じたことを振り返り，表現，共有する。

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

←学びの充実につながる
ICT の活用場面事例

【学　年】　小学校　第１学年

【単元名】　カエルとなかよし（全 12 時間）　※日々の世話は日常的に行う

【単元の評価規準】　内容　（７）（８）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 生き物を育てる活動を通して，生き物にあった世話の仕方があることやそれらは命をもっていることに気付いている。 | 生き物を育てる活動を通して，生き物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけたり，気付いたこと表現したりしている。 | 生き物を育てる活動を通して，生き物への親しみをもち，これからも進んで生き物と関わろうとしている。 |

【主な学習活動と評価計画】　（☆…「観点別評価に用いる評価」、♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　👧 👦児童の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | **○散歩で見付けたカエルが教室に持ち込まれ，触れ合う。**<br>👧 田んぼでカエルを捕まえたよ。かわいいな。<br>保育園ではカマキリを飼っていたよ。また生き物を飼いたい。 👦<br>**○飼育への思いや願いをもつ。**<br>**単元の学習問題：見付けたカエルを飼って一緒にあそびたいな。**<br>💻本や ICT 端末を用いて，エサや世話の仕方を調べる。 | | | | | **思いや願いが膨らむ環境の構成をする**<br>教室内に生き物スペースを設け飼育できるようにしたり，飼育に関する書籍を置いたりして場をつくり，生き物飼育への期待や見通しをもてるようにします。 |
| 3・4・5・6・7・8・9・10 | **【ねらい】生き物の飼育を通して，生き物の特徴や世話の仕方があることに気付いたり，適切な世話の仕方を考え働きかけを変えたりする。**<br>**○カエルの世話をする。**<br>💻カエルの様子を記録する。<br>👧 クモをたくさん捕まえたよ。カエルのエサにするんだ。<br>👦 生きているクモをたくさん捕まえるのは，大変だな。<br>👧 「人工エサ」というものでも，エサになるんだって。食べるかな？<br>**○カエルの遊び場を作る**<br>カエルが楽しく遊べる遊園地を作ろうよ。 👦<br>ｼﾞｪｯﾄｺｰｽﾀｰや観覧車を作ったよ。楽しんでくれるかな。 👧<br>観覧車で遊ばせよう。カエルも嬉しそうだよ。 👦<br>あれ？カエルが動かなくなってしまったよ。どうしたのかな。 👧 | ☆<br>♡ | ☆<br>♡ | ☆<br>♡ | ☆つぶやきや発言，行動，写真，学習カードの記述から，生き物の変化や成長の様子に関心をもって働きかけている姿を評価する。 | **気付いたことを表現する**<br>対象へどのように働きかけようとしているのかを見取り，「どうして〇〇したの？」など問いかけることで，気付きを表せるようにします。対象への気付きを自覚できるようにします。<br>**対象への気付きの質を高める**<br>良かれと思って自分本位な働きかけをしている場合は、繰り返し対象と関わることのできる機会を設け、対象から様々に働き返され、徐々に対象を感じ、分かっていく過程を見守ったり、気付きや考えたことを表現して自覚できるようにしたりします。 |
| 11・12 | **○気付いたことを伝え合い，自分たちの関わりを見直す。**<br>👧 遊園地で遊んでから弱っている。エサも食べていないよ。遊園地で遊ばせたのがよくなかったのかな。<br>でも，カエルはジャンプしていて楽しそうだったよ。 👦<br>👦 僕たちはよくても，カエルは嫌だったのかも。カエルはたくさん触られると安心できないって，本で読んだことあるよ。<br>**子供の新たな問題意識：カエルにとっての安心って何だろう。** | ☆ | ☆ | ☆ | ☆つぶやきや発言，学習カードの記述から，生き物との関わりを振り返りながら気付いたことを表現している姿を評価する。 | **対象と自分との関わりを振り返る**<br>写真や学習カードを見返し，対象と自分との関わり方を見つめ直し，語り合うことでこれからの関わり方について考える場を設けます。 |

# ６　音　楽

## Ⅰ　本県が目指す音楽科の授業

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付ける音楽科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 音楽科における教材研究のポイントとその具体

中１：鑑賞「詩と音楽の特徴との関わりを感じ取って聴こう」（教材名：「魔王」）の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 生徒の視点から

**素地となる資質・能力の把握**

これから学ぼうとすることに対して，関連する題材や，直前の題材で学んできたこと，その定着状況を把握する。

**子供の興味，関心，学び方等の把握**

生徒一人一人や学級全体の音楽の学習に対する興味，関心，学び方等の傾向や配慮すべきことを捉える。

・前題材の映画音楽の鑑賞では，興味をもって映画音楽に関わり，音楽から想像できる情景や，音楽の役割について自分の考えをもち，積極的に他者に伝える姿があった。
・音楽を感覚的に捉える生徒が多いため，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えることができるようにする。

#### 題材・教材の視点から

**素材研究・教材化**

・教師が実際に教材を歌ったり聴いたりして，その教材の特徴をつかみ，生徒の心がどのように動くか考える。
・育成したい資質・能力と教材の特徴に基づいて設定した題材の目標に照らして，生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を決め出す。
・どのような学習活動をどのように展開することが，音楽的な見方・考え方を働かせることにつながるのか考える。

・本題材では，物語に合わせて１人の歌手が音色を変えながら４人の人物の特徴的な旋律を歌い分けるという教材の特徴から，思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を「音色」と「旋律」と決め出す。
・題材展開の前半では全体で鑑賞し，「音色」や「旋律」を知覚し，曲想と音楽の構造との関わりを理解できるようにする。後半では，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，それらを根拠にして曲のよさや美しさを味わえるようにする。

#### 学習の過程の視点から

**主体的・対話的で深い学び**

▶ 音や音楽で心が動く場面を設定し，学習の見通しがもてるようにする。また生徒が自分の学びや変容を自覚できるよう，ねらいに即して振り返ることができる場面を設定する。
▶ 生徒にとって必要感のある対話や対話的な活動を通して，考えを広げたり，深めたりできるようにする。

学びの充実につながる ICT の活用場面事例

▶ 音楽的な見方・考え方を働かせて，思考，判断し，表現する一連の過程を大切にする。生徒がどの場面でどのような知識及び技能を身に付けるか，身に付けた知識及び技能をどの場面で，どのように活用して思考，判断，表現するのか考える。

・本題材ではまず，「音色」「旋律」を知覚できるように，曲名を伝えずに鑑賞し，音楽の特徴に気付く場面を設ける。その後，物語の内容を知り，知覚した「音色」と「旋律」の働きと関連付けることで，「登場人物の心情と『音色』や『旋律』が関係していそうだ」と学びの見通しをもてるようにする。
・ICT を活用しながら，曲との対話の時間を確保したり，友と知覚したことや感受したことを共有したりするなど，考えを広げたり深めたりできるようにする。
・自分が気になった登場人物の「音色」や「旋律」に着目して聴く場面を設け，要素の変化と登場人物の心情の変化をつなげて思考できるようにし，自己のイメージと関連付けて「魔王」のよさや美しさを味わって聴けるようにする。

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　中学校　第１学年

**【題材名】**　詩と音楽との関わりを感じ取って聴こう（全３時間）〔教材名〕「魔王」（シューベルト作曲）

**【題材の評価規準】**　内容　B 鑑賞　(1)鑑賞　ア(ｱ)，イ(ｱ)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 | 思 旋律，音色を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 | 態 「魔王」の登場人物ごとの音色や旋律のちがいやその変化に興味・関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」，⬇…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　👧 👨生徒の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 【ねらい】「魔王」を鑑賞して、知覚したことと感受したことを共有し、学習の見通しをもつ。<br>○「魔王」を鑑賞して，知覚した「音色」，「旋律」の特徴や感受したことを共有する。<br>👧 暗い感じの音色の声だったな<br>似た旋律が繰り返されていた。 👨<br>それぞれの登場人物の音色や旋律に特徴があるね。 👨<br>題材の学習問題：登場人物ごとの「音色」や「旋律」に着目して、「魔王」を味わって聴こう。 | ⬇ | | ⬇ | | 驚きや気付きを共有し，学習の見通しをもつ<br>楽曲を聴き，心が動いた生徒達の自然な反応から，要素の働きや音楽の特徴を捉え、友と共有・共感する場を設け、その後の追究のよりどころとします。 |
| 2 | 【ねらい】「音色」や「旋律」を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感受するとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。<br>○「魔王」の詩の内容を知り，登場人物ごとの「音色」や「旋律」に着目しながら聴く。<br>💻自分のペースで繰り返し聴く<br>👧 この優しい声は魔王かな。<br>魔王が歌うときにはピアノの音も優しくなっているね。 👨<br>○知覚・感受したことを友と共有し，自分が気になる登場人物の「音色」や「旋律」の変化に着目して聴く。<br>👧 魔王の３回目の旋律の最後が、低くて暗い声になっていて、本性を現したようにきこえるよ。 | ⬇ ☆ | ⬇ | ⬇ | ☆知 生徒のつぶやき，観察，ワークシートの記述等から評価する。<br>☆思 「音色」や「旋律」を知覚し，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いているか，観察・ワークシートの記述等から評価する。 | 知覚・感受したことの関わりを考える<br>生徒が「～な感じがする」と感覚的に音や音楽を捉えた時に，なぜそう捉えたのか問いかけ，音楽を形づくっている要素の働きとの関わりについて考えることができるように支援します。 |
| 3 | 【ねらい】「魔王」のよさや美しさを味わって聴き、学習を振り返る。<br>○知覚・感受したことを基に「魔王」のよさをまとめ，伝え合う。<br>💻クラウドで考えを共有する。<br>👧 最後さらっていく様子を，音色や調の変化で表現していたことが「魔王」の良さだな。<br>○考えたことを基に，全体で「魔王」を聴き，よさや美しさを味わう。 | | ⬇ ☆ | ⬇ ☆ | ☆態 観察・ワークシートの記述から総合的に評価する。 | 学んだことのよさを実感する<br>個々の考えをクラウドで共有し，相違点や共通点を考え合い，自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定します。 |

# 7　図画工作・美術

## Ⅰ　本県が目指す図画工作・美術科の授業

対象や事象を造形的な視点で捉え，
意味や価値をつくりだしながら追求していく図画工作・美術科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 図画工作・美術科における教材研究のポイント

小・５「けずって見つけたいい形」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**素地となる資質・能力の把握**

本題材で扱う素地となる「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」の定着状況を，前題材までの記録から確認する。

**児童生徒の実態**

本題材に取り組む意味や価値を感じ，興味や関心をもてそうかを捉える。また，既習の経験を生かせるかどうかを捉える。

例
- 形の感じや組み合わせによる感じなどについて学習しており，形によって感じ方の違いが生じることを基に，形と気持ちを関係付けて製作することができる。
- これまでの経験から，試しながら表したり，次第に表したいことを明確にしたりしていくことができる。

#### 教材の視点から

**教材化の研究**

- 本題材の指導事項を明確にし，資質･能力の育成に向けて，どのような学習活動にしたらよいのかを考え，材料や用具を選定し，題材を構想する。
- 教師が製作（制作）をして，指導事項が示す内容を具体的に捉えると共に，子供のつまずきへの支援を考える。

例
- 試しながら表したいことを見付けることができるよう，水分で固さを調節できる土粘土を用いた学習活動を構想し，様々な用具の効果を捉えておく。
- 表したいことが見付からない児童には，友の製作の様子を見たり，様々な用具の効果を試したりすることを提案する。

#### 学習の過程の視点から

**問題解決の過程の充実**

- 表したいことを見付けたり，複数のアイデアを考えながら構想を練ったりしていけるよう，多様な作品を参考にしたり，友と情報を共有したりする場を設定する。
- 子供の鑑賞や表現の姿から，本題材で理解する造形的な視点を取り上げ，表現を追求する視点として位置付ける。
- 材料や用具等の特徴を理解する場を設定し，子供が理解したことを生かして発想や構想をしたり，技能を発揮したりすることができるようにする。
- 製作を進める中で生まれた子供の課題意識を基に，その解決を目指そうとする題材展開を構想する。

**主体的・対話的で深い学び**

- 個で追求したことを，友と互いに練り合いたくなるような展開をつくる。
- 自らの変容を自覚し，次時への願いをもてるよう振り返りの場を設定する。

例
- 教師が作成した参考作品や，過去の作品画像を鑑賞して感じたことや考えたことなどを伝え合ったり，試しに粘土を削ったりする中で，造形的な視点を整理する。
- 動き，奥行き，バランスなどの造形的な特徴，構成の美しさなどの感じを基に，表現したいことがより明確になるような構成について，個で考えたり，友と考え合ったりする場を設定する。
- かきべらやピーラーなどの道具が表現にもたらす効果を試したり，その効果について感じたことを伝え合ったりする場を設ける。
- 製作を進める中で作品の主題が表れているか不安を感じている児童の思いを取り上げ，造形的な視点を基に，互いに解決策を提案し合う展開を構想する。

←学びの充実につながる
ICT の活用場面事例

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　小学校　第５学年

**【題材名】**　けずって見つけた　いい形（全６時間）

**【題材の評価規準】**　内容（A表現(1)イ，(2)，　B鑑賞(1)ア，　〔共通事項〕）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現（発…発想や構想　鑑…鑑賞） | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 知 材料を少しずつ削って形を表すときの感覚や行為を通して，動き，奥行き，バランスなどの造形的な特徴を理解している。<br>技 表現方法に応じて用具を活用するとともに，前学年までの経験や技能を生かしたり，表現に適した方法などを組み合わせたりして，表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 | 発 材料を削りながら感じたこと，想像したことから，表したいことを見付け，形や材料の特徴，構成の美しさなどの感じなどを考えながら，どのように主題を表すかについて考えている。<br>鑑 作品の造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴，表し方の変化などについて，感じ取ったり考えたりし，自分の見方や感じ方を深めている。 | 態 つくりだす喜びを味わい，主体的に材料に触れ，形を変えながら感じたことや思ったことを表現したり，鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　児童の意識<br>（ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | 【ねらい】感じ取ったことや考えたことなどを基に自分の表したい感じを捉え，製作の見通しをもつ。 | | | | | |
| | ○参考作品を鑑賞し，造形的なよさや美しさ，表現の意図や特徴について感じ取ったり考えたりし，つくりたいという願いをもつ。<br>○試しに粘土を削って感じたことや想像したこと等を伝え合い，自分の表したいことを考える。<br>削ってできた段差が階段のように見えてきた。未来へ向かう階段がある形にするには，どのように表したらよいのだろう。 | ♡知 | ♡発<br>☆発 | | | 造形的な視点を捉える<br>参考作品から造形的な視点を整理します。<br>互いの試作から感じたことや想像したこと等を参考に，自分の表したいことを考える<br>試作から見付けた表現やそこから感じたこと等をクラウド上で共有し，友の表現を試したり，新たな表現を見付けたりすることができる場を設定します。<br>☆発表したいことを考えることができたか，対話やワークシートなどから評価する。 |
| | 題材の学習問題：表したいことを表すには，どのように形を変えていったらよいだろうか。 | | | | | |
| 3・4・5 | 【ねらい】作品の主題を表すことができるよう，整理した造形的な視点を基に，形がつくりだす動きや奥行き，形の組合せや配置のバランスなどを考えながら，立体に表す。 | | | | | |
| | ○自分の表したいことを基に製作する。<br>未来に向けて上っていけるように粘土の上の方に階段を彫ってみたけど，どうかな。 | ♡知 | ♡発 | | | 造形的な視点に着目しながら製作していく<br>整理した造形的な視点を全体で確認し，各自が自分の表現に生かせるようにします。 |
| | ○小グループでアドバイスし合い，課題の解決策を基に製作する。<br>螺旋状の階段も組合せたら，頑張って上っていく感じが出ると思うけど，どうかな。<br>もらったアドバイスを基に削って形を変えていったら，表したい感じにより近付いてきたよ。 | ♡技 | ☆発 | | ☆発造形的な視点を基に，表したいことが表れるように構想を練っているかを，活動の姿やワークシートなどから評価する。 | 友のアドバイスをもとに，表し方を工夫していく<br>自分の製作に感じる課題について，付箋ツールを使って友と共有し，アドバイスし合って，表現を高めていけるようにします。 |
| | ○作品の主題に近付く表現になるよう表し方を工夫し，完成させる。 | ☆知技 | | | ☆知技造形的な視点を生かし，表したいことに合わせて工夫して表していたかを，活動の姿やワークシートなどから評価する。 | |
| 6 | 【ねらい】友の表現の意図や工夫から表現のよさを感じ取り，見方や感じ方を深める。 | | | | | |
| | ○学級全体や小グループで互いの表現のよさを感じ取り，伝え合う。<br>明るい未来に向けて上っていく感じが表せた。Aさんのように，上が細くなっていく柱のように削っても，上昇していく感じが表せるのだな。 | | ☆鑑 | ☆態 | ☆鑑見方や感じ方を深めている姿を，鑑賞カードや活動中の発言などから評価する。<br>☆態活動全体を通して把握し，最後に記録などから総合的に評価する。 | 見方や感じ方を深める<br>造形的な視点を基に，自他の表現の意図と工夫について，表現のよさを捉える場を設定します。 |

# ８　体育・保健体育

## Ⅰ　本県が目指す体育・保健体育科の授業

運動や健康の課題を，仲間と共に試行錯誤しながら追究し解決する
体育・保健体育科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 体育・保健体育科における教材研究のポイントとその具体

小３及び小４における　小３「グンッと回ろうマット運動」の例

**学習指導要領に示された目標及び内容を確認する**

#### 子供の視点から

**資質・能力、子供の実態の把握**

**本単元に関わる資質・能力の定着状況，興味・関心の程度を，アンケート等で把握する。**

- ゆりかご，前転がり，後ろ転がり，かえるの足打ち，くま歩き等をしながら，マットに背中や腹をつけて揺れたり，いろいろな方向に転がったりすることができた。
- 「クルッと回っている」等，友達のよい動きを擬態語や擬音語で伝えることができた。
- 順番やきまりを守り，安全に気を付けて，誰とでも仲よく運動遊びができた。
- 苦手な児童や意欲的でない児童も，傾斜のある場や痛くないように配慮した場を選んだり，集団で転がったりしながら取り組むことができていた。

#### 教材の視点から

**教材化の研究**

**扱う運動の楽しさと喜びに触れるため，各内容の既習事項や系統性，子供の実態，単元終末で目指す子供の姿の具体等を踏まえ，場や用具，グループ編成の視点から活動を工夫する。**

- 回転や支持するなどの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びに触れることができる運動である。
- 各種の技を，「系」，「技群」及び「グループ」（図１）を基に，低学年から高学年までの系統性のある指導を図る。
- 中学年では，高学年への発展性も考え，「グループ」の中で最も初歩的で易しい技であり，「グループ」の技に共通する技術的な課題をもっている基本的な技を扱う。
- 低学年の運動遊びとの円滑な接続を図るため，低学年で取り組んだ運動遊びとの違いや基本的な技に発展するためのポイントを確認するようにする。

例：回転系接転技群　前転グループ
〇共通する技術的な課題
　→体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方
〇運動遊び（前転がり）との違いや技のポイント
　→腰の高さや角度，膝の伸び等

| 種目 | 系 | 技群 | グループ | 低学年 運動遊び | 中学年 基本的な技（発展技） | 高学年 発展技（更なる発展技） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| マット運動 | 回転系 | 接転技 | 前転 | ゆりかご　前転がり　後ろ転がり<br>背支持倒立（首倒立）<br>だるま転がり　丸太ころがり<br>かえるの逆立ち<br>かえるの足打ち<br>うさぎ跳び　壁上り逆立ち | 前転<br>易しい場での開脚前転(開脚前転) | 補助倒立前転(倒立前転)(跳び前転)<br>開脚前転(易しい場での伸膝前転)<br>伸膝後転(後転倒立) |
| | | | 後転 | | 後転<br>開脚後転(伸膝後転) | |
| | | ほん転技 | 倒立回転 | 背支持倒立（首倒立）<br>壁上り逆立ち<br>ブリッジ<br>かえるの逆立ち<br>かえるの足打ち<br>うさぎ跳び　支持での川跳び<br>腕立て横跳び越し<br>助木 | 補助倒立ブリッジ(倒立ブリッジ)<br>側方倒立回転（ロンダート） | 倒立ブリッジ(前方倒立回転　前方倒立回転跳び)<br>ロンダート |
| | | | 起はねき | | 首はね起き（頭はね起き） | 頭はね起き |
| | 巧技系 | 平均立ち技 | 倒立 | | 壁倒立(補助倒立)<br>頭倒立 | 補助倒立(倒立) |

図１　系統表　Ｂ器械運動系（マット運動）「知識及び技能」
小学校学習指導要領解説より

#### 学習の過程の視点から

**単元の目標の設定，主体的・対話的で深い学び**

**単元の目標を達成した具体的な姿について，子供と共有する場面を設定する。自身の学びや変容を自覚し，自己の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。また，自己の課題を見付け，試行錯誤を重ねながら思考を深め，よりよく解決する学習過程を設定する。**

- 単元のはじめに，前転がりと前転（図２）の違いを学習することを通して，回転に関する子供の言葉（例：大きい，グンッと起き上がっている等）を共有する。
- 本単元で扱う回転系接転技群の基本的な技（前転，易しい場での開脚前転，後転，開脚後転）に共通する「回転力を高めるための動き方」に着目し，単元目標『大きくて，グンッと回る前転や後転をしよう！』を設定する。
- 子供同士や子供と教師との対話において，具体的な体の動かし方や感覚に基づく体の動かし方等の知識に着目し，教師が子供の言葉を位置付けたり整理したりすることで，他者と協働しながら課題を解決していく学びの充実を図り，資質・能力の育成につなげる。

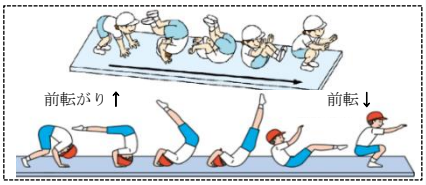



図２　小学校体育（運動領域）指導の手引
～楽しく身に付く体育の授業～より

体育分野の知識については，言葉や文章など明確な形で表出することが可能な形式知だけでなく，勘や直感，経験に基づく知恵などの暗黙知を含む概念であり，意欲，思考力，運動の技能などの源となるものである。

中学校学習指導要領解説より

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　小学校　第３学年

**【単元名】**　「グンッと回ろうマット運動」（全８時間）　（B　器械運動）

**【単元の評価規準】**（第３学年及び第４学年「器械運動」における　第３学年「マット運動」の評価規準）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①マット運動の行い方について，言ったり書いたりしている。<br>②はじまりの姿勢から手で支えながら腰を上げ，体を丸めながら後頭部-背中-尻-足裏の順にマットに接して前方に回転して立ち上がることができる。<br>③はじまりの姿勢から体を丸めながら尻-背中-後頭部-足裏の順にマットに接して腰を上げながら後方に回転し，両手で押して立ち上がることができる。 | ①タブレット端末の映像，手の着く位置に置いた目印などで，技のできばえを視覚的に確認して，自己に適した課題を見付けている。<br>②つまずいていた技が上手にできた際に，わかったことを言葉で伝えたり，タブレット端末の共有ツールで示したりして伝えている。 | ①マット運動の基本的な技に進んで取り組もうとしている。<br>②器械・器具の安全を確かめるとともに，試技の開始前の安全を確かめている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**（☆…「評定に用いる評価」，▼…「個別に評価し，改善が見られた児童については再度評価を行う」）

| 時 | ○学習活動　👧 👦児童の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 【ねらい】前転がりとの違いに着目し，前転の示範映像を見て練習することを通し，接転技群に共通する技術的な課題を基に単元の目標を設定するとともに，課題解決の見通しをもつ。<br>○低学年で学習した運動遊びに取り組む中で，前転がりと前転を取り上げ，目指す姿を確認する。<br>👧 前転と前転がりは，何が違うだろう。<br>前転は，体全体の動きが大きい。👦<br>👧 回転の後半にグンッと速くなっている。後転も同じなのかな。<br>単元目標：大きくて，グンッと回る前転や後転をしよう！ | ☆① | | | ☆マットの安全の確かめ方や用意の仕方，試技中の安全の確かめ方等，学習の進め方やきまりの理解状況について，発言や学習カードから確認する。 | **単元の見通しをもつ**<br>回転に関する子供の気付きを基に単元目標を設定します。回転が本単元で扱う技に共通していることを確認します。 |
| 2・3・4・5 | 【ねらい】基本的な技の行い方を知り，基本的な技に挑戦することを楽しむ。<br>💻具体的な体の動かし方や感覚に基づく体の動かし方等，本単元で扱う基本的な技のポイントを映像や付箋ツールを見て共有し，挑戦する。<br>前転も後転も，①腰と太腿が離れている　②腰の位置が高い　③膝が伸びている点がポイントだ。👦<br>👧 私の映像を見ると，腰の位置が低い。付箋ツールに「腰を上げるには，くま歩きのように腰を高くし，地面をバンッと蹴る」と書いてある。試してみよう。<br>坂道マットだと回転に勢いがつくから，開脚前転もできそうだ。挑戦してみよう。👦 | ☆②③ | ☆① | ☆② | ☆はじまりの姿勢から，体を丸めながら順にマットに接し，腰を上げて立ち上がれているか，練習の様子から評価する。 | **基礎的・基本的な技能の習得を図る**<br>毎時間の始めに，低学年で扱った運動（ゆりかご，かえるの足打ち，くま歩き等）を補助運動として位置付け，感覚づくりの運動に取り組めるようにします。<br>**自己の課題解決に向けて協働的に学ぶ**<br>💻映像や付箋ツールを活用し，感覚に基づく体の動かし方にも着目し，子供の言葉を位置付けたり整理したりして，仲間と関わり合い追究できるようにします。<br>学びの充実につながる ICT の活用場面事例 |
| 6・7・8 | 【ねらい】更に練習したい技，もう少しでできそうな技に挑戦したり，できるようになったりすることを楽しむ。<br>○個々の課題を追究する。<br>👧 後転の動きが小さいから，最後にグイッと両手を押してみよう。<br>○単元のまとめをする。<br>前転で腰をしっかり上げたら，大きくグンッと回ることができた。👦 | ▼ | ▼ | ▼ ☆① | 総括的な評価<br>☆これまでの学習を総括的に評価する。 | **自己の学びや変容を自覚する**<br>技ができるように繰り返し挑戦したこと，見付けた動きのポイントや分かったこと，仲間との関わり合いのよさ等を自覚・実感できるようにまとめます。 |

# ９－(1)　家庭，技術・家庭（家庭分野）

## Ⅰ　本県が目指す家庭，技術・家庭（家庭分野）の授業

**生活をよりよくしようと工夫し創造する資質・能力を育む家庭科，家庭分野の学習**

## Ⅱ　教材研究の充実

**家庭科，家庭分野における教材研究のポイントとその具体**　中２または中３「地域の和定食」の例

**学習指導要領に示された目標及び内容を確認する**

### 子供の視点から

**子供や家庭，地域の実態把握**

子供の家庭生活の状況や生活経験はそれぞれ違うことから，子供の興味や関心，知識・技能は様々である。よって内容に関する子供や家庭，地域の実態を丁寧に捉えるようにする。

例　学校給食では，地域の食材が多く用いられている。家庭や地域では，その地域の食文化に触れる機会が減ってきている。

子供たちは，小学校での学習から，だしの役割と，ご飯とみそ汁を中心とした１食分の献立作成の方法について学習している。

### 題材の視点から

**他の内容との関連**

学習指導要領のＡ～Ｃの内容や指導事項の相互の関連を図って題材を構成し，効果的な学習が展開できるよう配慮する。

例　本題材では，内容Ｂ（3）を主として扱うが，内容Ｂ（１）「食事の役割と中学生の栄養の特徴」のア（ア）との関連を図り，「食事には文化を伝える役割があること」についても扱う。

**教材化の研究**

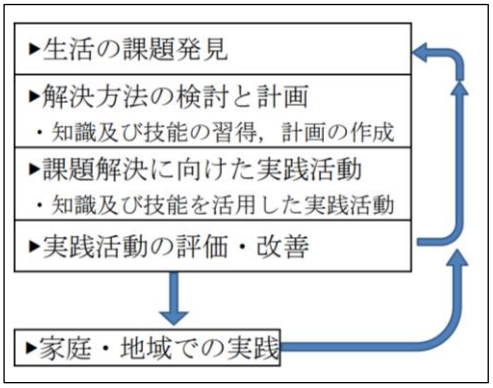
働かせる「生活の営みに係る見方・考え方」のうち，どの視点で生活事象を捉え，どのような問題解決的な学習を位置付けるかを考える。

例　「地域の食材を用いた和食の調理」の内容を「生活文化の継承」「健康」の視点で捉え，地域の食文化のよさについて学ぶ場面を設定する。

これまでに習得した知識及び技能を活用し，手順を考えた効率的な調理法について考えられるようにする。

### 学習の過程の視点から

**家庭分野の学習過程**




家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

学びの充実につながる→
ICT の活用場面事例

例　**生活の課題発見**

○生活の中から問題を見いだすための活動
- 和食についてのイメージマップ作り
- 他国からみる和食の魅力調べ
- 動画（例「和食が日本文化である理由（農林水産省）」の視聴

生徒は，「和食は，一汁三菜を大切にしており栄養のバランスがよい食事である」というよさに気付く一方，和食の調理経験が少ないことや，一度に複数の調理をすることの難しさに問題を見いだすだろう。

○課題の設定につながる活動
- 地域の食材をだしで調理した煮物などの試食
- 地域の食材の生産者の話
- １食分の和食についての栄養教諭の話

生徒は，地域の人々の思いや地域の食材を用いた和食に触れることによって，和食の調理に対して興味・関心を高め，１食分の和食の調理をしたいという願いをもつだろう。

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　中学校　第２学年または第３学年

**【題材名】**　「地域の和定食」（全８時間）

**【題材の評価規準】**　　内容　B (3) ア (ｴ)，イ

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①地域の食文化について理解している。<br>②地域の食材を用いた和食の調理が適切にできる。 | 地域の食材を用いた１食分の和食の調理における食品の選択や調理の仕方，調理計画について，<br>①問題を見いだして課題を設定している。<br>②（計画を）考え，工夫している。<br>③実践を評価したり，改善したりしている。<br>④課題解決に向けた一連の活動について，考察したことを論理的に表現している。 | 家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，地域の食材を用いた和食の調理と地域の食文化について，<br>①課題の解決に主体的に取り組もうとしている。<br>②課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。<br>③生活を工夫し創造し，実践しようとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　👧 🧑生徒の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **○地域の食文化を知り，１食分の和食の調理における問題を見いだし課題を設定する。**<br>👧 ○○で採れた大根の煮物，おいしい！<br>🧑 おいしさを引き立てるのはだしかな？<br>👧 地域の食材は新鮮で安く手に入る。地域の食材を使って，１食分の和食の調理に挑戦したいけれど，難しそう。<br>**題材の学習問題：地域の食材を生かした和定食はどのように作ったらよいだろう** | ①☆ | ①☆ | | ☆発言やカードの記述などから和定食について問題を見いだして課題を設定しているか評価する。（思①） | **問題を見いだし課題を設定する**<br>**地域の食材を用いた煮物や汁物を試食したり，地域の食材の生産者や栄養教諭の話を聞いたりすることで，１食分の和食を調理したいという願いをもてるようにします。** |
| 2・3・4 | **○「さばの信州みそ煮」を主菜とした和定食に合う地域の食材を用いた煮物，汁物を考える。**<br>（例）季節野菜の煮物，のっぺい汁<br>**○グループでだしを用いた汁物の試し調理を行い，季節野菜の煮物，のっぺい汁に合っただしのとり方を検討する。**<br>**○グループで和定食の調理計画を立て，発表する。**<br>**💻同時共同編集によって，他のグループが考えた調理計画を参考にできるようにする。** | ②♡<br>②♡ | ②♡<br>②☆ | ①☆ | ☆調理計画の記述から，和定食の調理における食品の選択や調理の仕方，調理計画について考え，工夫しているかについて評価する。（思②） | |
| 5・6・7 | **○調理し，振り返って計画を改善する。**<br>👧 手順通り作れたけれど，さばの信州みそ煮が早く仕上がり冷めていた。３品を一人で同時に仕上げるには？<br>🧑 仕上がりの時間に対するそれぞれの調理に必要な加熱時間を見直したら改善できそう。 | ②☆ | ③☆ | ②☆ | ☆カードの記述から，計画通りにできたかどうか振り返り，改善方法を考えているかについて評価する。（思③） | **他者と多角的に検討し問いを深める**<br>**💻調理時に撮影した写真や動画，他の班からのアドバイス等を参考に，改善につなげます。** |
| 8 | **○題材全体を振り返る。**<br>👧 複数の調理をするには，仕上がりの時間を考えた段取りが大事だと分かったよ。次は，もっと手順よく調理できそう。<br>🧑 和食の決め手は，やっぱりだしだった。家でも家族と，だしの風味を生かして，地域の食材を料理してみたい。 | | ④☆ | ③☆ | ☆カードの記述から，生活を工夫し創造し，実践しようとしているかについて評価する。（主③） | **調理と生活を関連付けてまとめる**<br>**「自分でもできそう」「やってみたい」という意欲を高め，実践への見通しがもてるようにします。** |

**考えや工夫を整理した調理計画の例**

| 課題＼料理名 | ◎主菜 | ○副菜 | ◇汁物 |
|---|---|---|---|
| | さばの信州みそ煮 | 季節野菜の煮物 | のっぺい汁 |
| 食品の選択<br>◎さばはどんなものが新鮮か<br>○大根はどんなものが新鮮か<br>◇ちくわはどう選ぶとよいか | ・身がしまっていて弾力のあるもの | ・皮に艶とはりがあるもの | ・すぐ使うのであれば，賞味期限が短いもの |
| 調理の仕方<br>◎魚を鍋に入れるタイミングは<br>○どの順番で材料を入れるか<br>◇調味料を加えるタイミングは | ・煮汁が煮立ったら魚を入れる | ・大根→いも類の順 | ・だし汁で煮込んだ野菜が柔らかくなったら調味する |
| 調理計画<br>3品を同時に仕上げるためには，どんな手順で調理するとよいか | ・だし汁を取っている間に，野菜を切る<br>・煮物を煮込んでいる間に，汁物，煮魚を調理する | | |

# ９－(2)　技術・家庭科（技術分野）

## Ⅰ　本県が目指す技術分野の授業

自ら学びを調整しながら持続可能な社会に向けて技術を最適化する技術分野の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 技術分野における教材研究のポイントとその具体

中２「つながる世界を安全・便利に！チャットアプリクリエイターになろう！」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**資質・能力の把握**

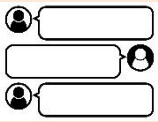
本題材で育成を目指す資質・能力と，現状の資質・能力との差異を把握する。

**実態の把握**

アンケート等を用いて，生徒の資質・能力の育成に関わる経験や興味等の実態を把握する。

例・スマートフォンや PC 等で扱うデータが，ネットワークを通じて処理されていることや，セキュリティ等への意識が低い。

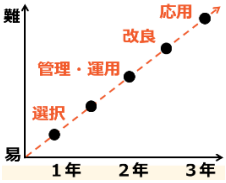
例・生徒は，双方向性のあるコンテンツのうち，チャットアプリを日常的に使用している。
・小学校では，ビジュアルプログラミングの経験がある。また，グループで課題解決を行った。



#### 題材の視点から

**他の内容との関連**

生徒が見いだし解決する問題は，既存の技術を評価，選択，管理・運用することで解決する問題から，改良，応用しなければ解決できない問題へと，３年間を見通して計画的に設定する。




引用：渡邊調査官作成資料

例・生徒は，１年次に技術を選択，管理・運用して課題解決してきた。２年次に実施する本題材では，教師が用意したプログラムや，互いのプログラムを改良しながら課題解決する。

**教材化の研究**

扱う素材について，生徒の追究からどのような技術の見方・考え方を働かせて最適化できそうか確認する。

例・安全性（書き込む内容によってブロックする機能や起動時に個人認証する機能），利便性（表現手段としてのメディアの工夫）等に着目して最適化する。

#### 学習の過程の視点から

**技術分野の学習過程**

技術の見方・考え方について「気付き，働かせ，概念の理解を深める」と共に，今後の社会における技術の在り方を考える学習過程となるように工夫する。

- ▶ 既存の技術の理解
- ▶ 課題の設定
  ↓過程の評価と修正↑
- ▶ 技術に関する科学的な理解に基づいた設計・計画
  ↓過程の評価と修正↑
- ▶ 課題解決に向けた製作・制作・育成
  ↓過程の評価と修正↑
- ▶ 成果の評価
- ▶ 次の問題の解決の視点

学習場面に応じて，ICT 端末やクラウドを活用し，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

例　**既存の技術の理解**
・生徒が，既存の技術の開発経緯や特徴等を調べたり比較したりして，使用時の安全性やセキュリティ，利便性等に着目し，最適化されてきたことに気付くようにする。

例　**課題の設定**
・既存の技術の理解で気付いた見方・考え方により問題を見いだして課題を設定する。

例　**成果の評価**
・既存のチャットアプリや AI サービスを取り上げ，情報の技術の光と影，最適化する過程と成果を理解できるようにする。

例　**課題解決に向けた制作**
・クラウドで互いのプログラムを共有し，相互に参照しながら個別追究する。
・個々のよりよい課題解決に向かうように，共通の願いをもつチームで協働する，等。

←学びの充実につながる ICT の活用場面事例

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**　中学校　第２学年

**【題材名】**　「つながる世界を安全・便利に！チャットアプリクリエイターになろう！」（全 11 時間）

**【題材の評価規準】**　内容 D 情報の技術(2)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 情報の技術についての科学的な原理・法則や基礎的な技術の仕組み等について理解しているとともに，安全・適切なプログラムの制作，動作の確認及びデバッグ等ができる技能を身に付けている。 | 生活や社会の中から情報の技術に関する問題を見いだして，必要な機能をもつコンテンツのプログラムの設計・制作などの課題を設定し，解決策を構想し，情報処理の手順を図に表し，実践を評価・改善し，表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 | よりよい生活や社会の実現に向けて，課題の解決に主体的に取り組んだり，振り返って改善したりして，情報の技術を工夫し創造しようとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　生徒の意識<br>（ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法　授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **○アンケートを実施し，情報の技術に関する問題を見いだし，課題を設定する。**<br>見る人を限定できたらいいな。<br>忙しくて返事ができないときでも，気持ちが伝えられたらな。<br>アプリを起動するとき，ログイン機能があれば安全だ。<br>気持ちを表すスタンプに名前が表示できるといいね。<br>**題材の学習問題：安全で便利につながる「中学校専用のチャットアプリ」を開発しよう。** | | ☆ | | ☆利用場面や状況等から情報の技術に関する問題を整理し，開発者の立場で解決できる課題を設定しているかを評価する。<br>**問題を見いだし，課題を設定する**<br>**便利な点，注意すべき点，使い方の改善点等，アンケート結果をクラウドで共有し，課題を焦点化していきます。** |
| 2・3 | **○互いにコメントを送受信できる簡易チャットプログラムを調べ，情報通信ネットワークの仕組みをまとめる。**<br>どうやって，互いにメッセージを送受信するのかな。 | ☆ | | ♡ | **情報の技術について科学的に理解する**<br>**見本となるプログラムとアクティビティ図の関係性に着目し，ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの特徴を捉えられるようにします。** |
| 4・5 | **○利用者のニーズから解決策を構想し，アクティビティ図に表す。**<br>まず、サーバとなるホスト機の設定をするんだな。<br>クライアントとサーバの両方に対応したプログラムが必要だ。 | | ☆ | ♡ | ☆学習カードや Web ツール等から，解決策を具体化できているか評価する。<br>**解決策を構想し，制作図等に表現する**<br>**情報処理の手順を整理する過程で，制作の計画を見える化し，相互に参照することで解決の見通しを支援します。** |
| 6～9 | **○構想したプログラムを安全・適切に制作する。**<br>**○動作の確認及びデバッグ等を行うなど，必要に応じてプログラムを改善・修正する。** | ☆ | | | ☆クラウドに保存されているプログラムの制作過程と結果から技能を評価する。<br>**課題解決に向けて制作する**<br>**見本や互いのプログラムのよいところを引用・参考に改良することを通して，個々の課題に沿った追究を促すと共に，知的財産を創造，保護及び活用しようとする態度を養うようにします。** |
| 10・11 | **○完成したチャットアプリを発表，体験して，相互評価する。**<br>**○社会で利用されているチャットアプリと作品を比較し，解決結果や過程の改善を考え，レポートにまとめる。**<br>安全性を強めすぎて少し使いにくくなった。毎回認証しなくてよいかもしれない。利便性とのバランスが大事だね。<br>他の人の考えを参考に，気持ちを表すスタンプ機能を取り入れたアプリを開発できた。こうやって身近なアプリも改良が繰り返されているんだ。 | | ☆ | ☆ | ☆問題解決とその過程を振り返り，制作したプログラムがよりよいものとなるよう改善を考えているかを評価する。<br>**自らの問題解決を評価・改善する**<br>**安全性と利便性の側面から折り合いを付け，その効果が最も目的に合致したものとなるよう情報のデジタル化や処理の自動化を考案，改善する過程と成果に着目して，思考できるようにします。** |

# 10　外国語活動

## Ⅰ　本県が目指す外国語活動の授業

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，
コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する外国語活動

## Ⅱ　教材研究の充実

### 外国語活動における教材研究のポイントとその具体

小４「みんなが好きな献立を考えよう（Let's Try!２ Unit７）」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**育成を目指す資質・能力を明確にする**

・前単元までのやり取りの様子やこれまでに蓄積した評価の記録を基に，児童の実態把握に努める。その上で，年間指導計画や各学校で定めた学年ごとの「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標と照らし合わせ，育成を目指す資質・能力を明確にする。

**本単元での具体**

・自分の好きなことなどについて，動作を交えながら伝え合う児童の姿がある。教師や ALT がゆっくりはっきりと質問をしたり，例を示すなどして答えを引き出したりしながらサポートし，児童が質問したり質問に答えたりする。

**児童の興味・関心を把握する**

・児童の興味・関心と単元の題材とを結び付けて単元展開を構想するために，児童の学校生活・生活経験・各教科等での学びの姿を捉える。

**本単元での具体**

・給食の献立をリクエストできることを伝えた時に喜んでいた姿から，児童は意欲的に好きな給食のメニューを尋ねたり答えたりするだろう。

#### 教材の視点から

**コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを設定する**

・児童にとって身近で簡単な題材を選び，コミュニケーションを行う目的や場面，状況などを具体的に設定することで，伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを児童が楽しみながら体験できるようにする。

**本単元での具体**

・単元の目標を「みんなが希望する献立をリクエストするために，好きな給食のメニューについて質問したり質問に答えたりする。」と設定することで，友とやり取りする目的や必然性のある場面でのコミュニケーションとなるようにする。「給食」は多くの児童にとって関心が高いことから，自分の好きな給食のメニューを友に話したり，友の話す内容を聞いたりして，意味のあるやり取りを楽しみながら体験することができる。

#### 学習の過程の視点から

**「理解する→練習する→言語活動を行う」学習過程を構想する**

①言語材料について理解する：視覚情報を用いながら，児童にとって身近で簡単な事柄に関する教師と ALT のやり取りを聞く場面を設け，児童が言語材料の意味や働きに気付き，理解するようにする。
②言語材料について練習する：言語材料を聞いたり話したりして練習する場面を設定する。
③言語活動を行う：言語材料を用いて実際に友とやり取りをする場面を設定する。

**本単元での具体**

①写真やイラストなどを用いながら，好きな給食のメニューについて教師が ALT とやり取りを行う。児童の「伝えたい」という意識を高め，言語材料についての気付きを促す。
②給食の人気メニューの写真を提示しながら，好きなメニューについて話したり児童とやり取りしたりする。また，What do you like?などの言語材料をチャンツや歌，ゲーム等を通して，児童が練習する場面を設定する。
③実際に希望するメニューについて質問したり質問に答えたりする。相手の反応を確かめたり，感じたりしながら，ゆっくり話したり繰り返したりするなど工夫している姿を全体で共有して，コミュニケーションを図ることの楽しさや達成感を味わえるようにする。

学びの充実につながる
ICT の活用場面事例 →

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善例

**【単　元　名】**みんなが好きな献立を考えよう（Let’s Try!２ Unit７）（全５時間）

**【単元の目標】**みんなが希望する献立をリクエストするために，好きな給食のメニューについて質問したり質問に答えたりする。（話すこと［やり取り］ウ）

**【単元の評価規準】**

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 給食メニューの言い方，What do you like? や I like ～.などを用いて，好きな給食のメニューを尋ねたり答えたりすることに慣れ親しんでいる。 | みんなが希望する献立をリクエストするために，好きな給食のメニューについて質問したり質問に答えたりしている。 | みんなが希望する献立をリクエストするために，好きな給食のメニューについて質問したり質問に答えたりしようとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「記録に残す評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　👧 🧑児童の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | **【ねらい】好きな給食のメニューについて，教師と ALT のやり取りを聞くことで，「自分も伝えたい」「友に聞いてみたい」という願いをもち，言語材料について理解する。** | | | | | |
| | ○教師と ALT のやり取りを聞く。<br>👧 先生は唐揚げが好きなんだ。唐揚げもいいけど私はカレーライスが好きだな。みんなは何が好きなのか聞いてみたい。 | ♡ | ♡ | ♡ | | コミュニケーションを行う目的や場面，状況等を理解する<br>**みんなが希望する献立をリクエストするために，「多くの友の好きな給食のメニューを聞いてみたい」という願いをもてるようにします。** |
| | **Unit Goal：好きな給食のメニューについて質問したり質問に答えたりして，リクエストする献立を決めよう！** | | | | | |
| | ○再度教師と ALT のやり取りを聞く。<br>🧑 “ワッドゥユーライク?” と言って質問しているぞ。 | | | | ♡写真やイラストなどを用いて，やり取りを聞く場面を設けて，児童が内容を理解しているか，その様子を捉える。 | |
| 2・3・4 | **【ねらい】給食のメニューの言い方や，好きなものを質問したり，質問に答えたりする表現に慣れ親しみ，友や ALT と好きな給食のメニューについてやり取りする。** | | | | | |
| | ○教科書などを使って，質問したり質問に答えたりする表現を練習する。<br>💻デジタル教材を使い，児童が興味や必要に応じて個々に音声を聞いたり話したりできるようにする。<br>○好きな給食のメニューについて友とやり取りする。<br>👧 I like curry and rice. What do you like?<br>🧑 I like curry and rice, too. And I like fried chicken.<br>👧 Fried chicken?　Me, too. It’s delicious. | ♡ | ♡ | ♡ | | 聞いたり話したりして表現に慣れ親しむ<br>**教科書の登場人物の好きなものについて聞く活動やチャンツなどを通して，児童が十分に聞いたり話したりするようにします。また，実際に友や ALT とやり取りする言語活動を位置付けます。必要に応じて，児童と一緒に質問をしたり，答えの例を示したりするなどサポートします。**<br>♡児童のやり取りの中で，単元の目標の達成に必要な表現等を発話しているかを観察する。また，相手の発話を確認したり，自分のことについて話したりする姿など児童の発話内容を把握する。 |
| 5 | **【ねらい】単元を通して慣れ親しんできた表現を用いて，友や ALT と好きな給食のメニューについてやり取りすることで，リクエストする献立を決める。** | | | | | |
| | ○主食や主菜など自分の担当するものについて，好きな給食のメニューを質問したり質問に答えたりする。<br>👧 What do you like? Oh, you like fried chicken, too.<br>👧 唐揚げが一番人気。おかずは唐揚げをリクエストしよう。 | ☆ | ☆ | ☆ | ☆児童のやり取りの様子から，評価規準に沿って，児童名簿等にチェックを入れたり，特徴的なことはメモをとったりしておく。その際，必ずしも全児童について記録に残す必要はなく，１年間を通して全児童について，観点ごと各領域においてバランスよく記録に残す。 | |

# 11　外国語

## Ⅰ　本県が目指す外国語科の授業

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，
言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成する外国語科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 外国語科における教材研究のポイントとその具体

中１「自分の新たな一面を伝えたり，友の新たな一面を探ったりしよう」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**素地となる資質・能力を把握する**

・教師は，前単元までのやり取りの様子やパフォーマンステスト，アンケート等から，話すこと［やり取り］において児童生徒が身に付けている資質・能力を把握する。中１では，同じ学区の小学校の「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を確認する。

**本単元での具体**

・小学校では，自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について，簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりすることができるようになってきている。そこで，中１の「CAN-DO リスト」形式による学習到達目標を「関心のある事柄について即興で情報を交換したり，互いの考えや気持ちを伝え合ったりすることができる」と設定している。本単元では，様々な表現を用い，相手の発話に応じる際に関連した質問や意見を述べるなど，やり取りを継続・発展させていくことを目指す。

#### 教材の視点から

**教材化の研究を行う**

・児童生徒が「○○さんに伝えたい，□□を知りたい」と思うことができるような「コミュニケーションを行う目的や場面，状況など」を考える。
・育成を目指す資質・能力を踏まえ，題材や本文の特徴を捉えた教科書の活用を検討する。

**本単元での具体**

・中学校に入学して半年が過ぎたが，互いにまだよく知らないことがあるため，生徒は，互いの新たな一面を探る言語活動に意欲的に取り組めると考えられる。様々な表現を用い，相手の発話に応じる際に，関連した質問や意見を述べるなど，やり取りを継続・発展させていくことで，互いの新たな一面について知ることができるだろう。
・教科書では，登場人物が相手の発話に関連させて質問したり，相手からの質問に対して複数の英文で応答したりすることで，互いの新たな一面を知る場面が扱われているため，生徒はやり取りを行う際に教科書の表現や，やり取りの工夫を参考にするだろう。

#### 学習の過程の視点から

**思考力，判断力，表現力等を育成する**

以下のような流れの中で，学んだことの意味付けを行ったり，既得の知識や経験と，新たに得られた知識を言語活動で活用したりすることで，「思考力，判断力，表現力等」を高めていく。（右ページの「授業改善の視点」と対応）

| ①設定されたコミュニケーションの目的や場面，状況などを理解する。 | ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる。 | ③目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う。 | ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。 |
|---|---|---|---|
| **本単元での具体** | | | |
| Unit Goal「互いの新たな一面を知るために，好きなことや得意なことなどについて，即興で伝え合おう。」を理解する。 | Unit Goal を達成するためにはどのような学習活動が必要かを共有する。<br>「教科書の登場人物や友達がどのような内容をどのような表現でやり取りをしているのかを参考にする。」<br>「参考になった点を踏まえて様々なペアでやり取りを繰り返す。」<br>「自分の考えや気持ちを話す。」など | ・目的や場面，状況などに応じて，まずはやり取りを行う。（1回目）<br>・やり取りのよい例（言語面と内容面）を全体で共有する。<br>・再度やり取りを行う。（2回目） | Unit Goal を達成するために意識したり表現できるようになったりしたことをワークシートに記述する。 |

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善例

学びの充実につながる
ICT の活用場面事例　→

【単　　元　　名】　自分の新たな一面を伝えたり，友の新たな一面を探ったりしよう

【単 元 の 目 標】　互いの新たな一面を知るために，好きなことや得意なことなどについて事実や考え，気持ちなどを即興で伝え合うことができる。(話すこと［やり取り］ア)

【単元の評価規準】

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ＜知識＞命令文や What～を用いた疑問文の構造を理解している。<br>＜技能＞What～を用いた疑問文などを用いて好きなことや得意なことなどを伝え合う技能を身に付けている。 | 互いの新たな一面を知るために，好きなことや得意なことなどについて事実や考え，気持ちなどを即興で伝え合っている。 | 互いの新たな一面を知るために，好きなことや得意なことなどについて事実や考え，気持ちなどを即興で伝え合おうとしている。 |

【主な学習活動と評価計画】　(☆…「評定に用いる評価」，♡…「学習改善につなげる評価」)

| 時 | ○主な学習活動　生徒の意識<br>(ICT の活用例) | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 【ねらい】好きなことや得意なことなどについてやり取りを継続させることで，友達や教師，ALT のことを互いに知るという単元の見通しをもつ。 | | | | | |
| | ○教師と ALT のやり取りを聞く。<br>楽しそうにやり取りをして，互いの新たな一面を見付けている。<br>○さんのことを知っていたつもりだけど，別の一面があるかも。 | ♡ | ♡ | ♡ | | ①コミュニケーションを行う目的や場面，状況等を理解する。<br>教師が ALT の新たな一面を知り，共通点があってうれしい気持ちを伝え，友のことをどの程度知っているか尋ねます。 |
| | Unit Goal：互いの新たな一面を知るために，好きなことや得意なことなどについて，即興で伝え合おう。 | | | | | |
| | ○やり取りをする際にどのような点に工夫しているかに着目し，教師と ALT のやり取りを再度聞く。<br>相手の話に関連させて様々な質問をしたり，答える時に１文を付けたりしてやり取りしていた。<br>○単元の見通しを確認する。<br>話題を深めたり広げたりするために，教科書の登場人物や友達のやり取りを参考にしよう。 | | | | | ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる。<br>互いの新たな一面を知るためには，関連させた質問や１文を付け足して，話題を深めたり広げたりしながらやり取りを継続していくことを確認します。そのためには，単元を通してどのような学習活動を行ったらよいか尋ね，今後の見通しを全体で共有します。 |
| 2・3・4・5・6 | 【ねらい】教科書の登場人物の会話から互いの考えや気持ちを伝え合う際の内容面と言語面から生かすことができそうなことを共有し，友と好きなことや得意なことなどを伝え合う。 | | | | | |
| | ○教科書を聞いたり読んだりする。<br>○やり取りを繰り返す。<br>第６時のやり取り（例）<br>A: You practice baseball every day, right? What do you do in your free time?<br>B: I read comic books.<br>A: Oh, really? That's nice. I like comic books, too!<br>B: Great. What do you read?<br>A: I read ◇◇. Do you like it?<br>B: That's my favorite! Do you read other comics, too? | 第２～５時<br>♡ | ♡ | ♡ | | ③目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う。<br>次のような活動を繰り返し行います。<br>・やり取りを行う場を設けます。(１回目)<br>・友の新たな情報を得ているペアのやり取りを紹介し，Unit Goal に立ち返りながら内容面のよさを共有します。<br>デジタル教科書で登場人物のやり取りを聞いたり読んだりし，その工夫や表現の仕方を確認します。<br>・共有したことを踏まえ，別のペアとやり取りを行う場を設けます。(２回目) |
| | | 第６時<br>☆ | ☆ | ☆ | | ☆授業中のやり取りと録画から評価する。 |
| 7 | ○第６時までの振り返りを生かし，再度やり取りを行う。<br>○単元の振り返りを記入する。<br>第１時と比べると，話題を関連させて質問をしたり，１文を付け足して答えたりするとやり取りを続けることができ，友達の新たな一面を知ることができた。 | ☆ | ☆ | ☆ | | ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。<br>第１時にクラウドに保存しておいた友達とのやり取り(録画)を見返し，Unit Goal を達成するために意識したこと(内容面)と使えるようになった表現(言語面)をワークシートにまとめる場を設けます。 |

# 12　特別の教科　道徳

## Ⅰ　本県が目指す道徳科の授業

自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，
自己の（人間としての）生き方についての考えを深める道徳科の学習

## Ⅱ　教材研究の充実

### 道徳科における教材研究のポイントとその具体

小１　主題名　温かい心で親切に
教材名　「はしの上のおおかみ」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**子供の実態を把握する**

ねらいとする道徳的価値に関わる子供の実態について，肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする捉え方で把握する。

**終末の子供の姿を明らかにする**

終末の子供の具体の姿を想像して，本時ねらう道徳性を構成する諸様相（道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度）を明らかにする。

例　意地悪が面白くなったおおかみの気持ちに共感しながらも，くまの後ろ姿を見送っていたときの気持ちや，うさぎを抱き上げて後ろに降ろしてあげたときの気持ちを考えることを通して，親切にすることの良さに気付くだろう。

#### 教材の視点から

**道徳的価値の理解**

授業者が，手がかりとする内容項目について，学習指導要領解説に基づいて理解する。その上で，内容項目に含まれる複数の道徳的価値の中から，本時扱いたい道徳的価値を決め，明確な考えをもつ。

**教材の活用**

授業者が，道徳的価値を理解し，子供の実態の把握をした上で，子供が自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考えることができるよう，教材の活用の仕方を明らかにする。

例　おおかみがうさぎを追い返したときの気持ちや，うさぎを抱き上げてそっと後ろに降ろしたときの気持ちを，多面的・多角的に考えることを通して，温かい心で接することの良さを感じることができるようにする。

#### 学習の過程の視点から

**自己を見つめる動機付けを図る導入**

本時の主題に関わる問題意識や，教材の内容に興味や関心をもつことができるようにする。

**多面的・多角的に考える展開前段**

自他の思いや考えを交流する中で，
・道徳的価値の大切さ（価値理解）
・実現できない人間の弱さ（人間理解）
・感じ方は多様であること（他者理解）
を考え，自己理解を深めることができるようにする。

←学びの充実につながる ICT の活用場面事例

**生き方について考えを深める展開後段～終末**

道徳的価値の意義を理解し，よりよい生き方の実現への思いや願いを深めることができるようにする。

例　ねらいとする道徳的価値に迫るために，親切にすることの良さについて触れている子供の発言を取り上げ，その考えを支えている思いを引き出すような問い返しをして全体で追求する。その後，改めて自己を見つめ，自己の生き方についての考えを深める。

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善例

【主題名】　温かい心で親切に（Ｂ７　親切，思いやり）　小学校第１学年

【教材名】　はしの上のおおかみ　（出典　文部科学省）

【主題設定の理由】

| | |
|---|---|
| 道徳的価値 | 親切とは，相手の立場を考えたり相手の気持ちを想像したりすることを通して励ましや援助をすることである。相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし，具体的に親切な行為ができるようにすることが大切である。 |
| 児童の実態 | 友達との関わりが増え，困っている友達に声をかけたり，手助けをしたりして過ごしている。自分中心の考えから，思いやりに欠ける言動をしてしまうこともある。 |
| 教材の活用 | うさぎを追い返していばっているおおかみの気持ちと，うさぎを抱き上げてそっと後ろに降ろしたおおかみの気持ちを考える場面を追求の中心場面とする。動作化を行い，「えへん，へん」に込められた気持ちを比べることで，温かい心で親切にすることの良さを考える。 |

【ねらい】

身近にいる人に親切にしようとする道徳的心情を育てる。

【主な学習活動】

| 時 | 学習活動　○発問　👧 🧑子供の意識<br>（💻ICT の活用例） | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|
| 導入／展開／終末 | **親切に関わる経験やそのときの気持ちを想起する。**<br>○親切にしてもらったことはありますか。どんな気持ちでしたか。<br>○それでは，親切にしたことはありますか。<br>問題意識<br>親切にすると，どんな気持ちになるのだろう<br>○くまの後ろ姿を見送っていたとき，おおかみはどんなことを考えていたのでしょうか。<br>👧 親切にされると，とってもうれしいな<br>🧑 くまさん，優しくて，すてきだな<br>**動作化して，おおかみの気持ちを考える。**<br>○「えへん，へん」と言っているとき，おおかみはどんな気持ちでしょうか。<br>【うさぎを追い返しているとき】<br>👧 みんな怖がっていて，おもしろいな<br>【うさぎを抱き上げて後ろに降ろしたとき】<br>🧑 親切にすると，とってもいい気持ちだな<br>👧 なんだか，自分もうれしいな<br>**子供の発言を取り上げ，問い返す。**<br>○なぜ，自分もうれしいのですか。<br>👧 相手が喜んでくれるから<br>相手がうれしいと自分もうれしい<br>○親切にすることについて，あなたはどんなことを考えていますか。<br>**学習カードに記述する。**<br>💻学習カードを撮影して，クラウドに提出する。(蓄積) | **問題意識をもつ**<br>主題や教材に対する児童生徒の興味や関心を高め，ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図ります。<br>**自分との関わりで考える**<br>登場人物の立たされた状況に共感して，これまでの自分の体験から感じたり考えたりしたことを基にして，気持ちを考えることができるようにします。<br>**多面的・多角的に考える**<br>道徳的価値の理解（価値理解・人間理解・他者理解）につながる発問を行い，自他の捉えの共通点や相違点を把握し，他者の考えに対する関心を高め，子供が自ら対話を進められるようにします。<br>その中で教師は本時のねらいに迫る子供の思いを見極め，それを全体追求の場に位置付け，自己理解を促します。<br>**生き方についての考えを深める**<br>自己と向き合い考える時間を十分に保障し，本時ねらいとする道徳的価値を基にして，これまでの生き方を振り返ったり，これからの生き方について考えたりします。（教師の価値観の押し付けにならないように留意する） |

評価の視点下記の２点について，認め励ます個人内評価として把握する。（１時間を通して）
・親切にすることについて，一つの見方でなく，様々な見方で捉え考えている。
・親切にすることの良さについて，自分の体験を想起しながら考え，自らの行動や考えを見直している。

# 13　総合的な学習の時間

## Ⅰ　本県が目指す総合的な学習の時間の授業

実社会・実生活の中から問いを見いだし，探究することを通して，
自己の生き方を考えていく総合的な学習の時間

## Ⅱ　教材研究の充実

### 総合的な学習の時間の単元を構想する際のポイントとその具体

小・４「伝えたい！わたしたちのＡ商店街」の例

**学習指導要領に示された目標（資質・能力等）を確認する**

▼

**各学校の全体計画・年間指導計画を踏まえる**

▼

#### 子供の視点から

**①子供の興味・関心の理解**

日頃の学習の様子，休み時間・給食の時間の会話，日記，家庭生活の様子などから，子供が興味・関心をもちそうな対象を考える。

**②これまでの学習とのつながり**

前年度までの学習を把握し，地域や発達段階に応じた探究課題を決めたり，課題意識が芽生えるようにしたりする。他教科等の学習から総合的な学習の時間につながるような問いが生まれないか，年間指導計画を見通しておく。

**例）** Ａ商店街について学んだ前年度の社会科の学習を振り返ることで，「もっとＡ商店街について知りたい」，「良い店があるのになぜあまり人が来ないのか？」という思いや問いが生まれ，追究が始まることが期待できそうだ。

#### 学習対象の視点から

**対象の教材化**

子供が関心をもち始めた学習対象が，夢中になって取り組めるものか，他教科等との横断的な学習は期待できるか，地域の方や保護者の方を巻き込む協働的なプロジェクトになりそうか等の視点をもって分析する。

**例）** Ａ商店街の活性化に取り組む商工会のＢさんと協働し，商店街の魅力を発信することは，地域の魅力の再発見につながり，よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成につながるだろう。

←【おすすめの資料】
『今、求められる力を高める
総合的な学習の時間の展開』
（小学校編・中学校編）

**３つの視点の重なりから
中心となる活動を思い描き
単元が展開するイメージをもつ**

#### 学習の過程の視点から

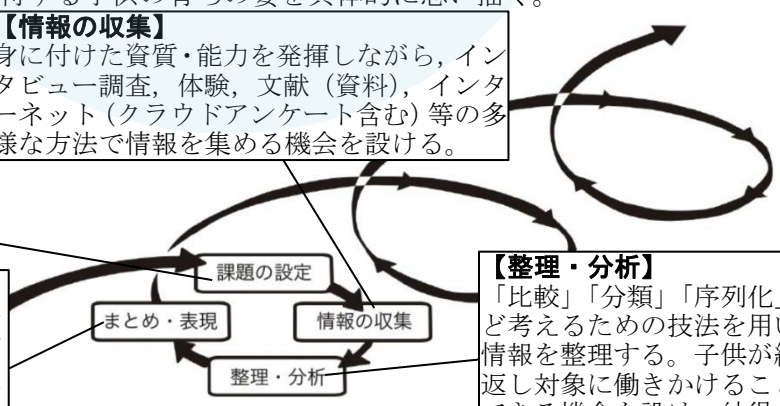
**①　育成を目指す資質・能力**

学校で作成した全体計画と日々の子供の姿から，探究課題の解決を通して育成を目指す資質・能力を明確にし，単元終末に期待する子供の育ちの姿を具体的に思い描く。

**②探究的な学習の過程**

**【課題の設定】**
体験・ウェビング等による教材研究を基に，子供が自身の捉えとのずれを感じる事実や憧れを感じる対象等に出会う場を設け，問いや課題に基づく必要感をもてるようにする。

**【情報の収集】**
身に付けた資質・能力を発揮しながら，インタビュー調査，体験，文献（資料），インターネット（クラウドアンケート含む）等の多様な方法で情報を集める機会を設ける。




**【整理・分析】**
「比較」「分類」「序列化」など考えるための技法を用いて情報を整理する。子供が繰り返し対象に働きかけることができる機会を設け，納得するまで取り組む姿を重視する。

**【まとめ・表現】**
相手意識や目的をもって自分の考えを発信することで，新たな課題を見付け，更なる問題の解決に取り組む学習活動を発展的に繰り返すことができるようにする。

**課題の設定例）** Ａ商店街は，かつて人が多く集まる場所だったが，近年は郊外の大型店の影響を受け，客の減少に歯止めがかからない。コロナ禍も重なり，閉店が相次ぐ。何度も商店街に通う機会を確保することで，商店街の良さを感じた子供は客が減っている事実との「ずれ」を感じ，商店街にかつての賑わいを取り戻すべく活性化に向けて動き出すだろう。

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

←学びの充実につながる ICT の活用場面事例

【学　年】　小学校　第４学年

【単元名】　A商店街復活プロジェクト（全 60 時間）〔小単元〕伝えたい！わたしたちのA商店街（全 18 時間）

【小単元の評価規準】　（□は評価規準を作成する際の観点）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ・商店街のよさやそれを支えている方の努力や工夫を理解している。（概念的な知識の獲得）<br>・情報収集の技能を身に付けている。（自在に活用することが可能な技能の獲得）<br>・商店街のよさへの理解は，人々の営みに関わりながら，探究的な学習に取り組んだことの成果であることに気付いている。（探究的な学習のよさの理解） | ・商店街や地域の実態から課題を設定している。（課題の設定）<br>・多様な方法で情報を収集している。（情報の収集）<br>・事象を比較したり関連付けたりして理由や根拠を明らかにしている。（整理・分析）<br>・相手意識や目的をもち，自分の考えを表現している。（まとめ・表現） | ・商店街の活性化に向け，自分で設定した課題の価値を理解している。（自己理解・他者理解）<br>・自分と異なる考えを生かし，協働的に課題解決に取り組んでいる。（主体性・協働性）<br>・進んで商店街や地域の人と関わったり，粘り強く活動に取り組んだりしている。（将来展望・社会参画） |

【主な学習活動と評価計画】　（☆…「記録に残す評価」，♡…「学習改善につなげる評価」）

| 時 | ○学習活動　児童の意識<br>（ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法　授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1・2 | ○商店街の実態から**課題を設定**する。<br>３年生の時にA商店街のことを調べたね。○△屋のお弁当がおいしくて人気だったね。<br>昔はもっとお客さんがたくさん集まる場所だったみたいだよ。 | | ☆ | ♡ | **児童が問題意識をもつ環境づくりをする**<br>他教科等の学習を想起したり，繰り返し対象に触れたりし，子どもが問題意識をもつための出会いの場を工夫します。<br>☆商店街の実態から自分の課題をもてているか、学習カードの記述から評価する。 |
| | 【児童の問い】Ａ商店街には良いお店が多いのに，どうしてお客さんが少ないのだろうか。 | | | | |
| 3・4・5・6・7・8・9 | ○Ａ商店街に関する**情報を収集**する。<br>お店の方に話を聞いてみよう。<br>今は郊外の大型店に行く人が増えたみたいだよ。商店街とどこが違うのかな。<br>商店街のお祭りに参加して，商店街の魅力を探そう。<br>調査の様子を動画で記録し，振り返りの場面で繰り返し確認する。<br>遠隔会議システムで，遠くにある大型店の店長さんに質問する。<br>商店街の活性化のために活動している会長さんに話も聞いたよ。 | ♡<br>☆ | ♡<br>☆ | ♡<br>☆ | **児童が課題解決の見通しをもてるようにする**<br>自分の課題を明文化します。児童が様々な方法で情報を集められるような環境を設定したり，方法を紹介したりします。<br>**児童が地域の人とつながるようにする**<br>児童の求める情報をもつ専門家や実践家とつながり，子供の実態やねらいに応じて紹介します。<br>☆自らの課題解決に向けて，多様な方法を用いて必要な情報を収集しているか，学習カードの記述や取組の様子から評価する。 |
| 10・11・12・13 | ○**整理・分析**して納得解を見いだす。<br>大型店と違って何でも売っているわけではないけれど，どのお店も自分のお店の商品や仕事の専門家だったよ。<br>お客さんの数は多くないけれど，その分会話を大事にしてお客さんとつながっている気がしたよ。 | ♡ | ♡<br>☆ | ♡<br>☆ | **考える技法を活用し、視点をもって分析する**<br>比較する，分類する，関連付ける等の「考えるための技法」を活用し，協働的に情報の整理・分析ができるよう，必要に応じて助言します。<br>☆問いに対する自分なりの納得解を導き出しているか，学習カードの記録や取組の様子から評価する。 |
| 14・15・16・17・18 | ○目的をもって**まとめ**，**表現**する。<br>ぼくたちが見つけた商店街のよさや課題をまとめよう。<br>会長さんもよさや課題を教えてほしいって言っていたよね。<br>商店街の魅力をもっと地域の人に知ってほしいな。<br>グループ毎に学習の成果を同時共同編集でスライドにまとめる。 | ☆ | ♡<br>☆ | ☆ | **必要感をもって，表現を工夫する**<br>地域や行政への提案，専門家・実践家との協働など，相手意識をもって表現したり発信したりする場を構想し，必要に応じて提案します。<br>☆探究的な学習のよさを理解し，相手意識をもって表現したり発信したりしているか，追究の姿や学習カードの記述から評価する。 |

【児童の新たな問い】Ａ商店街のよさを広めるために，私たちに何ができるだろうか。

# 14　特別活動

## Ⅰ　本県が目指す特別活動の授業

**多様な他者と協働し，互いのよさや可能性を生かして
よりよく生きていく力を育む特別活動の学習**

## Ⅱ　教材研究の充実

### 特別活動における教材研究のポイント

中２　学級活動（1）「学級目標を達成するための具体的な活動を決めよう」の例

学習指導要領に示された目標及び内容を確認する

#### 子供の視点から

**発達の段階に即して重点を絞る**

子供の発達段階を踏まえ，集団の実態を考慮して指導計画を作成する。

**素地となる資質・能力の把握**

話合い活動など小学校からの積み重ねや経験を生かし，発展させる。

【ポイント】
集団活動における話合い活動の進め方や合意形成の仕方，チームワークの重要性や集団活動における役割など，特別活動の前提に関わる資質・能力を把握する。

#### 教材の視点から

**発達段階に応じた議題・題材の教材化**

子供の発達段階や学級ごとの年間指導計画を踏まえ、主体的に取り組める切実感のある議題や題材を選択する。

**各教科等との関連**

特別活動の学びと各教科等の学びが往還し，教科等の枠を超えて，特別活動での実践や生活，学習などが自己の将来や社会づくりにつながっていくことを踏まえて議題や題材を構想する。

【ポイント】
アンケートを実施したり学校生活における生徒の様子を観察したりすることで，生徒が課題と感じていることを把握しておく。さらに，日頃から学級活動委員会を組織し，生徒が自分たちの実態を把握し議題や題材を選定できるよう支援する。

#### 学習の過程の視点から

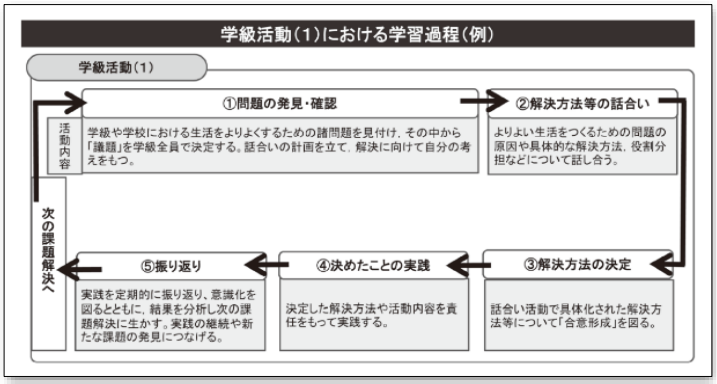
**学習過程の明確化**

学級活動（1）（2）（3），生徒会（児童会）活動，クラブ活動，学校行事それぞれの特質を踏まえた学習過程を構想する。

**主体的・対話的で深い学び**

- 学級や学校における集団活動を通して，生活上の諸課題を自分たちで見いだし，解決できるような展開を構想する。
- 児童生徒相互や異年齢等との話合い活動を通して，自己の考え方を協働的に広げ深めていく場面や、校外活動等学校生活では得られない体験から新たな気付きを得る場面を設定する。
- 実践を課題の設定から振り返りまでの一連の活動と捉える。そのプロセスで子供が，教科等の学習で身に付けた知識や技能を活用し，集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」に関わる議題や題材に取り組めるよう，意図的・計画的に設定する。

【ポイント】




小学校・中学校特別活動指導資料

学びの充実につながるICTの活用場面事例

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

【学　年】　中学校　第２学年

【議　題】　学級目標を達成するための具体的な活動を決めよう

【評価規準】　　内容　：学級活動(1)イ

| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
|---|---|---|
| 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。<br>合意形成の手順や活動の方法を身に付けている。 | 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見いだし，解決するために話し合い，多様な意見を生かして合意形成を図り，協働して実践している。 | 生活上の諸問題の解決や協働して実践する活動を通して身に付けたことを生かし，学級や学校における人間関係をよりよく形成し，他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとしている。 |

【主な学習活動と評価計画】　　(☆…「記録に残す評価」，♡…「学習改善につなげる評価」)

| 時 | ○学習活動　生徒の意識<br>(ICT の活用例) | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事前の活動（朝の会や放課後） | 【ねらい】学級目標の達成状況を振り返る必要性を感じた生徒が，学級生活を見直すための方策を話し合い，よりよく合意形成することで，創意工夫しながら具体的な学級の活動を決め出すことができる。<br>○活動までの見通しを確認し，話合い活動の計画を立てる。<br>（学級活動委員会，班長会等）<br>○学級目標の達成状況についてのアンケートを行う。<br>○アンケートを集計し，その結果をもとに，議題を選定する。(学級委員)<br>アンケートで，みんなが改善したいと感じている議題を話し合いたい。 | | ♡ | | ♡自分事として捉えているかを評価し，捉えられていなければ，自分たちの学級のアンケートであることを再度確認する。 | **問題への意識を高める**<br>事前にとったアンケートを集計し，結果を視覚化することで，話し合うべき内容を分かりやすくするとともに、一人一人の意見を反映させ，議題を自分事として捉えられるようにします。 |
| 本時 | 議題：学級目標を達成するための具体的な活動を決めよう。<br>話合い<br>○議題，提案理由の確認をする。<br>（司会）<br>○自分たちで行動できる方策について，各自の考えを出し合う。<br>○出された意見について共通点や相違点を確認し，意見を出し合う。<br>自分の考えと違うが、Aさんの意見は具体的で活動しやすそう。今より学級がよくなると思う。<br>○学級として取り組む具体的な活動を決める。<br>○決定事項の確認をする。<br>○振り返りを記入し発表する。<br>みんなで決めた「自分の意見や考えを必ず言う」に，クラス全員で取り組みたい。<br>○先生の話を聞く。 | ☆♡ | | ☆♡ | ☆これまでの話合いの経験を生かして，話合いの進め方等を理解し，合意形成を図ろうとしているか，発言やノートの記述から評価する。 | **意見を発表しやすくする**<br>意見を発表しにくい様子がある場合は，小グループで意見を交わし自分の考えに自信をもてるようにします。<br>**目的（提案理由）に沿って学級会を進める**<br>理由を明確にして比較したり，視点を変えて比較したりするなどして，異なる意見を互いに理解し合った上で合意点を見つけます。<br>**解決方法の決定（合意形成）をする**<br>個人やグループの案のよさと課題を洗い出し，１つの案を選ぶのではなく，各案のよさを組み合わせて新たな案を生み出すことが大切です。 |
| 事後の活動 | ○話合いで決めた内容を実践する。<br>○ノートツールに活動の振り返りを記入する。<br>話し合って決めたことを意識して生活している人が増えていると思います。これからも続けたいです。 | | ☆♡ | ☆♡ | ☆話合いで決めた内容を実践できているか，活動の様子やノートの記述から評価する。 | **実践と振り返り**<br>自分であるいは自分たちで決めたことを実践し，振り返る機会を設定します。 |

# 15　自立活動（特別支援教育）

## Ⅰ　本県が目指す自立活動の指導

**個別の指導計画に基づいた，障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導**

## Ⅱ　自立活動の充実

### 指導内容を設定するまでのポイントとその具体

自閉症・情緒障害特別支援学級における，Ａさん（小３）自立活動の指導内容の設定例

**学習指導要領に示された目標及び内容を確認する**

#### 実態把握（情報の収集・整理）

**学習上又は生活上の困難さを探る**

- 障がいの状態，発達や経験の程度，興味・関心，生活や学習環境などの実態等。

**長所や得意なことを把握する**

- 苦手なこと，困っていることに意識が向きがちだが，長所やよさ，得意なことにも注目する。

**自立活動の６区分に即し整理する**

- 障がい名のみを見て特定の指導内容に偏らないよう，児童生徒の全体像を捉えて整理する。

**Ａさんの実態（一部を抜粋）**

・友達に自分から声をかけることもあるが，一方的に話を続けてしまうことがある。
・自分のしたい遊びと友達のしたい遊びが異なると，自分の意見を言えず動きが止まり，気持ちの切り替えが難しい。
・地域で太鼓を習っており，太鼓の演奏が好きである。地区の祭りでは堂々と演奏し，準備や片付けにも進んで取り組んだ。

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|---|---|---|---|---|---|
| | 成功体験の少なさから自己肯定感が低いが，好きな活動では気持ちが乗ることが多い。 | 自分の思いに添う活動では友達との関係を築けるが，意見が異なると一緒に活動できないことがある。 | | | 経験のあることや興味のある会話では，相手の話を聞いてから，自分の思いを伝えられることがある。 |

#### 指導すべき課題の整理，指導目標・指導項目の設定

**指導すべき課題の整理**

- これまでの学習状況や将来の可能性を見通し，年度の指導目標（ねらい）の設定に必要な課題に焦点を当て，中心となる課題を選定する。
- 選定した課題については，課題同士の関連，指導の優先順位，指導の重点等について検証する。

**指導目標（ねらい）と項目を設定**

- その年度の長期目標と，それを達成する学期ごとの短期目標を定め，段階的な指導ができるようにする。
- 目標と項目の設定に当たっては，現在の状態だけでなく，その状態に至った原因や背景も明らかにする。

**Ａさんへの指導すべき課題と指導項目**

①活動の中で友達の話を聞くことを意識し，自分と友達の思いや考えの違いに気付く。
【人間関係の形成⑵，コミュニケーション⑸】
②好きなこと・得意なことを生かした学習活動の中で，自分ができるようになってきたことや，友達の取組のよさに気付く。
【心理的な安定⑴⑵，人間関係の形成⑵】

**指導目標**

【長期】友達との話合い活動や発表活動を通じて友達の考えを共感的に受け止める。
【短期】得意な身体活動を通じて，一緒に活動する友達に自分の思いを伝える。

#### 項目同士の関連付け，具体的な指導内容の設定

〈特別支援学校学習指導要領解説「自立活動編」P.111～参照〉

**主体的に取り組む指導内容**

- 何のために何をするのかが分かり，解決可能で，意欲がわく内容にする。
- 振り返る機会を設け，児童生徒が成長を実感できるようにする。

**発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容**

- できること，得意なことを更に伸ばす内容や，少し努力すれば達成できる内容を設定する。

**自立活動を学ぶことの意義について考えさせる指導内容**

- 将来の自立や社会参加に向けて，児童生徒が学ぶことの意味に気付き，目的意識をもって取り組める内容にする。

**指導内容**

| ア<br>心⑴，人⑵ | イ<br>心⑵，人⑴，コ⑸ | ウ<br>心⑴，人⑵，コ⑸ |
|---|---|---|
| 得意な太鼓演奏に自信をもって取り組むために，安心できる友達とかかわり合いながら活動できるようにする。 | 相手の立場に立って考えたり，共感したりするために，まず自分の考えを整理する方法を知り，互いの思いを伝え合う場面を設定する。 | 活動を通して，自分や友達のよさに気付いたり，違いを認め合ったりしながら，自己評価を積み重ね，自信を深められるようにする。 |

学びの充実につながる ICT の活用場面事例
（特別支援教育における活用）

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

【 学　年 】　小学校３年🧒Ａさん（自閉症・情緒障害特別支援学級在籍）
【自立活動】　題材名：交流学級の友達と一緒に得意な太鼓を発表しよう

**〇自立活動のねらい　※　個別の指導計画より**
得意な身体活動を通じて，一緒に活動する友達に自分の思いを伝える。
**Ａさんの願い🧒**：太鼓には自信があるから，打っているところをみんなに見てほしいな。

**【主な学習活動と具体的な指導内容】**

〇学習活動　💻ICT の活用例
♡学習改善につなげる評価場面の例

**授業改善の視点**
**取組の具体例**

🧒Ａさんの意識
👧交流学級Ｂさんの意識

| 【特別支援学級での学習活動】<br>交流学級の活動に安心して参加するための方法を知り，自信を深めることを目指す自立活動 | 時 | 【交流学級での学習活動】**総合的な学習の時間**<br>互いの取組の良さに気付き，得意や違いの認め合いを目指す交流及び共同学習 |
|---|---|---|
| **得意なことを基に主体的に取り組む**<br>**得意なことや興味・関心のあることを基に活動を設定することにより，安心して活動に取り組むことができるようにします。** | | |
| **〇交流学級での活動に見通しをもつ。**<br>🧒「学校で太鼓を打つのは緊張するよ。練習も不安だし，うまく発表できるかな。」<br>💻**交流学級での活動の流れや練習用動画を示し，見通しをもって活動に参加できるようにする。** | 1・2 | **〇発表会で発表する内容を考える。**<br>♡交流学級で一緒に活動する友達や学習内容を知り，安心して学習に参加しているか。<br>👧「地域の太鼓クラブでＡさんと一緒にやっている太鼓を発表したいな。」 |
| **〇交流学級での練習に向けた事前学習をする。**<br>🧒「Ｂさんと同じグループになって安心したよ。「一緒に頑張ろう」って伝えたいな。」<br>💻**付箋ツールに自分の気持ちを一度整理してから，発表グループのメンバーにメッセージを送る。**<br>**自分の課題を意識しながら活動する**<br>**具体的な事前準備や友達と思いを共有する方法を繰り返し実践することで，自分から進んで準備や練習を行えるようにします。**<br>♡友達の取組の良さに気付き，互いの思いや考えの重なった部分について考えようとしているか。<br>**〇発表会のリハーサルを行い，見通しをもつ。**<br>🧒「青空学級の練習で間違えずにできたから，本番も成功させようって付箋に書いたよ。」 | 3〜6 | **〇発表会に向けた練習の場面で，発表グループごとによい姿や工夫を伝え合う。**<br>**課題の達成に向けて整えられた環境の下で活動する**<br>**安心できるグループ構成を行い，互いの考えや思いを伝えられる場面を設定するようにします。**<br>♡支援学級で学んだことを活用・発揮し，自分の思いや考えを伝えられたか。<br>🧒「直接話すのは緊張するけど，付箋に気持ちを書くと伝えやすかったよ。」<br>💻**自分の思いをクラウド上の付箋ツールに書いて友達と共有し，コメントを返信する。**<br>👧「Ａさんの打つ構えがかっこいいから，私も真似してみたいって伝えたよ。」<br>♡お互いの取組の良さに気付き，思いに共感し合いながら主体的に学習しているか。 |
| **自己評価により自分を見つめ直す**<br>**学習前，学習中あるいは学習後に，自立活動を通して，学習上又は生活上の困難をどのように改善・克服するか（できたか），自己評価につなげていくようにします。** | | |
| 💻**目標の振り返りや感想の共有で自分の成長や課題を確認し，今後の活動への期待をもつ。**<br>**【長期目標に向けた本題材を通しての個の育ち】**<br>交流学級に行く前には付箋を楽しみに見てから準備をするようになり，発表グループの友達とも自信をもって関わる姿が増えた。 | 7・8 | **〇学んだことを発揮し，発表会を楽しむ。**<br>♡学習したことを，今後の学習場面や実際の生活の中で生かそうとしているか。<br>🧒「お互いの音をよく聞いて打つと，声も構えもそろうよ。僕の気を付けた方がいいところもあれば教えてほしいな。」 |

**【交流及び共同学習について】**

👉 障害のある子供と障害のない子供が，相互の触れ合いを通じて**豊かな人間性を育むことを目的とする**交流の側面と，**各教科等のねらいの達成を目的とする**共同学習の側面の両面が一体としてあるため，この**二つの側面を分かちがたいものとしてとらえ，推進していく**必要がある。

👉 **活動実施のポイント**

- □事前に，活動のねらいや内容等について子供たちの理解を深める。
- □障害について形式的に理解させる程度にとどまるものにならないよう，子供たちが主体的に取り組む活動にする。
- □事後学習で振り返りを行うとともに，その後の日常の学校生活において，障害者理解に係る丁寧な指導を継続する。

出典：交流及び共同学習ガイド（2019 改訂版）文部科学省

# 16　健康教育

## Ⅰ　本県が目指す健康教育の授業

**生涯を通じて健康，安全，食について活力ある生活を送るための基礎を培う健康教育**

### 学校における健康教育とは

■「学校保健」「学校安全」及び「食に関する指導（学校給食を含む）」を包括したものであり，それらが相互に関連し，管理と一体となって進められるものです。そのため学校の教育活動全体を通して，学校がチームとして取り組むことでねらいの達成に向かっていきます。

■子供の発達段階を考慮し，学校の教育活動全体を通して適切に行うことや，健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した教育の充実に努めます。

■学校における健康教育に関連した教科等での指導は，体育科(保健体育科),家庭科(技術・家庭科)及び特別活動の時間はもとより，各教科，道徳科，外国語活動及び総合的な学習の時間等で行います。

## Ⅱ　教材研究の充実（がん教育）

**学習指導要領に示された目標及び内容を確認する**

### 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげるための 健康教育における教材研究のポイント

① 子供の実態から題材設定をする。

② 養護教諭や栄養教諭又は外部講師等と連携し，関連した教科等の目標や内容，教材や題材を検討し指導計画を立てる。また，子供が個人や個人を取り巻く健康課題を捉えて探究できるよう，全体での指導と個別での追究の関連を図り，学習活動を検討する。

③ 適切な意思決定や行動選択したことを基に実践して，振り返る場を設定し，子供たちが自己の成長を実感し，取組への意欲を高めていけるように支援を考える。

※ 本人又は家族等身近な方に，がんに罹患している方がいる等の子供の情報を把握しておく。

### 具体的な教材研究

「がん教育」編（学校保健における保健教育の一領域）

① アンケートフォームによる子供への事前のアンケート等から，がんの知識やがんへのイメージ，がんについて知りたい事等，子供の実態を把握する。
※について，配慮すべき事項を養護教諭と共有し，連携して事前に個別指導をする。

② 学習指導要領を基に保健体育（保健分野）のがんの学習内容とがん教育の手引きやがん教育共有サイトを参考に子供の実態に応じた特別活動の内容との関連を図り，指導内容を決める。その上で指導事項や学びたい内容に添って外部講師を決め，打ち合わせをする。

③ 「実践→振り返り→次の実践」のサイクルによる学習内容（資料・学習プリント）を子供が蓄積できるようにする。

### 外部講師とつくる単元構想に向けて

表１　がん教育において取り扱う内容例と各校種の学習指導要領（体育，保健体育）との関係

| 校種 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---|---|---|---|
| 学習指導要領 / 内容例 | 体育 保健領域 | 保健体育 保健分野 | 保健体育 科目保健 |
| 1 がんとは(がんの要因等) | | ◎ | ◎ |
| 2 がんの種類とその経過 | | | ◎ |
| 3 我が国のがんの状況 | | | ◎ |
| 4 がんの予防 | ○ | ◎ | ◎ |
| 5 がんの早期発見･がん検診 | | ○ | ◎ |
| 6 がんの治療 | | ○ | ○ |
| 7 がん治療における緩和ケア | | | ○ |
| 8 がん患者の生活の質 | | | ○ |
| 9 がん患者への理解と共生 | | | ○ |

◎：学習指導要領の主な内容である「理解すること」に当たる部分
○：内容を補足して触れるようにする部分

（がん教育の手引き　別冊　R2　長野県教育委員会）

例）

**保健体育（保健分野）では【医療従事者等と】**

◎がんが多様な原因によって起こることを理解できるようにする。

◎予防には，適切な生活習慣を身に付けることが有効であることを理解できるようにする。

○がんに関する基礎的･基本的な理解を促し，医療・検診の最新情報に触れる。

**特別活動では【養護教諭・栄養教諭等と】**

◎調和のとれた生活を送るなど現在及び生涯に渡って心身の健康を保持増進するために話し合い，意思決定し，実践できるようにする。

がん教育の手引き（長野県教育委員会）　がん教育共有サイト（文部科学省）　がん教育補助教材（文部科学省）

## Ⅲ　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例

**【学　年】**中学校 第２学年**【題材名】**がんという病気（全２時間（保体①特活①）＋事前・事後の活動）

**【題材の評価規準】**（ここでは主に）学級活動（２）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
エ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成

| よりよい生活を築くための知識・技能 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度 |
|---|---|---|
| 自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。 | 自己の生活や成長に関する課題を見出し,多様な意見を基に意思決定して実践している。 | 課題解決に向けて見通しをもったり振り返ったりして悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。 |

**【主な学習活動と評価計画】**　（☆…「評定に用いる評価」, ♡…「学習改善につなげる評価場面の事例」）

| 時 | ○学習活動　👧 🧑生徒の意識<br>（💻ICT の活用例） | 評価の観点<br>知 | 思 | 態 | 評価方法 | 授業改善の視点<br>取組の具体例 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事前の活動 | 【ねらい】がんについて知りたいことを共有し，学習問題を設定して課題解決への見通しをもつ。<br>○💻アンケート結果を共有する。<br>👧 がんになったら怖いなぁ。私はがんになるのかな。<br>がんを防ぐために何かできることはあるのかな？ 🧑 | | | ♡ | | **学級全体と個の傾向の把握**<br>事前アンケートの集計結果を共有し，例えばがんについて「イメージ」で捉えていることに気付くことで，正しい知識・理解への興味・関心を高めます。また，がんの学習に対する課題をもてるようにします。 |
| 保健分野 | 【学習問題】がん予防のために今からできることは何か。<br>【ねらい】がんについて科学的な知識を学び，理解を深める。<br>○がんについての理解を深める。<br>👧 異常な細胞ががんになるかどうかは，免疫が関わっているんだね。免疫を強くするには，生活習慣が大切なんだね。<br>がんになる危険性を減らすために，生活の中に運動時間を作った方がよさそうだ。 🧑 | ☆♡ | ♡ | | | **正しい知識の習得に向けた外部講師との連携**<br>個別に課題追究できる場を設け，子供の興味関心に応じて，正しい知識を理解できるようにします。また，医療従事者とのＴ・Ｔにより，子供のニーズに合わせた指導ができるようにします。<br>※評価については省略 |
| 学級活動 | 【ねらい】がんになる危険性を減らすために，生活習慣を様々な視点から見直し，「今からできること」について個人の具体策を決める。<br>○今と将来について，自己課題を考える。<br>🧑 朝起きてからの時間なら運動する時間を作れそうだな。<br>○グループで共有し，助言し合う。<br>👧 早歩きで歩くと，ランニングと同じ効果があるとわかったよ。<br>○助言や調べたことを基に，自己課題についての具体策を決めだす。<br>朝起きた後の 30 分を使って早歩きでウォーキングをしよう。 🧑 | | ☆♡ | | | **意思決定を支える環境設定**<br>「今の自分・大人の自分」に分け，すぐに取り組める自己課題について考えられるようにします。その上で同じ課題ごとにグループをつくり，考えを共有したり助言し合ったりできるようにします。<br>☆💻話合いの発言や学習カードの記述から，互いの考えを参考にして意思決定をしているか評価する。 |
| 事後の活動 | 【ねらい】意思決定したことについて，実践し，振り返る。<br>○決めたことを実践する。<br>○💻適宜，振り返りを入力する。<br>推奨されている運動時間の目安に近づいてきたぞ。がん予防に向けてこれからも続けよう。 🧑 | | | ☆♡ | | **実践及び自己評価**<br>💻これまでの記述を基に，実践について振り返り，自己評価をしていく場面を設定します。<br>☆💻振り返りの記述から，意思決定したことを実践している姿を評価する。 |

# 17　幼年教育

## Ⅰ　本県が目指す幼年教育

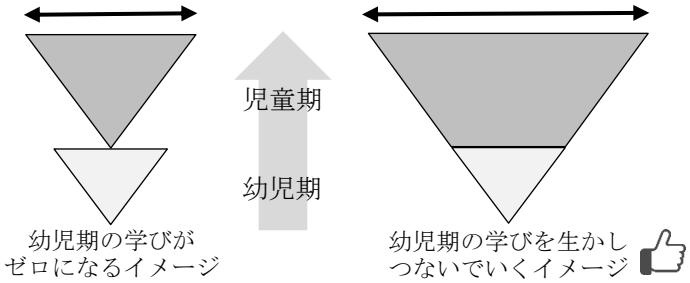
### 幼児期の育ちを学童期につなぐ学習や生活

**「幼児期の育ちをつなぐ」とは？**

子供は，幼稚園・保育所等で，遊びを通して試行錯誤したり，友達と協力したりするなど，たくさんのことを学んでいます。小学校低学年は、学びがゼロからスタートするわけではありません。子供が園での経験を生かせるように，教師が活動や環境を設定することで，子供は自信や意欲をもって活動し，自己発揮できるようになります。

幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつないでいくことが大切です。

幼児期の学びの上に、児童期の学びが積み重なることで，子供の育ちが大きく広がっていくことが分かります。




## Ⅱ　幼児期の育ちを知る

### (1) 幼児期と児童期の教育の違い

もっと幼児教育のことを知る必要がありますね。園と小学校では，どのような違いがあるのですか。

幼児教育と小学校教育には，次のような違いがあります。幼児期の学びの芽生えを，児童期の自覚的な学びへとつないでいきましょう。

**幼児教育**
- ５つの領域※を総合的に学ぶ
- 子供の生活リズムに合わせた１日の流れ
- 身の回りの「人・もの・こと」が教材
- 総合的に学んでいくための環境の構成

**小学校教育**
- 各教科等の学習内容を系統的に学ぶ
- 時間割に沿った１日の流れ
- 教科書が主たる教材
- 系統的に学ぶために工夫された学習環境

※健康・人間関係・環境・言葉・表現

### (2) 子供の育ちを理解する

幼児期の教育を通して，具体的にはどのような育ちがあるのですか。

幼児期に資質・能力が育まれている子供の具体的な姿をまとめたものが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。これを手掛かりにして子供の姿を見つめてみましょう。

**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）**

©2022信州幼児教育支援センター

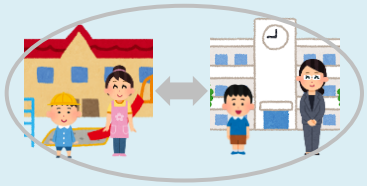
ただし，この 10 の姿は
- 到達すべき目標ではない
- 個別に取り出されて指導されるものではない
- 全ての幼児に同じように見られるものではない

という点に注意が必要です。

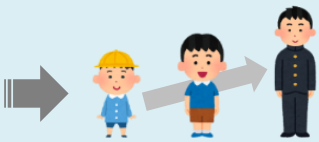
到達目標ではなく方向目標ということが重要です。

## Ⅲ　円滑な園小接続の実現に向けて

### (1) 連携から接続へ



**【連携】**
授業，行事，研究会などの交流を通して
園と小学校がつながること



**【接続】**
子供の育ちが
つながること

幼児教育施設でも，
３つの資質・能力を
一体的に育んでいます。

交流の充実とともに，
接続を見通した教育課
程の編成・実施が求め
られています。

### (2) 園小接続の取組の具体例

**○目指す子供像の共有**

市町村の教育方針や園小の教育目標，子供の実態等を踏まえて，園小で協働して目指す子供像や育みたい資質･能力を明らかにします。これを基に，園や小学校での活動や授業を具体的に考えていきます。

話を聞ける，ルールを守れるといったことではなく，３つの資質・能力を踏まえて，具体的な姿を考えることが大切です。

**こんな取組も！**
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に，園小職員で「児童期の終わりまでに育ってほしい姿」を考えてみる。

**○園小職員で教材研究**

園小の相互理解を図るために，互いの教育内容や指導方法を理解し，自らの指導を見直し工夫することが求められます。

幼児教育は，環境を通して行う教育です。園における主体的な活動のための環境の構成は，小学校教育でも大いに参考になります。

**こんな取組も！**
共通の題材を基に，保育の活動や図工･体育等の授業を園小職員で一緒に考えてみる。その際，幼児教育や各教科等における見方･考え方を踏まえ，遊びと各教科等の違いを意識していくことが重要です。

**○スタートカリキュラムの編成**

【スタートカリキュラムとは】

小学校へ入学した子供が，園での遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として，主体的に自己を発揮し，新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

自らの思いや願いの実現に向けた活動をゆったりとした時間の中で進めていくことを意識しましょう。

**こんな取組も！**
以下の視点で学習を ３ 類型に分類し，重点の置き方を考えて単元や学習活動を弾力的な時間割の中で配列してみる。

| | |
|---|---|
| ♥ | 一人一人が安心感をもち，新しい人間関係を築いていくことをねらいとした学習 |
| 人 | 合科的・関連的な指導による生活科を中心とした学習 |
| 📖 | 教科等を中心とした学習 |

**参考資料　＜信州幼児教育支援センター＞**

- **■「園・小接続カリキュラムの開発【理論編 1.0】」**
- **■「園・小接続カリキュラムの開発【実践編 1.0】」**
- **■「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のピクトグラム」**
- **■ 幼児教育アドバイザー派遣事業**

センターのアドバイザーが
園小接続研修会のサポートや
講師をお受けします

【理論編】　【実践編】　【ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾑ】　【派遣事業】

# 18　プログラミング教育

## Ⅰ　本県が目指すプログラミング教育

まずはやってみよう，そしてみんなで考えよう，プログラミング教育

## Ⅱ　プログラミング教育を進めていくために

### (1)　小学校プログラミング教育導入と学習指導要領の関係

**【小学校プログラミング教育のねらい】**

①「プログラミング的思考」※1を育む
②・プログラムの働きの良さ，情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付く
　・身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育む
③各教科等の内容を指導する中で実施する場合には，教科等での学びをより確実なものとする

◎　プログラミングに取り組むことを通じて，児童がおのずとプログラミング言語を覚えたり，プログラミングの技能を習得したりするといったことは考えられるが，それ自体をねらいとしているのではない。

※1　「プログラミング的思考」は，自分が意図する一連の活動を実現するために，どのような動きの組合せが必要であり，一つ一つの動きに対応した記号を，どのように組み合わせたらいいのか，記号の組合せをどのように改善していけば，より意図した活動に近付くのか，といったことを論理的に考えていく力

**【学習指導要領におけるプログラミング教育の充実】**

「情報活用能力」※2を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け，教科横断的に育成する旨を明記するとともに，小・中・高等学校を通じてプログラミング教育を充実

※2　「情報活用能力」は，コンピュータ等の情報手段を適切に用いて情報を収集・整理・比較・発信・伝達したりする力であり，さらに，基本的な操作やプログラミング的思考，情報モラル，情報セキュリティ，統計等に関する資質・能力等も含むもの（学習指導要領解説の要約）

### (2)　プログラミングに関する学習活動の分類と指導の考え方

A　学習指導要領に例示されている単元等で実施するもの

B　学習指導要領に例示されてはいないが，学習指導要領に示される各教科等の内容を指導する中で実施するもの

C　教育課程内で各教科等とは別に実施するもの

D　クラブ活動など，特定の児童を対象として，教育課程内で実施するもの

E　学校を会場とするが，教育課程外のもの

F　学校外でのプログラミングの学習機会

Aについては，５学年の算数「正多角形」や，６学年の理科「電気の有効利用」の単元等で，学習指導要領に例示されています。

Bについては，図画工作の表現の領域でのプログラミングを取り入れた題材例を右のページで紹介しています。

小学校段階のプログラミングに関する学習活動は左の図のA～Fにように分類されています。

特に，AおよびBは，どちらも，各教科等での学びをより確実なものとするための学習活動として取り組むものです。

プログラミング教育の実施に当たっては，上記(1)の①，②をねらいとすること，各教科の内容を指導する中でプログラミング体験を行う場合には，これに加えて③のとおり，各教科の学びを確実なものにすることが必要です。

三つのねらいの実現を前提として，児童がプログラミングに取り組んだり，コンピュータを活用したりすることの楽しさや面白さ，ものごとを成し遂げたという達成感を味わうことが重要です。

重要!

## Ⅲ　単元展開の例

小学校　第１，２学年　図画工作　「だんボールでつくろう」

**だんボールを切ったりつなげたり，タブレットを使ってプログラミングをしたりしながら，自分たちがつくりたいものを表現してみよう。**

| 時 | 学習活動 |
|---|---|
| 1 | ○だんボールに入ったり，切ったり，つなげたりしながら，つくりたいものを考える。 |
| 2・3・4 | ○自分のつくりたいものを形にしていく。<br>・プログラミングで映したいものや動きを加えたいものがあれば，作成する。<br>・つくりたいものを共有し，つくり方を教わったり，遊んだりしながらさらに工夫をする。<br>○お互いの作品を鑑賞し合う。 |

**○だんボールを使った造形遊びに，プログラミングを組み合わせます。**
**○プログラムは，低学年でも取り組みやすいように絵や図を使ってプログラムを作る「Viscuit」等を使うとよいでしょう。**
**○だんボールを切り抜いて，タブレットの画面が見えるようにして，水族館や窓の外の風景を表現したり，プロジェクターをつないで投影すると，だんボールの中に模様を表示したりすることなどができます。**
**○子供の実態に合わせ，プログラミングを活用することで，表現活動が広がるようにします。**

**【授業実践例】**　　（Makers フェロープログラム 伊那市立伊那小学校の実践から）

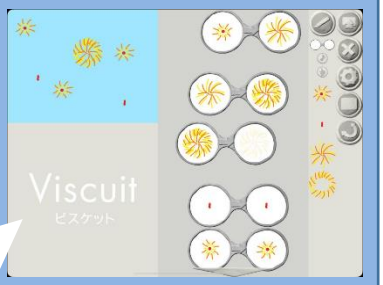
だんボールを切り貼りしてトンネルをつくり，滑り台にしたＡさんのグループ。
花火の上がる様子を表現に加えたいと考え，Viscuit で花火の模様が動く様子をプログラミングしました。タブレット端末とプロジェクターをつないで，だんボールの中に投影。「花火の中を滑りたい」という表現したい世界を実現しています。

制作した滑り台のトンネルの内側に花火をプロジェクターで投影

Viscuit を友達と検討。うまく花火が開くように試行錯誤しています。

Viscuit の画面をプロジェクターとつないで投影します。

Viscuit は，絵や図を使ってプログラムを作成します。直感的に操作ができるため，低学年でも取り組みやすくできています。




**参考資料**

■ **小学校プログラミングガイド「やってみよう!!」<長野県教育委員会学びの改革支援課>**
https://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/kyogaku/kyoshokuin/shiryo/documents/programingguide.pdf

■ **小学校プログラミング教育の手引（第三版）<文部科学省>**
https://www.mext.go.jp/content/20200218-mxt_jogai02-100003171_002.pdf

■ **小学校を中心としたプログラミング教育ポータル<文部科学省・総務省・経済産業省>**
https://miraino-manabi.mext.go.jp/

**小学校プログラミングガイド「やってみよう!!」**

**小学校プログラミング教育の手引き**

**小学校を中心としたプログラミング教育ポータル**

# 19　キャリア教育

## Ⅰ　本県が目指すキャリア教育

### 今の学びと将来をつなぐキャリア教育

キャリア教育とは

- 「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」と位置付けられています。
- 「キャリア」の語源は「轍（わだち）」です。キャリア教育では，子供たちが今学んでいることの積み重ねを，将来に向けての轍にしていこうとしています。

**Q なぜ，キャリア教育が必要なのですか？**

■ 子供たちの現状は　（学力調査等の結果から）

「改善傾向にある」が，「**学ぶことと自分の人生や社会とのつながり**を実感しながら，生活や社会の中で出会う課題の解決に**主体的に生かしていく**という学力には課題がある。」

■ 将来との関連性の見えぬまま学んだ「知」は

受験終了後に**剥落する**危険性がある。

文部科学省「科学技術に関する意識調査」(2001)

■ 子供が漕ぎ出す世の中は

「変化は加速度を増し，**複雑で予測困難**となってきて」いる。

■ そこでキャリア教育

○「各教科等での学びが，**一人一人のキャリア形成**や**よりよい社会づくりにどのようにつながっているのかを見据え**ながら，各教科等を**なぜ学ぶのか**，それを通じて**どういった力が身に付くのか**という，教科等を学ぶ本質的な**意義を明確にする**ことが必要になる。」

○「一人一人の可能性を引き出して豊かな人生を実現し，**個々のキャリア形成を促し**，社会の活力につなげていくことが，社会からも強く求められている。」

「　」内は中央教育審議会答申（平成28年12月21日）　**太字**は長野県教育委員会

## Ⅱ　キャリア教育を進めていくために

### １－①【学校の計画】目標設定は，自校の特徴に即し「基礎的・汎用的能力」を参考に焦点化

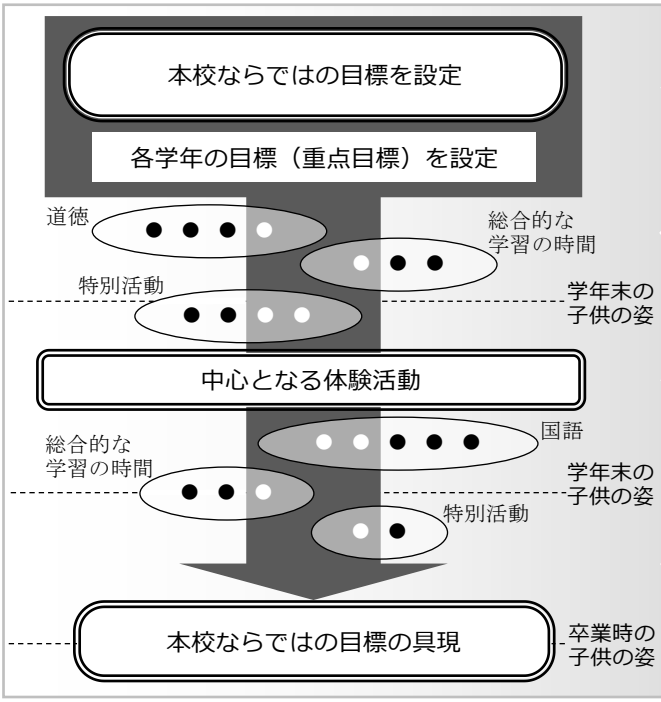
| | |
|---|---|
| 人間関係形成・社会形成能力 | 多様な他者を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画することができる力 |
| 自己理解・自己管理能力 | 自分と社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，進んで学ぼうとする力 |
| 課題対応能力 | 仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力 |
| キャリアプランニング能力 | 「働くこと」の意義を理解し，自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け，多様な生き方について，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力 |

この四つの能力は，それぞれ独立したものではなく，相互に関連・依存した関係にある。特に順序があるものではなく，また，これらの能力を全てのものが同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。

### １－②【学校の計画】目標設定は，以下の５点にも留意

- □ 具体的に・焦点化して　　焦点化することで，全職員が意識して取り組むための「合い言葉」になる
- □ 測定・検証可能な言葉で　　「○○ができるようになる」など，目指すべき姿を具体化した末尾にする
- □ 頑張れば達成できるレベルで　　全体目標を受け，学年間のつながりに留意しつつ学年目標を設定する
- □ 現実に即して　　「この地域の学校ならでは」「この子供たちだから」という視点で考える
- □ いつまでに達成するのかを明確にして　　「卒業までに」「学年末の３月までに」など

## １－③【学校の計画】①目標を設定し ②中心となる体験活動を据え ③事前・事後学習でつなぐ




学校や児童生徒の現状を把握し，達成の検証が可能な目標を設定する。
その目標を全職員の「合い言葉」にして貫く。

教科等の授業等には，「合い言葉」に関係したものがたくさんある。
それを見いだし，**中心となる体験活動**の事前・事後学習として位置付ける。

例えば中学校では職場体験学習などが想定されるが，その際も，「合い言葉」を達成するための指導を構想する。

事前・事後学習はキャリア教育の「下請け」ではない。
**中心となる体験活動**との関連を意識して指導すると，当該教科等の学習に対する意欲も向上することが報告されている。
両者は支え合う関係にある。

## ２【全体への指導】教育課程全体を通じて（教科等の授業においても）目標の達成を

Q 教科等の授業の中でキャリア教育も行うのですか？

■ 教科等の授業でねらうのは，あくまで，その教科等の目標です。

○「キャリア教育の視点」というブラックライトをあてるつもりで教科等の授業を見てみる。

○ そして単元（題材）の内容や授業展開の中に，キャリア教育としての価値が浮かび上がってくる場合に，その価値を見いだし，それを意識して指導する。

○ それは「余計なもの」ではなく，子供が教科学習の意義を実感できる授業につながる。

## ３－①【個別の支援】園・学校段階の発達段階を踏まえた声がけ働きかけを

| 幼稚園・保育所・認定こども園 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|---|---|---|---|
| **生涯にわたる人格形成の基礎を培う時期** | **進路の探索・選択に係る基盤形成の時期** | **現実的探索と暫定的選択の時期** | **現実的探索・試行と社会的移行準備の時期** |
| ○健康で安全な生活をつくり出す力を養う<br>○他の人々と親しみ，支え合い関わって生活する<br>○周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わる<br>○感性と表現する力の形成 | ○自己及び他者への積極的関心の形成・発展<br>○身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上<br>○夢や希望，憧れる自己のイメージの獲得<br>○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 | ○肯定的自己理解と自己有用感の獲得<br>○興味・関心等に基づく勤労観・職業観の形成<br>○進路計画の立案と暫定的選択<br>○生き方や進路に関する現実的探索 | ○自己理解の深化と自己受容<br>○選択基準としての勤労観・職業観の確立<br>○将来設計の立案と社会的移行の準備<br>○進路の現実吟味と試行的参加 |

## ３－②【個別の支援】教師の日常的な働きかけや子供の自己評価の蓄積を大切に

□ 子供が夢や希望をもてるような教師の語り，子供の夢や希望を発達段階に応じて後押しする声がけ，子供の自己決定を促すための「聞く」，「受け止める」姿勢に心がける。

□ 子供が学期末や学年末等に書く自己評価の蓄積や「キャリア・パスポート」などは貴重な学びの履歴である。記述の蓄積により子供自身が学んだことを振り返りながら新たな学習や生活への意欲につなげ，教師が対話的に関わることで自己実現の一助としていく。

## ４【人とのつながり】先生方が地域とつながり，信州型ＣＳの取組などとも連動しながら

□ 活力ある社会の実現に向け奮闘する魅力的な地域人材と子供が出会える機会をつくる。

# 組　織

1　学びの改革支援課　組織

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 参事兼<br>学びの改革<br>支援課長 | 臼井　　学 | 企画幹兼<br>課長補佐 | 新津　佳奈 | 教育幹兼<br>高校教育<br>指導係長 | 小口　雄策 |
| | | 教育主幹兼<br>義務教育<br>指導係長 | 一色　保典 | 主幹指導主事 | 徳永　佳代 |

(1)　学校企画係事務分担

| 職　氏　名 | 分　　担　　事　　務 | 副担当 |
|---|---|---|
| 学校企画係長<br>居鶴　吾郎 | ○係総括<br>○議会（文教委員会、請願・陳情）<br>○ＩＣＴ教育推進センター兼務業務<br>○デジタルワーク推進員<br>○総合教育センターに関する業務（予算編成を含む） | 井出 |
| 主　査<br>井出　洋文 | ○係長補佐<br>○予算編成（高校教育指導係分）<br>○その他会計監査関係対応（決算特別委員会、監査、会計検査）<br>○高校教育指導係関連事業の支援（信州つばさプロジェクト　等）<br>○文書事務・情報公開 | 居鶴 |
| 主　事<br>加藤　　愛 | ○予算執行（高校教育指導係分）、予算再配当<br>○旅費審査<br>○課内予算執行、ＡＤＡＭＳ（執行管理、決算）、調定<br>○給与、福利厚生<br>○庶務一般 | 竹内 |
| 主　事<br>遠藤　孝明 | ○予算編成（総括・義務教育指導係分）<br>○予算執行総括・決算（執行管理）<br>○事業改善シート、事務事業見直し、予算関連照会への回答<br>○各種照会（経理係）への対応<br>○物品・財産管理 | 加藤 |
| 主　事<br>竹内　愛恵 | ○中長期計画，政策評価、広報・広聴<br>○免許法認定講習（募集，受講決定，証明書発行）<br>○叙勲・表彰<br>○教科用図書無償給与<br>○「解説！学びの改革支援課」の作成・更新<br>○各種照会（総務係（庶務除く）、企画係、その他）への対応 | 遠藤 |
| 主任指導主事<br>齋藤　俊樹 | ○ＩＣＴ教育推進センター兼務業務<br>○教育課程「数学」に関すること | 居鶴 |
| 会計年度任用職員<br>林　　珠美 | ○ＩＣＴ教育推進センター兼務業務（情報セキュリティ監査）<br>○係全般の事務補助 | 丸山 |
| 会計年度任用職員<br>千原　明子 | ○ＧＩＧＡスクール構想加速化基金事業に関する業務補助<br>○係全般の事務補助 | 林 |
| 会計年度任用職員<br>丸山　香織 | ○課全般の事務補助 | 千原 |

(2) 課内 指導主事等 事務分担

| 係 | 係　長 | 指導主事等 | |
|---|---|---|---|
| 義務教育指導係 | 教育主幹兼義務教育指導係長<br>一色 保典 | 一色　保典 | 係総括，総合教育センターとの連携，校長会対応（校長通信），信濃教育会連携，支援を要する教員への研修，校長育成指標，教育指導時報，市町村教育委員会との連携・支援，連合教科研究会事務局，校長研修 |
| | | 浅沼　雅文 | 企画全般(課長会議，全県主事会，主任会，県小中，管理職研修，教頭研修会，教職員組合，議会対応，教育奨励，渉外，学びの基盤，等），個別最適な学び，教育指導時報 |
| | | 下條　拓也 | 学びの改革パイオニア校構築支援事業，学びの改革フォーラム運営・推進，教育課程（教育課程研究協議会　全県委員会　学校評価　研究指定校・研究開発校　特例校　青本　指導要録）年間計画，月歴，文部科学省・教職員支援機構対応，支援を要する教員への研修 |
| | | 田中　誠 | 信州幼児教育支援センター兼務(運営，幼保小連携)，小中連携・中高一貫，図書館教育，作文・絵画作品等審査，広報県民課(信濃の国・県庁見学) |
| | | 小川　浩貴 | 信州幼児教育支援センター兼務，幼年教育（訪問支援・研修），探究的な学び，「探究」研修プログラム開発，学校訪問支援（生活・総合），次代を担う中核教員養成研修，男女共同参画 |
| | | 五味　和高 | 長野県ICT教育推進センター兼務（長野県ICT学び推進協議会運営　管理・広報　市町村教委支援），統合型校務支援システム（C4ch）対応，CBT事務，デジタル教科書，認知や発達特性に応じた学びの充実，信州Makersキャンプ |
| | | 櫻田　誠二 | 長野県ICT教育推進センター兼務（学習指導，研修）DXリーディング校推進，ICT教育（みらいクリエーターズ，信州Makersフェロー，プログラミング教育）学校経営概要，中山間地域・へき地教育，個人情報保護・著作権，学校訪問支援（技術） |
| | | 大原　央之 | 学校訪問支援総括・推進，自然教育・野外教育（SDGｓ・環境教育，ユネスコスクール，緑の基金，信州環境カレッジ），科学教育（科学教育振興委員会，科学作品展，PASEO，科学の甲子園ジュニア，信州Makersキャンプ，放射線に関する教育，CST，発明くふう展），キャリア教育・進路指導，メタバース |
| | | 望月　光祐 | 文化部活動・小学校課外活動・地域部活動，芸術鑑賞事業（派遣事業巡回公演事業等），教科書（教科用図書選定審議会，デジタル教科書，副教材），NIE，学校訪問支援（音楽） |
| | | 武井　正樹 | 教員研修（初任者研修，指定研修，教員育成協議会，育成指標）研修履歴システム，新たな教職員の学び共同開発事業，主権者教育，租税教育，国旗・国歌，北方領土，総合教育センターとの連携 |
| | | 井出　幸輔 | 学力向上・授業改善統括（信州型UD，授業がもっとよくなる3観点），全国学力・学習状況調査（重点対策チーム，PDCAサイクル構築支援，CBT），連合教科研究会事務局，特別活動（学校行事，ライオンズクエスト），統計教育 |
| | | 小林　里美 | 道徳教育，免許法認定講習，教育指導時報，教科等研究の共催・後援，金融・消費者教育，福祉・ボランティア，マイスター教員研修，学校訪問支援（家庭），保健厚生課との連携（食育・防災教育），アドバンス・ラーナー，インクルーシブ教育 |
| | | 藤森　美紀 | 外国語教育（信州英語教育ルネサンス，新たな英語事業等），免許法認定講習，日本語指導員・外国人児童生徒等研修，「一人ひとりに合った学び実践校」設置検討会 |
| | | 伊藤　暢彦 | ICT教育推進センター兼務業務，予算編成担当，学校企画係関連業務（決算，監査等） |
| | | 橋爪　典子 | 信州幼児教育支援センター兼務業務，幼児教育コーディネーター |
| 高校教育指導係 | 教育幹兼高校教育指導係長<br>小口 雄策 | 小口　雄策 | 学校運営全般，高校入試改革 |
| | | 徳永　佳代 | 企画，カリキュラム編成支援，普通科改革(スクールミッション・フィードバックシステム)，中央研修，STEAMプラットフォーム推進，高大連携プロジェクト，生徒が主体性を育む交流会 |
| | | 塚田　武明 | 教育課程，DXハイスクール，SSH，科学オリンピアン養成講座，SAP，信州サイエンスキャンプ，科学・環境教育支援，フロンティアスピリッツ，「総則・総合的な探究の時間」担当 |
| | | 帶川　有美 | 外国語指導助手配置，開かれた学校づくり，学校評価，「特活」担当 |
| | | 三木　舞子 | キャリア教育，キャリア・チャレンジ・プログラム，就職指導，教科書・教材，探究Frontiers，学びの指標，消費者教育，「家庭・福祉」担当 |
| | | 高野　芙美 | WWLコンソーシアム構築支援事業(「個別最適な学習環境構築に向けた研究開発事業」)，国際理解教育，ESD，「美術」担当 |
| | | 佐久　浩信 | 海外での学び推進事業(信州つばさプロジェクト)，学校経営概要，道徳教育，主権者教育，新聞活用教育NIE，「地歴・公民」担当 |
| | | 中谷　幸裕 | KDDI・県立大共創プロジェクト，「未来の学校」構築，探Qフェスティバル，経済産業省「未来の教室」推進，「理科」担当 |
| | | 井上　和之 | 高校生学びのフォーラム長野・信州学，サマースクール，校務支援システム，算数・数学教育研究会，「数学」担当 |
| | | 山﨑　和也 | 修学旅行，指定研修，職業研修，JIBUN発旅するラボ，学校経営概要，芸術文化振興，教科競技振興，高文連，図書館教育，高校通信，「国語・書道」担当 |
| | | 城取　恭子 | 高大接続改革支援，高校アライアンス支援，基礎学力習得PDCA，信州英語教育ルネサンス，長期入院生徒学習支援，「英語」担当 |
| | | 榑沼　徹 | ICT教育推進センター業務兼務，ICT機器整備，ICTスキル研修，著作権，金融教育，「商業」担当 |

(3) 兼務指導主事等　分担

| | |
|---|---|
| 心の支援課所属 | 山寺政幸　塩入孝一　楠　武明　川口顕寛　太田一成　小山暁香<br>尾台弘枝　渡邉武志　佐々木洋一　宮之本奈津子 |
| 特別支援教育課所属 | 渡邉和幸　鶴田恵市　高坂秀明　今井友陛　北島　篤　井坪　信<br>伊藤健生　保坂　実 |
| 保健厚生課所属 | 出口哲朗　笠井佳代子　梅本絵里　小野直也　竹内正志　和田優子<br>小山啓太　和田直也　土橋裕樹　北村洋章 |

2　教育事務所（学校教育課）　組織

| | 地区 | 課長（所長）<br>主幹指導主事 | 主幹指導主事<br>（担当地区） | 主任指導主事<br>（※企画） | 担当指導主事<br>氏名 | 担当 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 東信<br>教育事務所 | 佐久<br>上小 | 松本　隆 | 田野　公章<br>（佐久）<br>小山　勲<br>（上小）<br>山口　真一 | 甘利　秀也※<br>上野　真一<br>（生徒指導） | 甘利　秀也 | 教育課程・学びの改革 |
| | | | | | 上野　真一 | 生徒指導 |
| | | | | | 堀内　陽子 | 学力向上・幼年教育 |
| | | | | | 髙野　昌生 | ICT教育 |
| | | | | | 清水　和 | 学力向上 |
| | | | | | 渡邉　秀吏 | 学校訪問支援・幼年教育 |
| | | | | | 上原　雄次 | 教員研修 |
| | | | | | 新海　千博 | 教員研修・人権教育 |
| | | | | | 倉澤　航 | 外国人児童生徒等指導 |
| | | | | | 濱嶋　健二 | 特別支援教育 |
| 南信<br>教育事務所 | 諏訪<br>上伊那 | 林　健司 | 山名　博夫<br>（諏訪）<br>中上　敬介<br>（上伊那）<br>有賀　稔 | 鎌倉　大和※<br>荻原　大輔<br>（生徒指導） | 鎌倉　大和 | 教育課程・学びの改革 |
| | | | | | 荻原　大輔 | 生徒指導 |
| | | | | | 三石　啓介 | 学校訪問支援 |
| | | | | | 白井　克典 | 教員研修・ICT教育 |
| | | | | | 垣内　孝康 | 学力向上 |
| | | | | | 熊谷　洋 | ICT教育 |
| | | | | | 矢野口まどか | 外国人児童生徒等指導 |
| | | | | | 中塚　洋介 | 教員研修 |
| | | | | | 北沢　康孝 | 幼年教育 |
| | | | | | 千野　貴正 | 人権教育・幼年教育 |
| | | | | | 宮坂　肇 | 特別支援教育 |
| 飯田<br>事務所 | 下伊那 | 細江　洋司 | 桂本　真司<br>（下伊那）<br>本村　栄次 | 板倉　新一 | 板倉　新一 | 生徒指導・人権教育 |
| 中信<br>教育事務所 | 松本<br>塩筑<br>安曇野<br>北安<br>木曽 | 栗林　勝幸 | 畑　邦弘<br>（松本，塩筑）<br>神屋　忍<br>（安曇野，北安，木曽）<br>丸山　広樹 | 鷲澤　貴夫※<br>櫻井　啓也<br>（生徒指導） | 鷲澤　貴夫 | 教育課程・学びの改革 |
| | | | | | 櫻井　啓也 | 生徒指導 |
| | | | | | 小沢正太郎 | 学力向上・学校訪問支援 |
| | | | | | 高橋　堅 | 教員研修 |
| | | | | | 両角　穂 | 学力向上 |
| | | | | | 吉沢　寛之 | ＩＣＴ教育 |
| | | | | | 上原　啓子 | 幼年教育・学校訪問支援 |
| | | | | | 橋爪　祐一 | 外国人児童生徒等指導 |
| | | | | | 荻原　忍 | 人権教育・教員研修 |
| | | | | | 上本　忍 | 特別支援教育 |
| 北信<br>教育事務所 | 長野<br>上水内<br>中高<br>飯水<br>更埴<br>上高井 | 塚田　智紀 | 戸谷　明子<br>（長野上水内）<br>清水　秀朗<br>（長野上水内、更埴）<br>三ッ石　誠司<br>（中高飯水、上高井）<br>志川　真一 | 宮原　理恵※<br>伊藤　雅之<br>（生徒指導） | 宮原　理恵 | 教育課程・学びの改革 |
| | | | | | 伊藤　雅之 | 生徒指導 |
| | | | | | 小林　順 | ICT教育 |
| | | | | | 百田　美希 | 学校訪問支援 |
| | | | | | 北原　真司 | 学力向上・ICT教育 |
| | | | | | 宮崎　崇 | 教員研修 |
| | | | | | 掛川由加子 | 人権教育 |
| | | | | | 荻原　大輔 | 外国人児童生徒等指導 |
| | | | | | 池内　周己 | 幼年教育 |
| | | | | | 松本　健二 | 特別支援教育 |

3　指導主事の教科等分担

| 教科等／所属 | 学びの改革支援課等 | 東信教事 | 南信教事<br>※飯田事務所 | 中信教事 | 北信教事 | 総合教育センター等 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 主　任 | 浅沼　雅文　下條　拓也<br>田中　　誠 | 甘利　秀也 | 鎌倉　大和<br>※板倉　新一 | 鷲澤　貴夫 | 宮原　理恵 | 下平　将揮　村松　史貴<br>樋口由紀子 |
| 国　語 | 田中　　誠　山﨑　和也 | 堀内　陽子 | 三石　啓介<br>（鎌倉　大和） | 小沢正太郎 | 小林　　順 | 水野　真澄　入山　　愛<br>上條　大樹 |
| 社　会 | 武井　正樹　佐久　浩信<br>（下條　拓也）　（徳永　佳代） | 髙野　昌生 | 白井　克典 | 高橋　堅 | 百田　美希<br>（宮原　理恵） | 間宮亜武呂　高山　　純<br>原　　啓吾 |
| 算数・数学 | 井出　幸輔　井上　和之<br>（浅沼　雅文） | 清水　　和 | 垣内　孝康 | 両角　穂<br>（鷲澤　貴夫） | 北原　真司 | 下平　将揮　杉浦　香織<br>井口　哲平　中島　和紀<br>北村　保勝 |
| 理　科 | 大原　央之　中谷　幸裕<br>（塚田　武明） | 渡邉　秀吏 | 熊谷　洋 | 吉沢　寛之 | 宮崎　崇 | 久保田美千代　岡宮　隆吉<br>大石　英一　山本　淳一<br>矢口　　裕 |
| 生　活<br>総合的な学習の時間 | 小川　浩貴　塚田　武明<br>田中　　誠 | （池内　周己）<br>（甘利　秀也） | （上原　啓子） | 上原　啓子 | 池内　周己 | 久保田美千代　岡宮　隆吉<br>山本　淳一 |
| 音　楽 | 望月　光祐　斎藤　俊樹 | （望月　光祐） | （石田　雄太） | （石田　雄太） | （望月　光祐） | 石田　雄太 |
| 図画工作・美術 | 望月　光祐　髙野　芙美 | （城本　重慶） | 北沢　康孝 | （北沢　康孝） | （城本　重慶） | 城本　重慶 |
| 書　道 | 山﨑　和也 | | | | | 水野　真澄 |
| 体育・保健体育 | 出口　哲朗　小山　啓太<br>和田　直也　土橋　裕樹<br>北村　洋章 | 上原　雄次 | 中塚　洋介 | （中塚　洋介） | （上原　雄次） | 村松　史貴　目黒　健太<br>有賀　浩之　矢口　敦美 |
| 家　庭<br>技術・家庭 | 小林　里美　三木　舞子<br>櫻田　誠二　（五味　和高） | （小林　里美）<br>（櫻田　誠二） | （小林　輝紀）<br>（北原　大介） | （小林　輝紀）<br>（北原　大介） | （小林　里美）<br>（櫻田　誠二） | 小林　輝紀<br>北原　大介 |
| 外国語 | 藤森　美紀　城取　恭子 | 倉澤　　航 | 矢野口まどか | 橋爪　祐一 | 荻原　大輔 | 野口　育美　濱田　敦子<br>樋口由紀子 |
| 道　徳<br>人権教育 | 小林　里美　佐々木洋一<br>尾台　弘枝　宮之本奈津子<br>渡邉　武志 | 新海　千博 | 千野　貴正<br>※板倉　新一 | 荻原　　忍 | 掛川由加子 | 野口　育美 |
| 特別活動 | 井出　幸輔　帶川　有美 | 甘利　秀也 | 鎌倉　大和<br>※板倉　新一 | 鷲澤　貴夫 | 宮原　理恵 | 下平　将揮 |
| 幼年教育 | 小川　浩貴　田中　　誠 | 渡邉　秀吏 | 千野　貴正 | 上原　啓子 | 池内　周己 | 久保田美千代　石田　雄太<br>間宮亜武呂 |
| 特別支援教育 | 鶴田　恵市　井坪　　信<br>高坂　秀明　伊藤　健生<br>今井　友陛　保坂　　実<br>北島　　篤 | 濱嶋　健二 | 宮坂　肇 | 上本　　忍 | 松本　健二 | 山本由貴美　下平　玲夏 |
| 健康安全教育 | 笠井佳代子　梅本　絵里<br>小野　直也　和田　優子<br>竹内　正志 | 上原　雄次 | 中塚　洋介 | 高橋　堅 | 松本　健二 | |
| 生徒指導 | 塩入　孝一　太田　一成<br>楠　　武明　小山　暁香<br>川口　顕寛 | 上野　真一 | 荻原　大輔<br>※板倉　新一 | 櫻井　啓也 | 伊藤　雅之 | 上條　勇人　中山　美穂 |
| 専門教育 | | | | | | 塩島　淳志　岡沢　啓司<br>小林　邦之　市瀬　利之 |

4　総合教育センター　組織

| 所　長 | 浅井　秀俊 | 次長兼総務部長 | 中澤　昭 |
|---|---|---|---|

| 部 | 部　長 | 氏　名 | 主な分担 | 事業別 |
|---|---|---|---|---|
| 企画調査部 | 五味　　隆 | 上條　大樹 | 企画調整,調査研究,教員研修 | (教員研修・学校訪問支援) |
| | | 北村　保勝 | 研修講座管理,講座申込受付 | |
| | | 矢口　　裕 | 広報,教育機関調整 | |
| 教科教育部 | 五味　　隆<br>(兼務) | 下平　将揮 | 主任指導主事,算数,特活 | (教育課程・学びの改革) |
| | | 村松　史貴 | 主任指導主事,体育・保健体育 | |
| | | 水野　真澄 | 国語,書写 | (学力向上) |
| | | 間宮亜武呂 | 社会 | (幼年教育) |
| | | 杉浦　香織 | 数学 | |
| | | 久保田美千代 | 生活,総合,理科(生物),幼年教育 | (幼年教育) |
| | | 岡宮　隆吉 | 理科(地学) | (ICT教育) |
| | | 大石　英一 | 理科(化学) | |
| | | 山本　淳一 | 理科(物理) | |
| | | 石田　雄太 | 音楽 | (幼年教育) |
| | | 城本　重慶 | 図工・美術 | (学校訪問支援) |
| | | 目黒　健太 | 体育・保健体育 | |
| | | 有賀　浩之 | 体育・保健体育 | |
| | | 矢口　敦美 | 体育・保健体育 | |
| | | 北原　大介 | 技術 | (ICT教育) |
| | | 小林　輝紀 | 家庭 | (学校訪問支援) |
| | | 野口　育美 | 道徳,外国語活動,外国語(英語) | (外国人児童生徒等指導・学力向上) |
| | | 濱田　敦子 | 外国語(英語) | |
| 教職教育部 | 早川　清志 | 樋口由紀子 | 主任指導主事,高校管理職研修等 | |
| | | 入山　　愛 | 高校初任研等 | |
| | | 高山　　純 | 高校経年研等 | |
| | | 中島　和紀 | 高校経年研等 | |
| | | 井口　哲平 | 義務経年研等,義務管理職研修等 | |
| | | 原　　啓吾 | 義務初任研等,義務管理職研修等 | |
| 生徒指導・特別支援教育部 | 大鷹　宏彰 | 上條　勇人 | 生徒指導,教育相談 | (生徒指導) |
| | | 中山　美穂 | 生徒指導,教育相談 | (生徒指導) |
| | | 山本由貴美 | 特別支援教育,教育相談 | (特別支援) |
| | | 下平　玲夏 | 特別支援教育,教育相談 | (特別支援) |
| 情報・産業教育部 | 神津　武文 | 塩島　淳志 | 情報教育,農業 | |
| | | 岡沢　啓司 | 情報教育,工業,家庭,福祉 | |
| | | 小林　邦之 | 情報教育,工業 | |
| | | 市瀬　利之 | 情報教育,商業 | |
| | | 井刈　瑞恵 | 情報・産業教育支援,教育情報 | |

◎研修派遣

| 所属部署 | 氏　名 |
|---|---|
| 企画調査部 | 荻原　　拓 |
| 生徒指導・特別支援教育部 | 宮澤　泰春,　髙野　利彦,　二藤　和昌 |
| 情報・産業教育部 | 武内　伸之,　片田　章幸 |

5　生涯学習推進センター　組織

| 所　長 | 原　健治 |
|---|---|

| 氏　名 | 主な分担 |
|---|---|
| 中島　　章 | 主任指導主事,研修講座プログラム企画 |
| 村松　史貴（兼務） | 主任指導主事,生涯スポーツ |
| 望月ゆかり | 指導者養成研修講座企画運営他 |
| 目黒　健太（兼務） | 生涯スポーツ |
| 有賀　浩之（兼務） | 生涯スポーツ |
| 矢口　敦美（兼務） | 生涯スポーツ |

# 令和６年度　学校支援の基本方針

学びの改革支援課

令和6年度　教育課程・学習指導改善の目標

**一人の子供も取り残されない「多様性を包み込む」学びの推進**

〈目指す学びの改革〉

**重点１**
資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

**「探究する授業」**

子供たちが主体的に学び，仲間と共に解を導き出す学びへの転換

**重点２**
カリキュラム・マネジメントの充実による教育活動

**「共創する教育課程」**

**重点３**
家庭や地域社会との連携・協働

**「つながる学校」**

## 学びの改革への支援

### 授業改善を支援する訪問（単元訪問）

・指導主事、専門主事が、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を支援します。

### 学校づくりに関わる訪問（ゾーン訪問）

・ゾーン担当指導主事を中心に、学校の要望に寄り添い、校内研修等を支援します。

### 「学びの改革パイオニア校」構築支援事業

・学びの改革パイオニア校の取組を県内の先生方へ情報提供していきます。また、全ての先生方対象に「学びの改革ミニフォーラム」等の学びの場を提供します。

### 初任者研修・指定研修

・先生方のキャリアステージに応じ、初任研やキャリアアップ研修など、教職キャリア全体を俯瞰し、学び続け、力量の向上の機会を提供します。

**１人１台端末等のICT環境**

**信州型ユニバーサルデザインの考え方**

**長野県教員育成指標**

教育課程編成・学習指導の基本

令和６月３月１日印刷
令和６年４月１日発行

編集兼　長野県教育委員会事務局
発行者　学 び の 改 革 支 援 課